

事務事業及び予算の執行実績

(令和6年度分「一部、令和7年度分を含む」)

静岡県工業技術研究所

沼津工業技術支援センター

目 次

第1 工業技術研究所全体[事務事業]	
I 事務事業の概要	1
1 概況	1
(1) 工業技術研究所の沿革	1
(2) 工業技術研究所全体の事業概要	3
(3) 工業技術研究所及び各工業技術支援センターの状況	4
ア 工業技術研究所（静岡市）	4
(ア) 地域の概要	4
(イ) 事業の概要	5
イ 沼津工業技術支援センター（沼津市）	6
(ア) 地域の概要	6
(イ) 事業の概要	6
ウ 富士工業技術支援センター（富士市）	7
(ア) 地域の概要	7
(イ) 事業の概要	8
エ 浜松工業技術支援センター（浜松市）	9
(ア) 地域の概要	9
(イ) 事業の概要	9
(4) 工業技術研究所及び各工業技術支援センターの施設の概要	10
ア 工業技術研究所（静岡市）	10
イ 沼津工業技術支援センター（沼津市）	11
ウ 富士工業技術支援センター（富士市）	11
エ 浜松工業技術支援センター（浜松市）	11
(5) 組織図	12
ア 工業技術研究所（静岡市）	12
イ 沼津工業技術支援センター（沼津市）	13
ウ 富士工業技術支援センター（富士市）	13
エ 浜松工業技術支援センター（浜松市）	14
2 事務又は事業の目的、計画及び実績（成果）並びに評価（課題等）及び改善	15
(1) 総務事務	15
(2) 試験研究、調査及び指導事務	17
ア 研究開発	17
(ア) 研究課題	17
(イ) 外部研究員招へい事業	32
(ウ) 特許等の登録及び出願	38
イ 技術相談等	43
(ア) 技術相談	43
(イ) 依頼試験、機器使用及び研究施設等使用	45
(ウ) 研究会の育成	52
(エ) 研修生の受入れ	53
ウ 技術情報提供	57
(ア) 研究報告関係	57
(イ) 研究発表会関係	57
(ウ) 研究所情報等の提供	62
(エ) 研究所の事業広報等	62
(オ) 講習会等	63
(カ) 講師活動	70
(キ) 委員派遣	80
(ク) 産業技術連携推進会議等への派遣	96
(ケ) 学会等への発表、外部発行誌等への投稿及び展示会への出展	102
エ その他	115
(ア) 産学官連携コーディネーター体制強化事業	115
(イ) 資質向上研修	115
オ 評価・改善	116
(3) 事業の根拠法令調	120

目 次

II 職員状況	
1 職員調	121
2 職員の年齢調	127
3 健康管理	128
4 職員配置調	129
第2 沼津工業技術支援センター（沼津市）〔財務事務〕	
1 歳入予算執行状況調	130
2 県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調	134
3 保管現金有高調	135
4 預金調	135
5 郵券等受払調	136
6 歳入歳出外現金調	137
7 歳出予算執行状況調	138
8 委託料等歳出予算執行状況節別集計表	143
9 委託料に関する調	145
10 負担金支出調	152
11 建築工事調	154
12 公有財産調	158
13 借地借家等調	159
14 事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	160
15 行政財産貸付・使用許可調	161
16 備品・図書調	162
17 主要備品調	166
18 生産物受払調	167
第3 試験研究成果一覧表〔研究所全体〕	171

（注）第1・3は、工業技術研究所全体（沼津・富士・浜松工業技術支援センターを含む。）を記載
第2は、沼津工業技術支援センター（沼津市）分のみ計上

第 1 工業技術研究所全体

【事務事業】

I 事務事業の概要

1 概況

(1) 工業技術研究所の沿革

- 明治39年 3月 「静岡県工業試験場（紙業部、漆器部、庶務部）」を静岡市追手町に、「染織部」を浜名郡天神町村馬込（現浜松市）に設置し、同年11月に開場
- 大正 2年 12月 「静岡県工業試験場（紙業部、漆器部、庶務部、染色科）」を静岡市水落町に移転
- 大正 4年 9月 「染織部」を「静岡県工業試験場浜松分場（染織部、図案部、庶務部）」に改称
- 大正 7年 「静岡県工業試験場浜松分場」を浜松市北寺島町に移転
- 大正 8年 12月 「静岡県工業試験場」を安倍郡豊田村南安東（後瓦場町、現静岡市葵区太田町）に移転
- 大正 9年 2月 「静岡県工業試験場」を「静岡県静岡工業試験場」に、「静岡県工業試験場浜松分場」を「静岡県浜松工業試験場」に改称
- 昭和12年 11月 「製紙部」を廃止、「静岡県製紙工業試験場」を富士郡今泉村（現富士市今泉）に設置
- 昭和13年 「静岡県工業試験場島田分場」を志太郡島田町に設置
- 昭和27年 4月 「静岡県浜松工業試験場」を「静岡県浜松繊維工業試験場」に、「静岡県製紙工業試験場」を「静岡県紙業指導所」に改称
- 昭和28年 1月 「静岡県静岡工業試験場」を静岡市安倍川町（現葵区駒形通5丁目）に移転
- 昭和28年 「静岡県工業試験場島田分場」を廃止
- 昭和32年 4月 「静岡県紙業指導所」を「静岡県製紙工業試験場」に改称
- 昭和36年 4月 「静岡県静岡工業試験場」を「静岡県工業試験場」に改称
- 昭和36年 6月 「静岡県工業試験場浜松分場」を浜松市小池町に設置
- 昭和38年 1月 「静岡県工業試験場浜松分場」を「静岡県機械技術指導所」と改称
- 昭和38年 12月 「静岡県製紙工業試験場」を吉原市伝法（現富士市永田北町）に移転
- 昭和42年 6月 「静岡県浜松繊維工業試験場福田技術指導所」を磐田郡福田町（現磐田市大原）に開所
- 昭和57年 12月 「静岡県工業試験場」を現在地（静岡市葵区牧ヶ谷）に移転
- 昭和59年 4月 「静岡県工業試験場」を「静岡県工業技術センター」に改称
- 平成 2年 4月 「静岡県工業技術センター」を「静岡県静岡工業技術センター」に改称、「沼津工業技術センター」を現在地（沼津市大岡）に開設
- 平成 3年 4月 「静岡県製紙工業試験場」を現在地（富士市大淵）に移転し、機械・電子部門を加え、「静岡県富士工業技術センター」に改称、「静岡県浜松繊維工業試験場」と「静岡県機械技術指導所」を統合し、光・電子部門を加え、「静岡県浜松工業技術センター」として浜松市北区（現浜名区）新都田1丁目に移転、開設

平成 4 年		「静岡工業技術センター」に開放棟が完成
平成 12 年	4 月	「静岡工業技術センター」に「健康食品プロジェクトスタッフ」を設置
平成 13 年	4 月	「静岡工業技術センター」に「ユニバーサルデザインプロジェクトスタッフ」を設置
平成 14 年	4 月	「静岡工業技術センター」に「マイクロステージプロジェクトスタッフ」を設置
平成 14 年		都市エリア産学官連携促進事業（一般型）開始
平成 15 年	4 月	健康食品プロジェクトの研究期間終了に伴い同スタッフを廃止
平成 15 年		連携大学院制度開始
平成 16 年	4 月	「静岡工業技術センター」に「音響材料プロジェクトスタッフ」を設置、ユニバーサルデザインプロジェクトの研究期間終了に伴い同スタッフを廃止
平成 17 年	4 月	マイクロステージプロジェクトの研究期間終了に伴い同スタッフを廃止
平成 17 年		都市エリア産学官連携促進事業（発展型）開始
平成 18 年	4 月	「静岡工業技術センター」に「人間住環境プロジェクトスタッフ」、「おい計測プロジェクトスタッフ」を設置
平成 19 年	4 月	「沼津・富士・静岡・浜松工業技術センター」を統合し、「静岡県工業技術研究所」とし、「沼津・富士・浜松工業技術センター」を「工業技術支援センター」と名称変更、浜松工業技術支援センターにレーザー計測制御プロジェクトスタッフを設置
平成 20 年	4 月	「静岡県工業技術研究所」に「えん下改善プロジェクトスタッフ」を設置
平成 21 年	4 月	「富士工業技術支援センター」に「高度コーティングプロジェクトスタッフ」を設置、人間住環境プロジェクト、おい計測プロジェクトの研究期間終了に伴い同スタッフを廃止
平成 22 年	4 月	「沼津工業技術支援センター」に「微生物抗体開発プロジェクトスタッフ」を設置、レーザー計測制御プロジェクトの研究期間終了に伴い同スタッフを廃止
平成 23 年	4 月	「静岡県工業技術研究所」に「バイオマス循環プロジェクトスタッフ」を設置)、えん下改善プロジェクトの研究期間終了に伴い同スタッフを廃止
平成 23 年	9 月	文部科学省から科研費応募資格を有する研究機関としての指定を受ける
平成 24 年	4 月	高度コーティングプロジェクトの研究期間終了に伴い同スタッフを廃止
平成 25 年	4 月	微生物抗体開発プロジェクトの研究期間終了に伴い同スタッフを廃止
平成 26 年	3 月	「ものづくり産業支援窓口」を開設
平成 26 年	4 月	バイオマス循環プロジェクトの研究期間終了に伴い同スタッフを廃止
平成 28 年	9 月	「静岡県デザイン相談窓口」を開設
平成 29 年	4 月	「富士工業技術支援センター」製紙科を製紙・CNF科に改称
平成 30 年	4 月	「静岡県工業技術研究所」、「浜松工業技術支援センター」の機械科・電子

科をそれぞれ機械電子科として統合、「富士工業技術支援センター」の製紙・CNF科を製紙科、CNF科に改編、「静岡県工業技術研究所」の環境科を環境エネルギー科に改称

平成30年10月	「浜松工業技術支援センター」に「車載機器用EMC試験施設」が完成
令和元年	「富士工業技術支援センター」に「ふじのくにCNF研究開発センター」、「静岡大学CNFサテライトオフィス」、「CNFラボ（3室）」を開設
令和元年11月	「静岡県工業技術研究所」に「IoT推進ラボ」を開設
令和2年	遠隔技術相談システムを整備
令和3年11月	「IoT推進ラボ」のサテライトラボを「浜松工業技術支援センター」、「沼津工業技術支援センター」に開設
令和4年6月	「富士工業技術支援センター」に「富士市CNF連携拠点」を設置
令和5年1月	「デジタルものづくり相談窓口」を開設
令和5年9月	「浜松工業技術支援センター」に「デジタルものづくりセンター」を開設
令和7年4月	「静岡県工業技術研究所」に「未利用食材活用トライアル拠点」を開設

（2）工業技術研究所全体の事業概要

地域産業に最も近い技術支援機関として、研究開発、依頼試験・設備使用、技術相談・人材育成、技術情報の提供、産学官連携の促進や周辺地域の公設試験研究機関との連携強化等を通じて、ものづくりを行う県内中小企業の技術開発や課題解決を支援している。

特に、地域に根ざした産業や県の産業振興施策である先端産業育成プロジェクトをはじめとする集積を目指す産業分野の技術（光・照明・音響、製紙、食品・バイオテクノロジー、環境エネルギー、生活製品）、工業全般の基礎となる技術（材料、機械・電子、情報通信）において、地域産業の振興、新たな産業の創出等の基礎となる技術力の向上を支援している。

近年は、人口減少等による急速な人手不足の顕在化や車の電動化・自動運転等の著しい技術革新への対応等、中小企業を取り巻く環境は大きく変化しており、企業ニーズに対応した支援を推進するため、生産性向上を目的としたIoTに関する研究支援、電気自動車を始めとする次世代自動車に関する研究支援、新たな素材として期待されるセルロースナノファイバー（CNF）に関する研究支援、ものづくりをデジタルデータに基づいて一貫して行うデジタルものづくりに関する研究支援について、工業技術研究所の各機関が連携した取組を進めている。

県内産業界を一体的に技術支援できる組織体制とするため、平成19年度には沼津・富士・静岡・浜松工業技術センターを統合し、工業技術研究所（静岡市）とし、その下に沼津・富士・浜松工業技術支援センターを配置した。

平成24年9月、工業技術研究所全体で、文部科学省から科研費応募資格を有する研究機関としての指定を受けた。平成26年に「ものづくり産業支援窓口」、平成28年「デザイン相談窓口」、令和5年「デジタルものづくり相談窓口」を開設し、県内企業の製品開発等の支援に取り組んでいる。

これらにより、企業が取り組む研究開発、製品設計・生産、品質管理における技術課題の解決のための支援が強化された。

○ 主要事業

ア 研究開発

新成長戦略研究、経常研究、共同研究、受託研究を行い、地域産業の技術基盤の強化や先端技術の開発による産業支援を行う。

イ 依頼試験・設備使用

地域企業の新製品開発や性能評価のため、依頼試験や試験機器・施設等を開放し、技術支援を行う。

ウ 技術相談・人材育成

中小企業の技術相談や各種研修会・講習会を開催し、地域産業の技術力向上に努める。

エ 技術情報の提供

研究所のウェブサイトやメールマガジン、センターニュース、また各種技術講演会を通じて、地域の中小企業を中心に、製造技術や製品開発に必要な技術情報を提供する。

オ 産学官連携の促進

静岡県工業技術研究所産学官連携推進コーディネータを配置し、地域企業の技術情報の共有化や研究開発の支援等を通じた地域企業、大学、支援機関との連携強化を図っている。

他県の公設試験研究機関との連携を密にするため、関東経済産業局管内の首都圏公設試験研究機関連携体（首都圏テクノナレッジ・フリーウェイ（TKF））や、中部経済産業局管内の中部イノベネットに参画し、情報交換や広域連携による域内企業の支援強化を進めている。

カ 先端産業創出プロジェクト等の推進

先端産業創出プロジェクト（ファルマバレープロジェクト、フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションプロジェクト、フォトンバレープロジェクト、次世代自動車プロジェクト、ふじのくにCNFプロジェクト、マリンオープンイノベーションプロジェクト等）による産業イノベーション拠点の形成事業や中小企業の成長分野への進出を支援する新成長産業戦略的育成事業と相互に連携することにより、新技術・新製品の開発を促進する。

(3) 工業技術研究所及び各工業技術支援センターの状況

ア 工業技術研究所(静岡市)

(ア) 地域の概要

当研究所が所在する中部地域は、静岡市を中心に江戸時代から発達した漆塗等の技術と豊富な森林資源を活かし、家具、雛具等の伝統工芸産業が集積している。また、焼津市や静岡市清水区を中心に豊富な農水産物を原料とした全国有数の食品加工産業が集積しており、かつお・まぐろ類缶詰、冷凍水産食品等は、日本一の生産量を誇る。さらに大手医薬品製造者の生産拠点や車載光学機器を中心とした化成品産業が集積している。

中部地域は、先端産業創出プロジェクトにおける「フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションプロジェクト」の中心的な地域であり、平成20年度から始まった「総合食品学講座」の人材育成事業においては、公益財団法人静岡県産業振興財団や静岡県公立大学法人静岡県立大学と共に参画し、既存産業の高度化や新たな食品関連産業の創出に努めている。

また当所が開発した中小食品製造業者向け食品廃棄物のエネルギー利用を目的とした小型

メタン発酵プラントについては、その事業化を目指した「静岡県小型メタン発酵プラント事業化推進協議会」が、13の食品加工・製造企業やプラントメーカー等により設立され、食品工場等にパイロットプラントを設置し、有効性や採算性について実証試験を実施した。

(イ) 事業の概要

当研究所では、平成19年度に企画調整機能を集約化して企画調整部を設け、研究所と各支援センターが一体となって県内産業界を総合的に支援できるよう、研究所全体の企画調整、機器整備等の計画策定、技術情報の集約・一元的な発信、産学官の連携強化等を行っている。

金属材料科・化学材料科・機械電子科では、県内中小製造業に対し、構造材料・表面加工技術の向上、ものづくり技術の高付加価値化や製品設計の高度化等共通基盤技術を支援しており、企業との共同研究にも積極的に取り組んでいる。

その中で、金属材料科は次世代自動車向け軽量素材の利用促進を目的に、半熔融成形や樹脂へのめっきに関する技術開発に取り組み、化学材料科では、脱炭素化の取り組みとして、樹脂と植物性素材C N Fの複合材料の開発に取り組んでいる。

機械電子科では、I o T、A Iに関する研究を中心に企業の生産性向上に向けた支援に取り組むとともに、企業の最新のI o T関連機器を展示する「静岡県I o T推進ラボ」を所内に開設し、講習会や実証実験等を通し、企業にI o Tによる生産工程の見える化等を体験する機会を提供している。

照明音響科では、県中部地域に集積する車載光学機器産業を中心とした照明関連産業の振興を図るため、シミュレーションや精密形状測定、配光測定等を活用し、設計、生産、評価と一貫した支援に取り組んでいる。これまでに、自動運転に必要なコミュニケーションライティングシステム用樹脂レンズの金型製造を可能とするための超精密な加工技術の開発に成功している。また、所有機器のうち「配光測定装置」は、一般照明用と自動車のヘッドランプ用の2種類に加えて微小光源用を整備しており、全国的にもこれらの設備を揃えている公設試験研究機関は当所だけであり、県内外の企業の新たな製品開発を支援している。

食品科は、県中部地域に集積している食品産業の振興を図るため、地域資源（お茶、海藻等）や未利用食材の利活用に関する研究や人材育成を行い、「フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションプロジェクト」推進の一翼を担っている。令和元年度からは、支援の対象となる技術分野を化粧品・化成品分野へも拡大した。また、令和7年4月に開始された「静岡ウェルネスプロジェクト」の一環として「未利用食材活用トライアル拠点」を開設し、未利用食材を活用した新商品開発の支援を開始した。

環境エネルギー科では、排水処理技術やバイオマスを利用したエネルギー回収技術等の研究や支援業務を行っている。平成26～28年度に実施した新成長戦略研究「分散型エネルギー社会に貢献する小型メタン発酵プラントの開発」で試作した小型プラントについて、県内食品・製造企業における実証試験を実施し、普及に向けてデータを情報公開している。また、県単独研究「好気性グラニュールを利用した省スペース型高濃度窒素排水処理装置の開発」において、高負荷排水にも対応したコンパクトな新たな処理装置を開発した。

ユニバーサルデザイン科では、ユニバーサルデザイン製品・福祉用具・医療機器等の県内関連産業を支援している。人口減少・少子・高齢社会が求める新たな価値の発見と魅力の創造に向けて、人間特性評価・U X ・U I 等の研究に取り組んでいる。またデザインに関する

相談やデザイナーとのマッチング等の支援にも取り組んでいる。

工芸科では、家具・住宅等県内の生活関連産業を支援している。県産材の需要拡大につながる木製品の付加価値向上や、快適な生活空間の創造に向けて有害物質の評価、木製家具等の強度・耐久性試験等の研究に取り組んでいる。

イ 沼津工業技術支援センター(沼津市)

(ア) 地域の概要

当センターが所在する県東部地域は、戦前海軍工廠に納める精密ネジを作る企業があった。

戦後多くのネジ製造企業が独立し、現在では自動車関連の部品製造企業となっている。芝浦機械(株)や(株)リコーといった大企業が存在することから、精密加工を行う企業、プリンター部品を製造する企業も多い。

また、医薬品・医療用機器製造業も集積しており、地域の企業に対する医療用機器分野への参入を支援する取組も行われている。

県では、平成14年9月に開院した県立静岡がんセンターを核とした医療産業から健康産業まで広がる富士山麓先端健康産業集積(ファルマバレー)プロジェクトを推進しており、平成15年4月に、その中核的な支援機関であるファルマバレーセンターが開設された。当初より、当センターでは、年間7回程度開催するネットワーク会議にキーメンバーとして参加している。なお、令和3年度からは、コロナ禍を機にオンライン会議も取り入れて開催されている。

また、平成21年度からは医用機器等開発テーマ実現化会議へ委員を派遣し、この会議を経て令和元年度は「富士山麓から医療機器開発へ」ふじのくに医療機器産業活性化推進事業支援コーディネータとして活動した。

なお、ファルマバレープロジェクトは、①平成23年12月に東部地域12市町が内閣府より地域活性化総合特区「ふじのくに先端医療総合特区」として指定を受け、平成25年7月には文部科学省等補助事業「地域イノベーション戦略支援プログラム(国際競争力強化地域)」に採択、②平成28年9月、県立静岡がんセンター至近に医療健康産業研究開発センターの開設、③平成29年8月に(一財)ふじのくに医療城下町推進機構として設立された財団の公益財団法人化(平成31年4月)の動きを受け、ますます活動は加速化している。あわせて、令和元年12月に締結した本県と山梨県との医療健康産業政策の連携協定により、積極的な情報交換を進めている。

(イ) 事業の概要

当センターは、県東部地域の中小企業の技術力の強化・向上の支援、地域産業界全体の技術振興を目的として設置された試験研究機関である。バイオ科及び機械電子科の2科を設け、酵母等の発酵技術、ものづくりの基盤となる機械・電子技術により地域産業を支援するとともに、医療福祉分野等の試験研究や技術支援を通じてファルマバレープロジェクト等の東部地域の新産業育成に貢献している。

バイオ科は、工業技術研究所で唯一のバイオテクノロジー担当部門として、東部地域にとどまらず県下全域を対象としている。平成27年度から平成29年度まで県の5研究所と関係産業界が協働して行った新成長戦略研究「食の都しずおかの微生物を用いた新しい発酵食品ビジ

ネスの創出」でしずおか有用微生物ライブラリーを構築した。本研究のなかで、発泡性日本酒やオリジナルビールの開発といった新しい取り組みに成功し、このライブラリーを活かした新たな発酵ビジネスの創出に貢献した。これにより、本県の地域資源等から得た有用微生物によって構築されたライブラリーの微生物株の県内企業への分譲が進んでいる。さらに、令和2年度から令和4年度まで水産・海洋技術研究所が中核研究機関となった新成長戦略研究「マリンバイオ産業を振興するための海洋由来微生物を活用した新たな食品開発」において、県内クラフトビールメーカーとの共同研究により、海洋由来乳酸菌と酵母を用いたサーバービールの商品化を果たした。本研究で得られた海洋由来微生物株については、一般財団法人マリンオープンイノベーション機構（MAOI機構）がライブラリ化により企業への供給体制を構築し、当センターはMAOI機構と連携して県内企業の事業化を支援している。令和3年度から5年度にかけて、本県の清酒造りに適した独自の清酒醸造用種麴の開発フローを構築し、オリジナル清酒用種麴を開発を行った。

機械電子科では、平成28年度から平成30年度にかけて、戦略的基盤技術高度化支援事業（経済産業省）（現 成長型中小企業等研究開発支援事業）として「骨端用プレートの高品質・低コスト成形加工技術の開発」を進めた。これに加え、平成30年度から令和2年度にかけて、新成長戦略研究「次世代型インプラントの型鍛造成形を可能にする設計支援技術の開発」を実施し、整形外科用インプラントの型鍛造成形を実現させる上で必要不可欠な、金型や成形条件探索等に費やす開発費を削減させることが出来る独自の設計支援技術を開発した。これをもとに関連企業からの技術相談や受託研究の相談も増加しており、ファルマバレープロジェクトに関連した課題に引き続き取り組んでいる。また、令和3年11月にはセンター内に「静岡県IoT推進ラボ サテライト沼津」を開設し、企業のIoT導入の支援を行っている。

センター業務の実施に当たっては、中小企業のニーズを把握することを第一に、企業や商工団体の訪問、企業との意見交換の場の確保等、地元の声の把握に鋭意努めながら進めている。

ウ 富士工業技術支援センター（富士市）

（ア）地域の概要

当センターが所在する富士地域（富士市、富士宮市）は、大消費地である首都圏に近く、富士山麓の豊富な水資源を基に製紙産業が栄え、これを中核とする機械産業が発達し、世界に類を見ない製紙関連産業の技術集積地を形成している。さらに昨今の電子技術を応用した家電、輸送用機械工業等の進出により一大工業地帯を形成し、加えて、富士山麓の清涼な環境の基に特異な精密工業や医療機器・医薬品関連産業の進出による先端産業地帯としても発展している。

しかし、最近の経済のグローバル化に伴い、地域の企業も他社との統合・合併で生き残りを図る等大きな構造変化が進んでいる。例えば、製紙関連では、富士地域に集中する中小のトイレットペーパー等を製造する家庭紙製造業は、大手製紙メーカーがこの分野にも参入してきており、生産量は横ばいであるが、競争が厳しくなってきた。また、印刷用紙等では、ペーパーレス化の進展等により、生産量が大きく減少しているため、大手製紙メ

ーカーの大幅な事業の見直し・集約が進むと共に、中小企業も印刷用紙に代わる新たな製品製造に取り組む必要に迫られている。

一方、製紙関連以外の製造業では、富士宮市を中心とする医療機器産業が比較的順調な伸びを保っているが、富士地域の輸送用機械や電気機械及び化学工業関連等は、米国の関税政策等先行き不透明で、厳しい状況にある。その中で、最近では製紙関連の他、樹脂成形、化成品等様々な分野で新材料として注目されているセルロースナノファイバー（CNF）を利用した新製品開発が進んでおり、富士市がプラットフォームを組織してCNFの研究開発や製品化の支援を進めている。脱炭素社会への移行とデジタルシフトが加速しており、多くの企業がCNF活用やAI・IoTの活用に関心を寄せている。

（イ）事業の概要

当センターは、企業による新成長分野への進出や新規事業分野の開拓にかかる研究開発の他、関連支援機関と連携して、入口（ニーズ、市場性の調査）から製品開発、出口（販売）までの一貫支援に努めている。また、地域企業の既存技術の高度化、高付加価値新商品の開発を、主に技術面から支援している。

製紙科では、古紙を利用した再生紙を主力とした技術開発を行っている。古紙原料不足や古紙価格の高騰等から付加価値の高い紙や特殊紙の開発に取り組み始めた企業も増えているため、紙リサイクル技術の推進、紙質・製品評価技術の確立、機能性付与技術の開発に重点を置いている。これまでの古紙利用に関する研究では、トイレトペーパーがほぐれにくくなっている要因や、かさが要求される製品でより低密度化できる処方を探り、工場の実状に併せた改善策を提案し、品質改善に結び付けた。また、古紙原料不足に対応した課題として廃棄衣料を製紙原料として活用する技術開発も行い、遠州織物から紙を製造するモデルケースとして業界に提案した。その他古紙の品質低下が原因と考えられる様々な技術相談が寄せられていることから、今後も古紙利用技術の開発は重点的に取り組んでいく。

CNF科は県内企業によるCNF関連産業への参入を支援する中核的役割を担うとともに、次世代の新素材として注目されているCNFの技術窓口として、ふじのくにCNFプロジェクト推進事業を遂行している。令和4年度は、新成長戦略研究政策課題指定枠「プラスチック資源循環実現に向けたCNF複合樹脂リサイクル性の評価」を実施し、脱炭素・資源循環社会実現に向けた自動車部材の軽量化素材として、リサイクルが困難なガラス繊維等を使用した樹脂の代替とするため、CNFを30%配合したポリプロピレン樹脂を成形し、CNF複合樹脂のリサイクル性を検証した。令和4～6年度に実施したリファイナーを用いたCNF製造技術開発の共同研究では、従来よりも非常に低いコストでCNFを製造する技術開発に成功した。また、産学官連携体制強化のため、静岡大学CNFサテライトオフィス及び企業と共同研究を行うCNFラボで構成される「ふじのくにCNF研究開発センター」を運営し、事業化や製品化を推進している。

機械電子科は、当地域における製造品出荷額の上位を占めている機械、電気・電子産業の支援を目的に設置され、通常の業務に加え、センター協議会活動を通して中小企業の技術力の向上に寄与している。令和5年度から地場産業である製紙業界でAI活用を促進す

るために、古紙の種類をAIで判別する技術開発や生産現場でAIを活用して品質向上を図る研究開発を行っている。

今後も産業支援機関や大学と連携して地域企業の新たな成長分野への参入を支援するとともに、センターの持つ技術力を活かして現場ニーズに対応した技術支援を推進していく。

エ 浜松工業技術支援センター（浜松市）

（ア）地域の概要

当センターが所在する西部地域は、トヨタ、ホンダ、スズキ、ヤマハ発動機等の世界的輸送機械メーカー発祥の地であり、自動車や二輪車及び船外機関連企業が集積している。また、ヤマハ、河合楽器製作所、ローランド等の世界的楽器メーカー、浜松ホトニクス等の光関連メーカー及び電気機器関連企業等が立地している。また、古くから綿織物の国内有数の産地として盛況を極めてきた。

西部地域は、本県経済を主導するリーディング産業を育成する先端産業創出プロジェクトのなかで、フォトンバレープロジェクトの中心となっている。産学官金の連携による地域企業の新製品開発や新たな市場への進出を支援するとともに、「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点」や「光産業創成大学院大学」が実施する人材育成等を支援する等、光・電子技術産業の集積化を推進している。

また、成長産業である次世代自動車、医療機器、航空機産業分野等への地域企業の参入を促進し、海外成長力の取り込み等による地域産業の活性化を図っている。次世代自動車産業については、県内企業で参入を目指した取組が活発化しており、当センターでも関連する試験機器を整備する等、支援体制の強化に努めている。また、部品部材の開発を支援するため、電気自動車（日産リーフ）の2010年型と2017年型の分解展示を令和元年1月より開始した。

さらに、地域に集積する技術力と地元の素材を結び付けた高付加価値の製品づくりとブランド力の強化、県内外への情報発信や販路開拓を支援する等、繊維をはじめとする地場産業の振興を図っている。

（イ）事業の概要

当センターでは、地域企業の要望に応じた製品試験、不良品の原因調査等の相談に応じるとともに、企業と共同で新製品の研究開発に取り組んでいる。

このため、県内中小企業のものづくりをデジタルデータに基づいて企画・設計から成型加工、測定・評価まで一貫して支援する「デジタルものづくりセンター」を令和5年度に開設した。

CAE等の試し使いができる「シミュレーショントライアルルーム」、サンプル等の紹介、企業連携による打合せができる「コワーキング・展示スペース」、CAE等の各種ソフトウェアに関するセミナー、ワークショップを行う「セミナールーム」を新たに設け、既存・新設機器を活用し、製品開発課程における中小企業のデジタル技術のボトムアップを推進する。

光科では、光半導体レーザーや超短パルスレーザーを高度に利用する技術や透過光計測により応力に起因する複屈折率分布を可視化する装置の開発を行い、ものづくりの品質検査等、新たな応用分野の研究開発を進めている。また、平成29年度より参画してきた内閣府革新的

研究開発推進プログラム（ImPACT）の中で開発した新型レーザーの試用プラットフォームを、用途開発に利用していただくよう無料開放している。令和3年度から実施した次世代自動車への搭載を目的とした「コミュニケーションライティングシステム」のためのレンズ開発を行う新成長戦略研究課題（リーダーは本所）では、光学素子の設計・評価及び樹脂成形用金型転写技術の検討を担当し、その成果の社会実装に取り組んでいる。

また、光産業創成大学院大学による中核人材育成講座に、派遣講師として協力する等、レーザー応用技術に携わる人材の育成を支援している。

機械電子科では、精密測定や品質工学に関する技術相談を通じ、モノづくりを支援している他、機械技術に関連する研究会の活動をサポートしている。また、アルミニウム部品の熱変形やウルトラハイテン材のひずみ等を三次元的に計測、評価する技術の開発を進め、地域企業の製品設計、開発力の強化に取り組んでいる。

令和3年11月にはセンター内に「静岡県IoT推進ラボ サテライト浜松」を開設し、企業のIoT導入の事例を紹介するとともに、令和5年度は熱構造解析用CAE装置や形状最適化ソフトウェアを導入するとともに、令和6年度には3Dスキャナを導入して、前述のデジタルものづくりを支援する。

一方、電磁波測定、電磁波環境計測関連機器及び耐振耐候試験機等、所有機器を用いて製品の信頼性向上を図り、安全で安心できる電子機器の開発や技術向上を支援している。また、EMC試験における測定の不確かさの算出・管理による測定値の信頼性及び測定技術の向上に向けた研究を通じ、事業者の製品開発を支援している。なお、電子制御化が進む自動車関連産業の需要に対応するための車載機器用EMC試験施設を平成30年度に整備し、県内事業者等による次世代自動車開発関連分野への参入を支援している。

材料科では、次世代自動車に用いられる軽量難加工材に関わる加工・評価やめっき技術を応用した表面処理技術の開発に取り組んでいる。また解析技術の向上・体系化を図り、材料の成分分析、構造解析、強度試験、破損・欠陥解析等の各種試験や技術相談に迅速かつ的確に対応することにより、企業の新製品開発・技術開発を支援している。

加えて新たな造形方法として注目されている金属3Dプリンタを令和5年度に導入した。従来の成形、加工技術では作成が困難な形状の部品を造形できるため、デジタルものづくりによる試作やより付加価値の高い製品の開発への支援を目指している。

繊維高分子材料科では、令和2年度より県の新成長戦略研究として、次世代自動車等への採用が期待される軽量高強度材料「炭素繊維強化複合材（CFRP）」の、大量生産に対応した高効率成形技術の確立を目指している。また、当センターが保有する織物サンプルデータベース、電子ジャカード織機等を活用して、コーデュロイやゆかた等の新製品開発を行う地域企業の技術支援を行っている。

（４）工業技術研究所及び各工業技術支援センターの施設の概要

ア 工業技術研究所（静岡市）

- （ア）敷地面積 23,157㎡
- （イ）建築面積 7,659㎡
- （ウ）延床面積 13,091㎡

○管理棟	鉄筋コンクリート4階建	2, 250 m ² (管理部門)
○研究棟	鉄筋コンクリート4階建	4, 130 m ² (研究部門)
○研修棟	鉄筋コンクリート平屋建	270 m ² (講習・研修施設)
○実験棟	鉄骨平屋建	2, 719 m ² (実験施設)
○開放棟	鉄筋コンクリート3階建	1, 680 m ² (開放試験・共同研究施設等)
○資料館	鉄筋コンクリート2階建	460 m ²
○付属棟		1, 582 m ² (設備棟・薬品庫等)

イ 沼津工業技術支援センター(沼津市)

(ア) 敷地面積	19, 139 m ²	
(イ) 建築面積	3, 892 m ²	
(ウ) 延床面積	6, 219 m ²	
○管理・研究・開放棟	鉄筋コンクリート3階建	4, 384 m ² (管理・研究部門、開放試験)
○実験棟	鉄筋コンクリート平屋建	648 m ² (実験施設)
○付属棟		305 m ² (廃水处理施設等)
○インキュベーションセンター	鉄骨平屋建	882 m ²

ウ 富士工業技術支援センター(富士市)

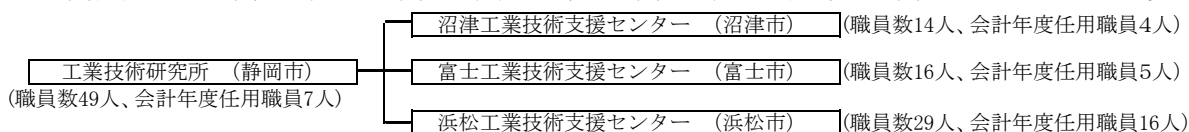
(ア) 敷地面積	20, 075 m ²	
(イ) 建築面積	4, 433 m ²	
(ウ) 延床面積	8, 801 m ²	
○管理・研究・開放棟	鉄筋コンクリート3階建	5, 346 m ² (管理・研究部門、開放試験)
○実験棟	鉄筋コンクリート3階建	2, 414 m ² (実験施設)
○付属施設		165 m ² (車庫・駐輪場等)
○インキュベーションセンター	鉄骨平屋建	876 m ²

エ 浜松工業技術支援センター(浜松市)

(ア) 敷地面積	28, 238 m ²	
(イ) 建築面積	5, 792 m ²	
(ウ) 延床面積	11, 142 m ²	
○管理研究棟	鉄筋コンクリート4階建	5, 023 m ² (管理・研究部門)
○開放棟	鉄筋コンクリート2階建	1, 276 m ² (開放試験・共同研究・講習研修施設)
○実験棟	鉄筋コンクリート2階建	3, 309 m ² (実験施設)
○付属棟		128 m ² (排水処理施設・薬品庫等)
○車載機器EMCテストサイト	鉄骨平屋建	531 m ² (実験施設)
○インキュベーションセンター	鉄骨平屋建	875 m ²

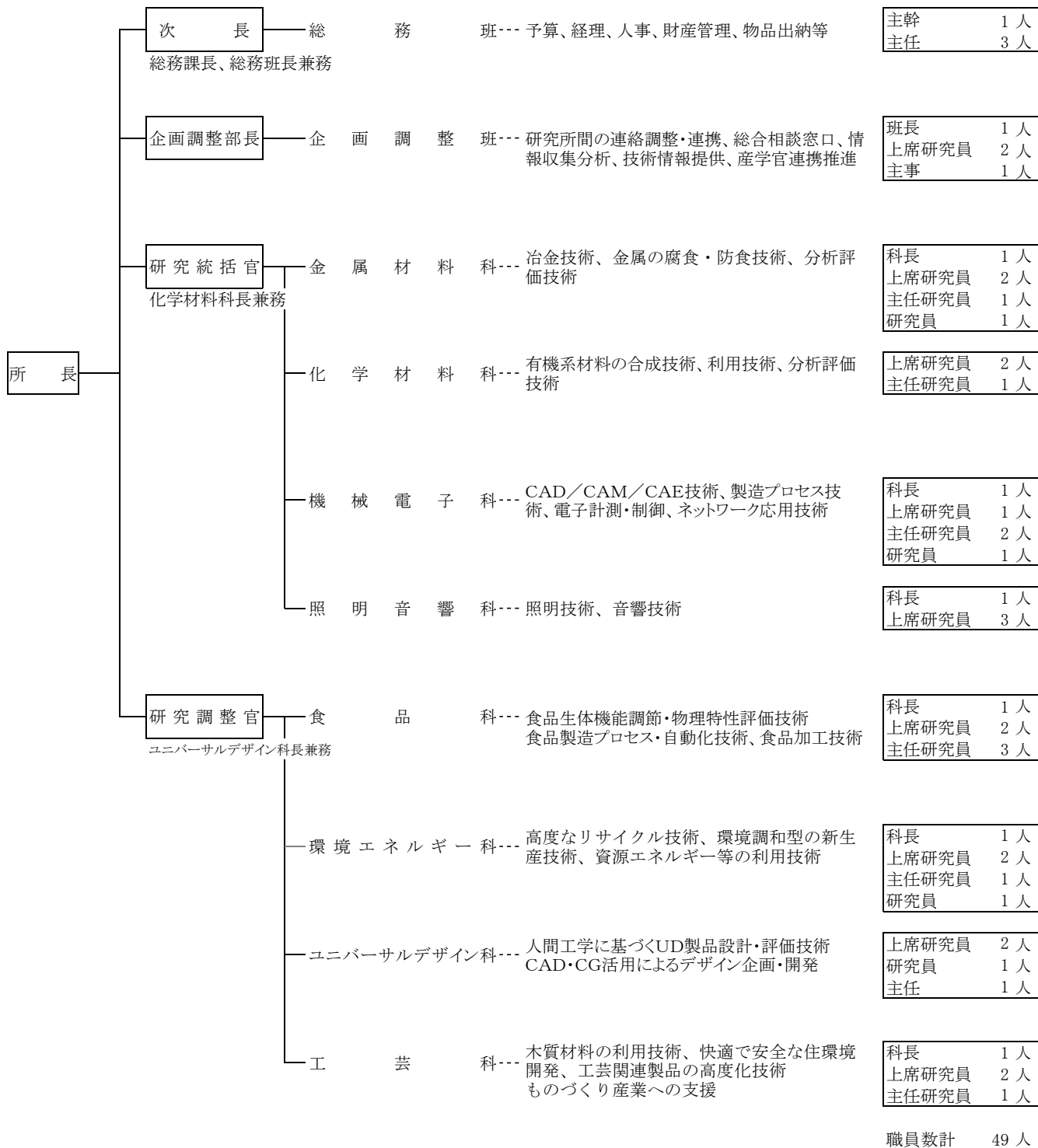
(5) 組織図

令和7年7月31日現在の工業技術研究所の組織及び業務分担は、次のとおりである。
職員総数は事務職員8人、技術職員93人、暫定再任用職員7人、会計年度任用職員32人の計140人である。



ア 工業技術研究所 (静岡市)

職員数は事務職員3人、技術職員44人、暫定再任用職員2人、会計年度任用職員7人の計56人である。

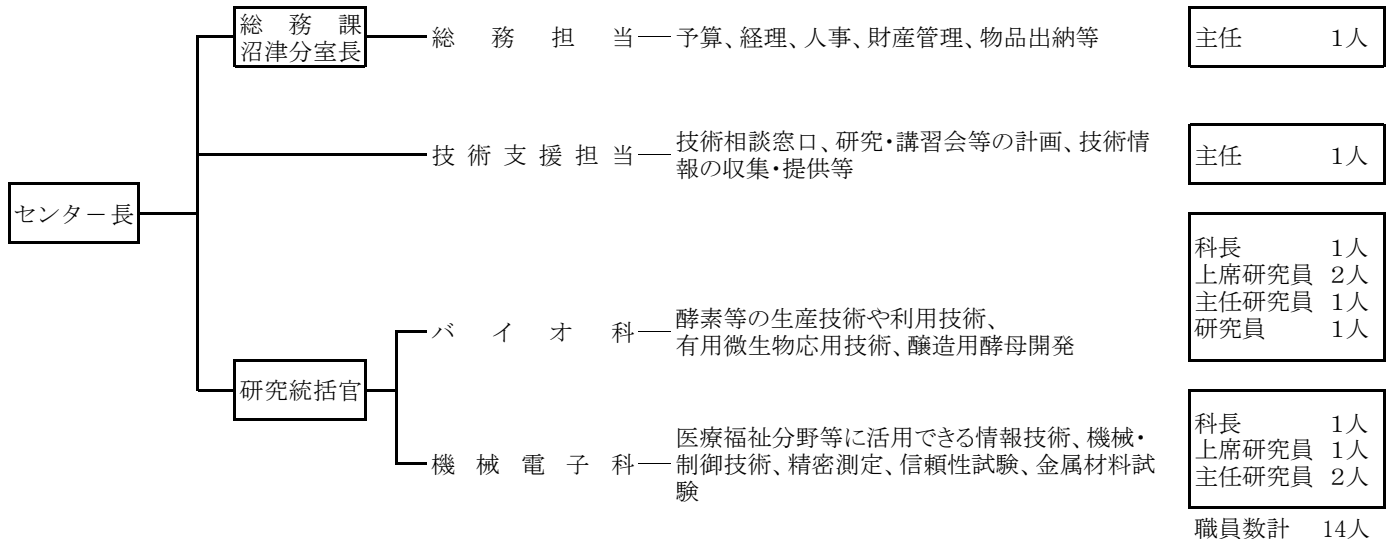


(その他会計年度任用職員等)

職名	人数
会計年度任用職員	7人

イ 沼津工業技術支援センター(沼津市)

職員数は事務職員 1 人、技術職員11人、暫定再任用職員 2 人、会計年度任用職員 4 人の計18人である。

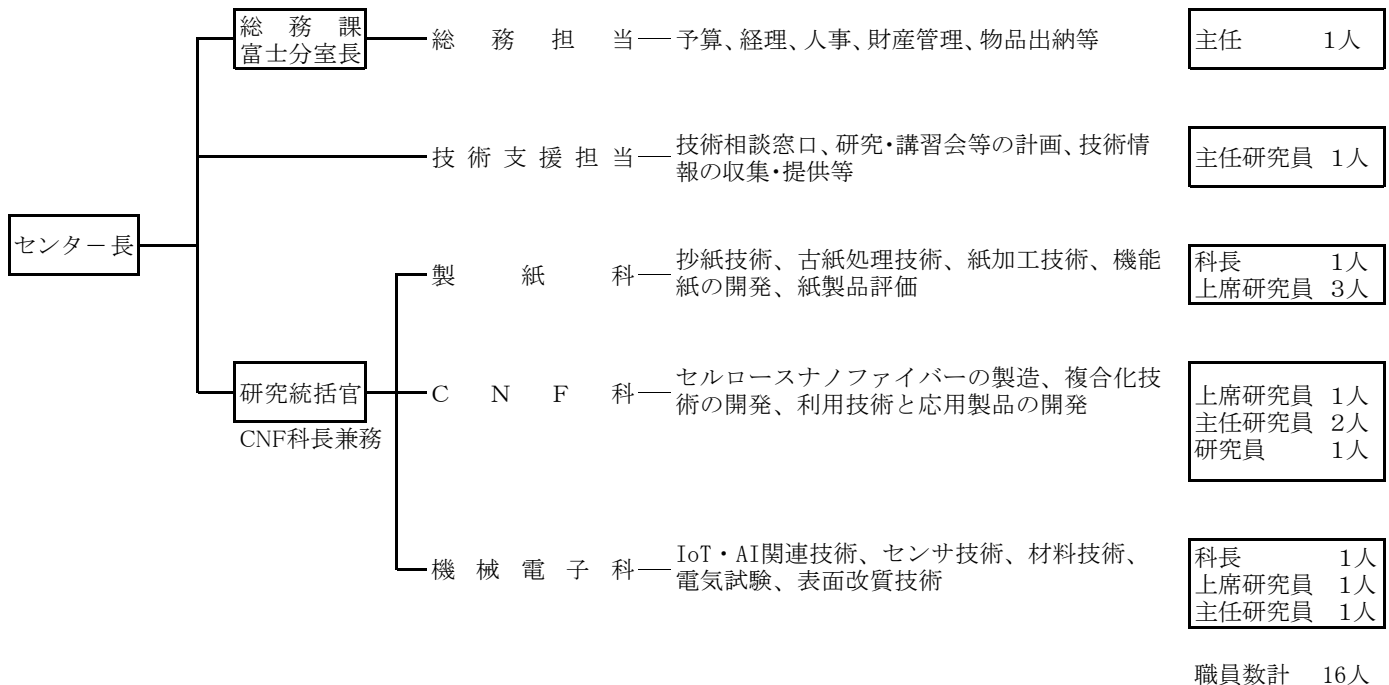


(その他の会計年度任用職員等)

職名	人数
会計年度任用職員	4

ウ 富士工業技術支援センター(富士市)

職員数は事務職員 2 人、技術職員14人、会計年度任用職員 5 人の計21人である。

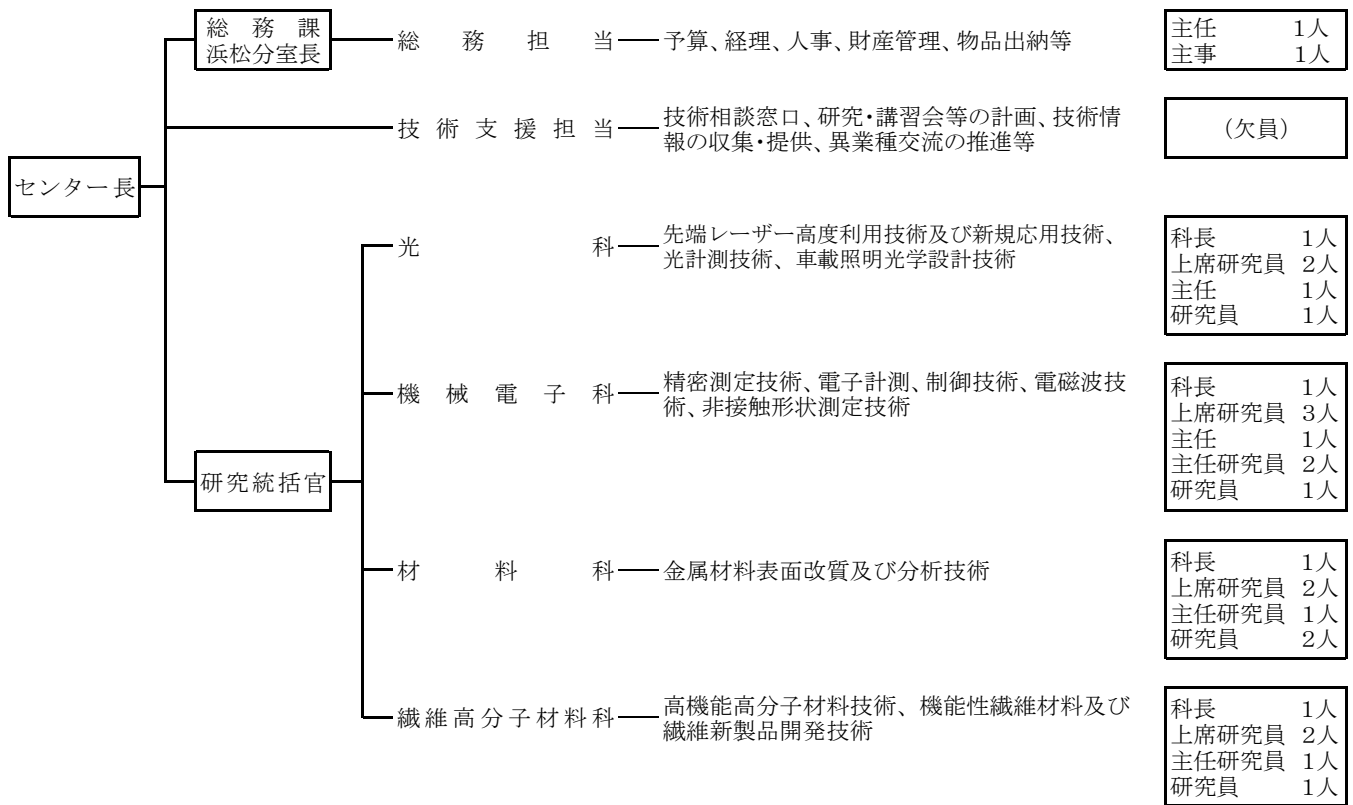


(その他の会計年度任用職員等)

職名	人数
会計年度任用職員	5

エ 浜松工業技術支援センター（浜松市）

職員数は事務職員 2 人、技術職員24人、暫定再任用職員 3 人、会計年度任用職員16人の計45人である。



職員数計 29人

(その他会計年度任用職員等)

職名	人数
会計年度任用職員	16人

2 事務又は事業の目的、計画及び実績（成果）並びに評価（課題等）及び改善

(1) 総務事務

(目 的)

工業技術研究所総務課及び各工業技術支援センター総務課分室において、人事管理、予算、経理、財産管理、安全衛生・健康管理、職員研修等の業務を行い、職員が快適かつ安心して仕事に専念できる職場環境づくりに努める。

(実 績)

ア 人事管理について

工業技術研究所全体の職員総数は、令和7年7月31日現在で、140人である(事務職員8人、技術職員93人、暫定再任用職員7人、会計年度任用職員32人)。

そのうち、工業技術研究所(静岡市)が56人(事務職員3人、技術職員44人、暫定再任用職員2人、会計年度任用職員7人)、沼津工業技術支援センターが18人(事務職員1人、技術職員11人、暫定再任用職員2人、会計年度任用職員4人)、富士工業技術支援センターが21人(事務職員2人、技術職員14人、会計年度任用職員5人)、浜松工業技術支援センターが45人(事務職員2人、技術職員24人、再任用職員3人、会計年度任用職員16人)。

職員の配置については、各々の職員が最大限に能力を発揮できるよう専門分野等を考慮し、適切な職場配置に努めている。

イ 予算執行及び財産管理について

予算執行に当たっては、費用対効果を検証し、常にコスト意識を持って効率的な執行に努めている。また、財産管理では、関係法令等を遵守し、適正に取り組んでいる。

ウ 事務の執行について

事業の円滑な推進を図るため、工業技術研究所及び各支援センターにおいて、毎月定期的に幹部職員会議あるいは全体会議を開催し、各科・各スタッフ間の連絡調整及び職員間の意思疎通を図っている。

さらに、工業技術研究所と各支援センター間の連携を密にするため、定期的に所長・センター長会議及び企画調整会議(企画調整部主催)等を開催している。

また、職員の資質向上や研究業務に必要な情報収集等のため、各種団体等が開催する講演会、研修会等にも積極的に参加させ、専門知識や技能の習得等に努めている。

エ 職員の安全衛生・健康管理について

工業技術研究所・各支援センターとも、地理的条件から、自家用車等による通勤者が多く、出張等にも自動車の運転が欠かせないため、公用車には「安全運転の心得」や「事故発生時対応マニュアル」の配置、職員全員に万が一の時のため「事故対策マニュアル」を配布するなど、交通安全については機会あるごとに周知徹底を図っている。

健康管理については、定期健康診断、人間ドック等の健康診断のほか、特別健康診断(特定化学物質取扱、有機溶剤取扱、放射線等の業務従事者)を年2回実施している。

(評価・改善)

- ・ 交通事故等の防止

交通事故は、工業技術研究所全体で、令和5年度は3件、令和6年度及び令和7年度はそれぞれ1件、発生している。

工業技術研究所及び各支援センターでは、幹部会議・職員会議、館内放送などにより、繰り返し職員全員に対し交通安全の徹底の呼び掛けを行うなど、意識の高揚を図っている。さらに、職員による交通安全標語の作成、掲示を行っている。

- ・ 労働安全衛生・健康管理

労働安全衛生に関する講習会を年1回実施するなど、職員の労働安全に対する意識の改革に努めている。また、幹部職員等による職場巡視を定期的を実施することにより、業務中における事故防止に努めている。

工業技術研究所全体の職員の健康管理区分は、A区分が4名、C区分が3名、D区分が96名である。

工業技術研究所では、特に、精神面での健康管理を重視し、健康指導課と共催でメンタルヘルスセミナーを開催している。引き続き、時間外勤務の縮減や休暇取得の促進を図るなど、職員の健康管理に努めている。

(2) 試験研究、調査及び指導事務

(目的)

産業構造の変化や技術の進展等への対応が不可欠となっている中小企業支援のため、研究開発や技術相談、依頼試験、設備使用及び講習会、技術情報提供などで中小企業の技術力向上に努めている。

(計画・実績)

計画と実績は下表のとおりである。

ア 研究開発

(ア) 研究課題

(令和7年度は7月31日現在)

	令和6年度	令和7年度
工業技術研究所	32件	18件
沼津工業技術支援センター	7件	5件
富士工業技術支援センター	8件	8件
浜松工業技術支援センター	14件	10件
総課題件数	61件	41件

a 令和6年度研究課題数

	新成長戦略研究	県単独研究	一般共同研究	受託研究		計
				競争的資金による研究	競争的資金以外の研究	
工業技術研究所	4	4	7	1	16	32
沼津工業技術支援センター	1	1	2	0	3	7
富士工業技術支援センター	0	3	4	0	1	8
浜松工業技術支援センター	1	5	3	1	4	14
合計	6	13	16	2	24	61

(a) 工業技術研究所の研究課題の内訳

(単位:件)

	新成長 戦略研究	県単独 研究	一般共同 研究	受託研究		計
				競争的 資金による 研究	競争的 資金以外の 研究	
金属材料科	0	1	1	0	4	6
化学材料科	0	0	4	0	1	5
機械電子科	1	0	0	0	0	1
照明音響科	0	1	0	1	1	3
食品科	2	1	0	0	5	8
環境エネルギー科	0	1	2	0	3	6
ユニバーサルデザイン科	0	0	0	0	0	0
工芸科	1	0	0	0	2	3
合計	4	4	7	1	16	32

(b) 沼津工業技術支援センターの研究課題の内訳

(単位:件)

	新成長 戦略研究	県単独 研究	一般共同 研究	受託研究		計
				競争的 資金による 研究	競争的 資金以外の 研究	
バイオ科	1	1	0	0	2	4
機械電子科	0	0	2	0	1	3
合計	1	1	2	0	3	7

(c) 富士工業技術支援センターの研究課題の内訳

(単位:件)

	新成長 戦略 研究	県単独 研究	一般共同 研究	受託研究		計
				競争的 資金による 研究	競争的 資金以外の 研究	
製紙科	0	2	0	0	1	3
CNF科	0	0	3	0	0	3
機械電子科	0	1	1	0	0	2
合計	0	3	4	0	1	8

(d) 浜松工業技術支援センターの研究課題の内訳

(単位:件)

	新成長 戦略 研究	県単独 研究	一般共同 研究	受託研究		計
				競争的 資金による 研究	競争的 資金以外の 研究	
光科	0	1	0	1	1	3
機械電子科	0	1	1	0	1	3
材料科	1	1	0	0	2	4
繊維高分子材料科	0	2	2	0	0	4
合計	1	5	3	1	4	14

b 令和6年度研究課題名一覧
 (a) 工業技術研究所研究課題名一覧

新・継 開始年	課 題 名	担当部門署	備 考
新 成 長 戦 略 研 究			
継続 R4～	設備、モノ、ヒトの統合的データ分析による生産性の効率化	機械電子科	
新規	未利用茶葉等の多用途加工技術の開発	食品科	
新規	静岡県の海藻を用いた免疫バランスを制御する食品成分の探索	食品科	チャレンジ研究枠 (クラウドファンディング型研究)
新規	しずおか木製家具復興のための県産広葉樹活用技術の開発	工芸科	政策課題指定枠
県 単 独 研 究			
継続 R2～	セルロースナノファイバーによる香り成分の徐放機構の解明及び放散制御技術の開発	食品科	科学研究費助成事業(学振)
継続 R5～	半熔融成形法の高度化技術開発	金属材料科	
継続 R5～	音声認識技術を用いた自動車室内音環境の評価に関する研究	照明音響科	
継続 R5～	高結晶コーヒーかす活性炭への白金埋込による高耐久性燃料電池触媒の開発	環境エネルギー科	科学研究費助成事業(学振)
一 般 共 同 研 究			
継続 R4～	自動車用途向けCNFオレフィン系樹脂の機械的物性向上及び成形性の安定化	化学材料科	
継続 R5～	ポリプロピレン/セルロース繊維複合材射出成形品への高密着なめつき技術の開発	金属材料科	
継続 R5～	CNF複合樹脂を用いた発泡ブロー成形技術の開発	化学材料科	
継続 R5～	白金の超強度化技術による大型モビリティ搭載用固体高分子形燃料電池電極触媒の開発	環境エネルギー科	A-STEP産学共同 (育成型)(JST)
継続 R5～	好気性グラニュールを利用した高濃度窒素排水処理装置の開発	環境エネルギー科	
新規	CNFを用いた低環境負荷型湿式摩擦材の実用化に向けた開発	化学材料科	
新規	加飾性を有するセルロースファイラー複合熱可塑性樹脂の開発	化学材料科	

新・継 開始年	課 題 名	担当部門署	備 考
受託研究（競争的資金による研究）			
新規	M P A技術を用いた新しい光パターンL E D照明の開発	照明音響科	A-SAP産学官金連携イノベーション推進事業
受託研究（競争的資金以外の研究）			
新規	S n、A gめっきの変色現象の解析に関する研究	金属材料科	
新規	鉄球鋳型の諸性質測定	金属材料科	
新規	レーザー溶接の溶接条件に関する研究	金属材料科	
新規	特殊鋳鉄及び改良アルミニウム合金の諸性質に関する研究	金属材料科	
新規	実暴露及び促進暴露試験した軟質PVC材料の深さ方向の定性把握	化学材料科	
新規	切削加工及び射出成形による次世代車載用光学部品の実用化に向けた技術開発	照明音響科	
新規	緑茶ブレンド焼酎の香気特性評価	食品科	
新規	陸上養殖アトランティックサーモンの血液に含まれる機能性成分の探索	食品科	
新規	超低周波磁界を利用したローコストな業務用急速冷凍庫の商品化に向けた食品等の評価に関する研究	食品科	
新規	おからの食用利用を行うための衛生調査ならびに、おからとマグロを用いた食品開発に向けた最適配合の研究	食品科	
新規	静岡県の水産物・水産加工食品の網羅的機能評価と有効機能の探求システムの開発	食品科	
新規	持続可能な地産地消型バイオガスエネルギー供給技術の開発と実証	環境エネルギー科	
新規	竹活性炭へのメソ細孔形成が燃料電池特性へ及ぼす影響	環境エネルギー科	
新規	燃料電池式アルコールセンサーに用いるMEAの発電特性評価	環境エネルギー科	
新規	バルカナイズドファイバー合板を使用した新規車両用床材の開発	工芸科	
新規	リサイクル用パルプ繊維を活用した左官材料の開発	工芸科	

注) 学振：(独)日本学術振興会、JST：(国研)科学技術振興機構、財団：(公財)静岡県産業振興財団

(b) 沼津工業技術支援センター研究課題名一覧

新・継 開始年	課 題 名	担当部門	備 考
新 成 長 戦 略 研 究			
新規	酢酸イソアミルを高生産する吟醸酒用の新規静岡酵母の開発	バイオ科	チャレンジ研究枠 (クラウドファンディング型研究)
県 単 独 研 究			
新規	本県オリジナル酒造好適米「令和誉富士」を用いる清酒の醸造技術の確立	バイオ科	
一 般 共 同 研 究			
継続 R5～	二軸引張試験を活用した成形シミュレーションの予測精度向上	機械電子科	新成長産業戦略的育成事業 産学官連携研究開発助成事業(財団)
新規	整形外科用インプラントの強度評価	機械電子科	先端産業創出プロジェクト革新技術創出補助金(静岡県)
受託研究(競争的資金以外の研究)			
新規	令和6年静岡県清酒鑑評会における出品酒の成分分析とそれら成分が官能評価に与える影響に関する調査研究	バイオ科	
新規	自然界から分離したビール・ウイスキー用酵母の新しい活用法の検討研究	バイオ科	
新規	アルミニウム合金鋳造材のヤング率測定手法の検討	機械電子科	

注) 財団：(公財)静岡県産業振興財団

(c) 富士工業技術支援センター研究課題名一覧

新・継 開始年	課 題 名	担当部門	備 考
県 単 独 研 究			
継続 R5～	A I を活用した古紙原料の判別に関する研究	機械電子科	
新規	古紙処理工程における効果の高い低密度化手法の追究	製紙科	
新規	廃棄衣料の古紙代替利用に関する研究	製紙科	

新・継 開始年	課 題 名	担当部門	備 考
一 般 共 同 研 究			
継続 R4～	リファイナーを用いた低コストCNF製造技術の開発	CNF科	
継続 R4～	自動車用途向けCNFオレフィン系樹脂の機械的物性向上及び成形性の安定化	CNF科	
新規	加飾性を有するセルロースファイラー複合熱可塑性樹脂の開発	CNF科	
新規	説明可能なAIを用いた牛群中での乳牛の序列を決定する要素の解明	機械電子科	科学研究費助成事業(学振)
受託研究(競争的資金以外の研究)			
新規	新規古紙原料の探索	製紙科	

注) 学振：(独)日本学術振興会

(d) 浜松工業技術支援センター研究課題名一覧

新・継 開始年	課 題 名	担当部門	備 考
新 成 長 戦 略 研 究			
継続 R5～	金属3Dプリンタを活用したものづくり支援のための積層造形技術開発	材料科	
県 単 独 研 究			
継続 R5～	熱可塑性炭素繊維強化複合材料(CFRTP)の循環利用	繊維高分子材料科	
新規	コミュニケーションライティング技術の社会実装に向けた製品化支援ー光学設計技術による照明性能を向上させる手法の開発ー	光科	
新規	自動車用大型樹脂部品の熱変形シミュレーション手法の開発	機械電子科	
新規	材料特性データに基づく高張力鋼(ハイテン)板の成形工程削減	材料科	
新規	生分解性樹脂PHAとPCLの混合樹脂からなる繊維における生分解抑制要因の解明	繊維高分子材料科	科学研究費助成事業(学振)
一 般 共 同 研 究			
継続 R5～	簡易的な電波到来方向推定システムの開発	機械電子科	
新規	加飾性を有するセルロースファイラー複合熱可塑性樹脂の開発	繊維高分子材料科	
新規	自動車シート用PET繊維の水平リサイクルの実現	繊維高分子材料科	

新・継 開始年	課 題 名	担当部門	備 考
受託研究（競争的資金による研究）			
新規	M P A 技術を用いた新しい光パターン L E D 照明の開発	光科	A-SAP産学官金連携イノベーション推進事業（浜松イノベーション推進機構）
受託研究（競争的資金以外の研究）			
新規	切削加工及び射出成形による次世代車載用光学部品の実用化に向けた技術開発	光科	
新規	鋳鉄材料組織が与える切削性への影響および切削性評価方法の確立	機械電子科	
新規	金属 3 D プリント製アルミ材に対するエッチング効果の検証	材料科	
新規	鋳ぐるみ接合による鋳造材と積層造形材の接合性評価	材料科	

c 令和7年度研究課題数（7月31日現在）

	新成長 戦略研究	県単独 研究	一般共同 研究	受託研究		計
				競争的 資金 による 研究	競争的 資金 以外の 研究	
工業技術研究所	3	4	5	1	5	18
沼津工業技術 支援センター	0	1	1	0	3	5
富士工業技術 支援センター	0	4	3	0	1	8
浜松工業技術 支援センター	1	6	1	1	1	10
合計	4	15	11	1	10	41

(a) 工業技術研究所の研究課題の内訳

(単位:件)

	新成長 戦略研究	県単独 研究	一般共同 研究	受託研究		計
				競争的 資金による 研究	競争的 資金以外の 研究	
金属材料科	1	0	0	0	1	2
化学材料科	0	0	3	1	0	4
機械電子科	0	1	0	0	0	1
照明音響科	0	1	0	0	0	1
食品科	1	1	0	0	2	4
環境エネルギー科	0	1	1	0	2	4
ユニバーサルデザイン科	0	0	1	0	0	1
工芸科	1	0	0	0	0	1
合計	3	4	5	1	5	18

(b) 沼津工業技術支援センターの研究課題の内訳

(単位:件)

	新成長 戦略研究	県単独 研究	一般共同 研究	受託研究		計
				競争的 資金による 研究	競争的 資金以外の 研究	
バイオ科	0	1	0	0	3	4
機械電子科	0	0	1	0	0	1
合計	0	1	1	0	3	5

(c) 富士工業技術支援センターの研究課題の内訳

(単位:件)

	新成長 戦略 研究	県単独 研究	一般共同 研究	受託研究		計
				競争的 資金による 研究	競争的 資金以外の 研究	
製紙科	0	2	0	0	1	3
CNF科	0	0	3	0	0	3
機械電子科	0	2	0	0	0	2
合計	0	4	3	0	1	8

(d) 浜松工業技術支援センターの研究課題の内訳

(単位:件)

	新成長 戦略 研究	県単独 研究	一般共同 研究	受託研究		計
				競争的 資金による 研究	競争的 資金以外の 研究	
光科	0	1	1	0	0	2
機械電子科	0	2	0	0	0	2
材料科	1	1	0	1	1	4
繊維高分子材料科	0	2	0	0	0	2
合計	1	6	1	1	1	10

b 令和7年度研究課題名一覧
 (a) 工業技術研究所研究課題名一覧

新・継 開始年	課 題 名	担当部門署	備 考
新 成 長 戦 略 研 究			
継続 R6～	未利用茶葉等の多用途加工技術の開発	食品科	
継続 R6～	しずおか木製家具復興のための県産広葉樹活用技術の開発	工芸科	政策課題指定枠
新規	次世代輸送用機器部品の脱炭素化に貢献するアルミ成形加工技術の開発	金属材料科	
県 単 独 研 究			
継続 R5～	音声認識技術を用いた自動車室内音環境の評価に関する研究	照明音響科	
継続 R5～	高結晶コーヒーかす活性炭への白金埋込による高耐久性燃料電池触媒の開発	環境エネルギー科	科学研究費助成事業(学振)
新規	三次元点群データのデジタルツインへの活用技術の開発	機械電子科	
新規	豆乳を主原料とした植物性ホイップクリームの商品向上に関する研究	食品科	学術研究助成交付金((公財)飯島藤十郎記念食品科学振興財団)
一 般 共 同 研 究			
継続 R5～	白金の超強度化技術による大型モビリティ搭載用固体高分子形燃料電池電極触媒の開発	環境エネルギー科	A-STEP産学共同(育成型)(JST)
継続 R6～	CNFを用いた低環境負荷型湿式摩擦材の実用化に向けた開発	化学材料科	
継続 R6～	加飾性を有するセルロースファイバー複合熱可塑性樹脂の開発	化学材料科	
新規	低コストを実現した樹脂用途微細化セルロース粉体の開発	化学材料科	
新規	高齢者の移乗・移動介助を支援する機器の開発	ユニバーサルデザイン科	
受託研究(競争的資金による研究)			
新規	機械学習を活用した光計測、解析技術に基づく再生プラスチックの異材混入を想定した非破壊物性評価法の開発	化学材料科	環境研究総合推進費
受託研究(競争的資金以外の研究)			
新規	ポリプロピレンセルロース繊維複合材の実用化を目的としためっき技術の開発	金属材料科	

新・継 開始年	課 題 名	担当部門	備 考
新規	生米麴を活用した発酵食品の香り成分と味質の変動について	食品科	
新規	静岡県の水産物・水産加工食品の網羅的機能評価と有効機能の探求システムの開発	食品科	
新規	竹活性炭を担体とした燃料電池触媒の耐久性に関する研究	環境エネルギー科	
新規	持続可能な地産地消型バイオガスエネルギー供給技術の開発と実証	環境エネルギー科	

注) 学振：(独)日本学術振興会、JST：(国研)科学技術振興機構

(b) 沼津工業技術支援センター研究課題名一覧

新・継 開始年	課 題 名	担当部門	備 考
県 単 独 研 究			
継続 R6～	本県オリジナル酒造好適米「令和誉富士」を用いる清酒の醸造技術の確立	バイオ科	
一 般 共 同 研 究			
継続 R6～	整形外科用インプラントの強度評価	機械電子科	先端産業創出プロジェクト革新技術創出補助金(静岡県)
受託研究(競争的資金以外の研究)			
新規	機能性成分エルゴチオネインを含む藻類エキスの抽出条件の検討と機能性評価	バイオ科	
新規	プラズマ照射による柑橘果皮中のスコパロン生成の評価	バイオ科	
新規	令和7年静岡県清酒鑑評会出品酒に関する品質調査及び品質向上に向けた新規静岡酵母の選抜	バイオ科	

注) 財団：(公財)静岡県産業振興財団

(c) 富士工業技術支援センター研究課題名一覧

新・継 開始年	課 題 名	担当部門	備 考
県 単 独 研 究			
継続 R6～	廃棄衣料の古紙代替利用に関する研究	製紙科	
継続 R6～	説明可能なA Iを用いた牛群中での乳牛の序列を決定する要素の解明	機械電子科	科学研究費助成事業(学振)
新規	パルプ繊維の水中形態変化に着目した紙の低密度化現象の解明	製紙科	
新規	A Iを活用した再生紙の白色度の予測に関する研究	機械電子科	
一 般 共 同 研 究			
継続 R6～	加飾性を有するセルロースファイバー複合熱可塑性樹脂の開発	C N F 科	
新規	製造業の未利用繊維を活用した繊維/樹脂複合体の開発	C N F 科	
新規	低コストを実現した樹脂用途微細化セルロース粉体の開発	C N F 科	
受託研究(競争的資金以外の研究)			
新規	新規古紙原料の探索	製紙科	

注) 学振：(独)日本学術振興会

(d) 浜松工業技術支援センター研究課題名一覧

新・継 開始年	課 題 名	担当部門	備 考
新 成 長 戦 略 研 究			
継続 R5～	金属3Dプリンタを活用したものづくり支援のための積層造形技術開発	材料科	
県 単 独 研 究			
継続 R6～	コミュニケーションライティング技術の社会実装に向けた製品化支援ー光学設計技術による照明性能を向上させる手法の開発ー	光科	
継続 R6～	自動車用大型樹脂部品の熱変形シミュレーション手法の開発	機械電子科	
継続 R6～	材料特性データに基づく高張力鋼(ハイテン)板の成形工程削減	材料科	

新・継 開始年	課 題 名	担当部門	備 考
継続 R6～	生分解性樹脂 PHA と PCL の混合樹脂からなる 繊維における生分解抑制要因の解明	繊維高分子材料科	科学研究費助成 事業 (学振)
新規	80MHz以下の周波数における放射イミュニティ試 験法の開発	機械電子科	
新規	C F R T P のリサイクルに向けた成形技術の開発	繊維高分子材料科	
一 般 共 同 研 究			
新規	三次元的な温度分布予測を用いたレーザー樹脂溶 着技術の確立	光科	
受託研究 (競争的資金以外の研究)			
新規	金属 3 D プリント製アルミ材に対する酸性エッ チング処理の検証	材料科	

注) 学振 : (独) 日本学術振興会

(イ) 外部研究員招へい事業

(目的)

職員の高度技術分野の研究開発能力を向上させ、高度技術関連の研究開発の円滑な推進を図るために、外部研究員を招へいしている。

(実績・計画)

実績及び計画は下表のとおりである。

	令和6年度		令和7年度(7月31日現在)	
	人数	指導時間	人数	指導時間
工業技術研究所	9	44	0(10)	0(46)
沼津工業技術支援センター	3	11	0(3)	0(9)
富士工業技術支援センター	3	26	2(4)	7(30)
浜松工業技術支援センター	7	47	0(9)	0(55)
合計	22	128	0(26)	7(140)

※ 括弧内は計画

a 令和6年度外部研究員
 (a) 工業技術研究所外部研究員

氏名	所属	専門	指導を受ける内容	指導時間 (計画)
□□□□□	中部大学	音声情報処理	音声認識実験とその評価	4
□□□□□□ □□□□□	(株)テクノベル	混練技術	混練機の基礎と最新動向、混練機の操作実習	8
□□□□□	(個人)	材料工学	高密着な樹脂めっき作製方法について	8
□□□□□	(株)ベンチャー・アカデミア	防食, 水質化学	電気化学試験による腐食評価	4
□□□□□□	京都大学大学院	食品科学	乳化物の制御技術(安定性向上、長期保管等)について	4
□□□□□	敬愛技術士事務所	電気化学	回転電極法による活性評価手法について	7
□□□□□□	新潟工科大学	生化学 微生物工学	水素、メタン、バイオマス利用について	5
□□□□	産業技術総合研究所 柏センター 人間拡張研究センター	生活機能ロボティクス	福祉機器開発について	4
合計 9 人			合計 44 時間	

(b) 沼津工業技術支援センター外部研究員一覧

氏名	所属	専門	指導を受ける内容	指導時間 (計画)
□□□□	東京農業大学	醸造学	酒類製造技術及び関連試験手法について	3
□□□□□	東京農業大学	醸造学	製麴試験に関する指導	4
□□□□□	東北大学	金属材料	金属材料の加工、評価技術について	4
合計 3 人			合計 11 時間	

(c) 富士工業技術支援センター外部研究員一覧

氏名	所属	専門	指導を受ける内容	指導時間 (計画)
□□□□	沼津工業高等専門学校	振動工学、情報処理技術	機械学習、深層学習について	6
□□□□□	東京農工大大学院	紙パルプ科学、セルロース科学	低密度化のための製紙技術に関する研究内容について	16
□□□□	一般社団法人静岡県紙パルプ技術協会	製紙工学	衣服の繊維を原料としたリサイクル紙の抄造、物性などについて	4
合計 3 人			合計 26 時間	

(d) 浜松工業技術支援センター外部研究員一覧

氏名	所属	専門	指導を受ける内容	指導時間 (計画)
□□□□□	EMCDOC	EMC 関連	民生・車載機器の EMC 測定試験のノウハウに関する実施指導	6
□□□□□	近畿大学	金属材料	金属 3D プリンタの造形と評価方法	9
□□□□□	兵庫県立大学	金属粉末	金属粉末の作製と評価方法	9
□□□□□	千葉工業大学	電気化学	造形物の表面処理方法	6
□□□□□	国立研究開発法人理化学研究所バイオプラスチック研究	高分子材料	高分子材料の成形加工技術	4
□□□□□	浜松地域 CFRP 事業化研究会	高分子材料・複合材	高分子材料の成形加工技術	9
□□□□□	静岡大学	塑性加工	試験データのシュミレーション適用について	4
合計 7 人			合計 47 時間	

b 令和7年度外部研究員（7月31日現在）

(a) 工業技術研究所外部研究員

氏名	所属	専門	指導を受ける内容	指導時間 (計画)
□□□□□	中部大学	音声情報処理	音声認識実験とその評価に関する指導	(4)
□□□□□	(個人)	材料工学	高密着な樹脂めっき作製方法について	(4)
□□□□	(未定)	熱分析	DSC、TG/DTA、TMAの試料調製、測定条件、解析方法	(8)
□□□□□□	新潟工科大学	生化学・微生物工学	微生物発酵による水素・メタン生産について	(5)
□□□□□□	金沢工業大学	人工知能・自然言語処理	AI・IoT技術の基礎と中小企業への導入事例について	(5)
□□□□	産業医科大学	人間工学	腰痛予防の最新動向	(4)
□□□□	常葉大学	バイオメカニズム	立ち上がり動作の筋力とモーション評価	(8)
□□□□	産業技術総合研究所 柏センター 人間社会 拡張研究センター	福祉工学	介護ロボット開発の最新事情	(4)
□□□□□	常葉大学	食品栄養学	アミノ酸分析について	(2)
□□□□□	静岡県立大学	食品栄養化学	キャラクターホイールの生成とその応用	(2)
合計 0 人 (計画 10 人)			合計 0 時間 (計画 46 時間)	

(b) 沼津工業技術支援センター外部研究員一覧

氏名	所属	専門	指導を受ける内容	指導時間 (計画)
□□□□	東京農業大学	醸造学	清酒製造技術及び関連試験手法について	(3)
□□□□□	東京農業大学	醸造学	製麴試験に関する指導	(3)
□□□□□	静岡県立大学	食品化学	清酒の味と香りに関する客観的な評価、AIによるフードペアリング	(3)
合計 0 人 (計画 3 人)			合計 0 時間 (計画 9 時間)	

(c) 富士工業技術支援センター外部研究員一覧

氏名	所属	専門	指導を受ける内容	指導時間 (計画)
□□□□	沼津工業高等専門学校	振動工学、情報処理技術	機械学習、深層学習について	(10)
□□□□□	東京農工大大学院	紙パルプ科学、セルロース科学	低密度化のための製紙技術に関する研究内容について	4 (12)
□□□□	一般社団法人静岡県紙パルプ技術協会	製紙工学	衣服の繊維を原料としたリサイクル紙の抄造、物性などについて	(4)
□□□□□	相川鉄工(株) 技術営業・研究開発部門 技術営業部	製紙機械	最新の古紙処理機械の機構及び性能について	3 (4)
合計 2 人 (計画 4 人)			合計 7 時間 (計画 30 時間)	

(d) 浜松工業技術支援センター外部研究員一覧

氏名	所属	専門	指導を受ける内容	指導時間 (計画)
□□□□□	国立研究開発法人 理化学研究所バイ オプラスチック研 究チーム	高分子材料	高分子材料の構造解析技術	(6)
□□□□	信州大学	高分子材料、紡 糸技術	高分子材料の成形加工技術	(3)
□□□□□	静岡大学	EMCシミュレ ーション	シミュレーションによる電磁 界、EMC測定の解析実施	(6)
□□□□□	IMV(株)	EMC関連	民生・車載機器のEMC測定試 験のノウハウに関する実施指 導	(6)
□□□□□	近畿大学	金属材料	金属3Dプリンタの造形と評 価方法	(6)
□□□□□	兵庫県立大学	金属粉末	金属粉末の作製と評価方法	(10)
□□□□□	豊橋技術科学大学	材料組織の解析 評価 / X線イメ ージング	造形物の密度評価	(6)
□□□□□	千葉工業大学	電気化学	造形物の表面処理方法	(6)
□□□□□	静岡理工科大学	電気加工	金属3Dプリンタ造形物の加 工方法	(6)
合計 0 人 (計画 9 人)			合計 0 時間 (計画 55 時間)	

(ウ) 特許等の登録及び出願

令和7年7月31日現在出願中の特許等は8件、登録は35件

a 研究所及び各支援センターの出願及び登録件数

	出願中件数	登録件数
工業技術研究所	5	18 ¹⁾
沼津工業技術支援センター	0	1
富士工業技術支援センター	0	3
浜松工業技術支援センター	1 ²⁾	13 ³⁾
合計	6	35

1) 意匠登録2件を含む。(内1件は外国での意匠登録)

2) 外国で特許出願中の1件。

3) 外国登録特許6件を含む。

b 令和6年度及び令和7年度の特許等出願、登録及び消滅件数

	令和6年度			令和7年度(7月31日現在)		
	出願件数	登録件数	消滅件数	出願件数	登録件数	消滅件数
工業技術研究所	0	1	1	0	0	0
沼津工業技術支援センター	0	0	0	0	0	0
富士工業技術支援センター	0	0	1	0	0	0
浜松工業技術支援センター	0	1	2	0	1	0
合計	0	2	4	0	1	0

c 特許等出願・登録の内訳

(a) 工業技術研究所が所有する特許等一覧表

(令和7年7月31日現在)

種別	出願年月日	出願番号	登録年月日	登録番号等	発明の名称	備考
特許	H18. 1. 10	2006-2927	H20. 2. 22	第4084821号	アルミニウム合金鋳造素材の製造方法	共同
特許	H20. 12. 10	2008-313874	H25. 12. 20	第5438954号	入浴用リフト装置	共同
特許	H22. 1. 6	2010-855	H26. 9. 5	第5604877号	体躯接触具	共同
特許	H22. 9. 6	2010-198731	H27. 4. 10	第5724102号	室内照度シミュレーション方法およびシステム	共同
特許	H24. 4. 4	2012-85130	H28. 12. 2	第6048639号	マットレスの製造方法及びマットレスの設計方法	共同
特許	H28. 3. 30	2016-69585	R2. 8. 14	第6749554号	弾性構造体の製造方法	共同
特許	H29. 6. 30	2017-129696	R4. 11. 8	第7173476号	化粧用香料組成物並びにその製造方法	共同
特許	H29. 7. 28	2017-146065	R3. 9. 30	第6952529号	熱可塑性複合樹脂、該樹脂を用いた3Dプリンタ用フィラメント及びそれらの製造方法	共同
特許	H29. 9. 1	2017-168394	R1. 12. 27	第6634579号	セルロースナノファイバー濃縮、乾燥品の製造方法とセルロースナノファイバー再分散液の製造方法	共同
特許	H30. 3. 7	2018-40490	R4. 10. 4	第7152865号	活性炭の製造方法	共同
特許	H30. 3. 7	2018-40491	R4. 12. 15	第7195053号	活性炭の製造方法	共同
特許	R1. 9. 25	2019-174106	R3. 9. 8	第6941263号	セルロースナノファイバー濃縮、乾燥品の製造方法とセルロースナノファイバー再分散液の製造方法	共同
特許	R1. 10. 15	2019-188658	R3. 10. 21	第6964300号	廃石膏ボードの石膏を利用したリサイクル技術	共同
特許	R2. 2. 18	2020-252238	R6. 10. 16	第7572666号	冷爽感持続性薬液並びにこれを含浸させた清拭用シート並びにそれらの製造方法	共同
特許	R2. 12. 23	2020-213685	R5. 7. 13	第7313329号	ポリプロピレン系樹脂組成物、ポリプロピレン系樹脂製の被めっき対象物、金属層付きポリプロピレン系樹脂製品及びその製造方法、ポリプロピレン系樹脂製配線基材及びその製造方法	共同
特許	R3. 3. 10	2021-38788	R4. 4. 14	第7058403号	グルコマンナンを含有する多孔質体	共同
特許	R4. 2. 4	2022-16581	—	—	活性酸素種産生の抑制または低減のための組成物	共同
特許	R4. 3. 17	2022-42793	—	—	湿式摩擦材、および湿式摩擦材を用いた湿式摩擦板	共同
特許	R4. 11. 28	2022-188996	—	—	手術用枕	共同

種別	出願年月日	出願番号	登録年月日	登録番号等	発明の名称	備考
特許	R4. 12. 26	2022-207998	—	—	介護動作教育支援プログラム	共同
特許	R5. 11. 30	2023-203028	—	—	貴金属含有材料を製造する方法、 貴金属含有材料、膜電極接合体及 び燃料電池	共同
意匠	H29. 3. 22	2017-500697	H30. 3. 9	第1601162号	Lever knob for a toggle clamp ※1	共同
意匠 (欧州)	H29. 3. 22	DM/096553	H29. 9. 28	DM/096553	Lever knob for a toggle clamp ※2	共同

注) 共同：企業等との共同出願

※1、※2はハーグ協定のジュネーブ改正協定に基づく意匠の国際登録制度を利用し、1回の手続で2カ国（日本と欧州）へ出願

(b) 沼津工業技術支援センターが所有する特許等一覧表

(令和7年7月31日現在)

種別	出願年月日	出願番号	登録年月日	登録番号等	発明の名称	備考
特許	R3. 6. 30	2021-108277	R5. 2. 15	第7228202号	摩擦係数測定方法およびシミュレーション方法、摩擦係数測定装置およびシミュレーション装置、摩擦係数測定プログラムおよびシミュレーションプログラム	県単

注) 県単：県単独出願

(c) 富士工業技術支援センターが所有する特許等一覧表

(令和7年7月31日現在)

種別	出願年月日	出願番号	登録年月日	登録番号等	発明の名称	備考
特許	H26. 1. 23	2014-10328	H30. 10. 26	第6421304号	撥水性を有する多孔質材及びこれを用いた音響透過材。	共同
特許	H27. 9. 26	2015-189029	R2. 2. 7	第6656513号	生体情報監視システム	共同
特許	H31. 2. 21	2019-28955	R4. 12. 26	第7201170号	タオルペーパー	共同

注) 共同：企業等との共同出願

(d) 浜松工業技術支援センターが所有する特許等一覧

(令和6年7月31日現在)

種別	出願年月日	出願番号	登録年月日	登録番号等	発明の名称	備考
特許	H20. 3. 31	2008-89869	H26. 2. 7	第5467670号	染色方法及び染色装置	共同
特許	H21. 8. 10	2009-185647	H21. 12. 25	第4430131号	レーザー溶融接合用ベルト素材及びレーザー接合方法	共同
特許	H22. 1. 26	2010-548511	H26. 5. 30	第5548886号	レーザーマーキング方法	共同
特許	H24. 6. 4	2012-126739	H28. 9. 23	第6010349号	染色方法及び染色装置	共同
特許	H28. 6. 20	2016-121855	R2. 7. 13	第6733904号	焼結体およびその製造方法	共同
特許	H29. 2. 6	2017-19162	R3. 12. 24	第6999273号	染色装置及び染色方法	共同
特許	R1. 7. 30	2019-140233	R6. 4. 8	第7469005号	染色装置及び染色方法	共同
特許 (欧州)	H21. 3. 23	09728217. 2	H24. 6. 20	EP2261419B1	染色方法及び染色装置	共同
特許 (米国)	H22. 9. 21	12/933, 801	H29. 1. 3	9, 534, 344	染色方法及び染色装置	共同
特許 (欧州)	H24. 6. 4	12171233. 5	H26. 10. 16	EP2532781	染色方法及び染色装置	共同
特許 (米国)	H30. 1. 3	15/861136	R3. 1. 12	10, 889, 935	染色方法及び染色装置	共同
特許 (欧州)	R1. 7. 30	20188556. 3	R5. 12. 21	EP3771553	染色方法及び染色装置	共同
特許 (中国)	R1. 7. 30	202010744402. 8	R7. 7. 1	ZL202010744402. 8	染色方法及び染色装置	共同
特許 (タイ)	R1. 7. 30	2001004258	—	—	染色方法及び染色装置	共同

注) 共同：企業等との共同出願

イ 技術相談等

(ア) 技術相談

(目的)

中小企業が直面している生産技術の問題や新素材・新製品開発、先端技術応用など広い範囲にわたり現場あるいは所内において技術指導を実施する。

(実績)

令和6年度及び令和7年度（7月31日現在）の実績は下表のとおりである。

	工業技術研究所		沼津工業技術支援センター		富士工業技術支援センター		浜松工業技術支援センター		合計	
	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7
技術相談	15,106	5,366	2,879	1,342	3,516	1,219	10,410	4,133	31,911	12,060
実地指導	1,643	550	303	292	286	124	554	221	2,786	1,187
合計	16,749	5,916	3,182	1,634	3,802	1,343	10,964	4,354	34,697	13,247

a 工業技術研究所の相談件数

所属	金属材料科		化学材料科		機械電子科		照明音響科	
年度	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7
技術相談	2,001	663	2,175	853	886	300	1,717	683
実地指導	88	25	77	37	91	24	96	47
合計	2,089	688	2,252	890	977	324	1,813	730
所属	食品科		環境エネルギー科		エバーサルデザイン科		工芸科	
年度	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7
技術相談	3,257	1,213	1,990	606	1,324	484	1,547	454
実地指導	544	202	213	79	270	35	108	42
合計	3,801	1,415	2,203	685	1,594	519	1,655	496
所属	その他		合計					
年度	R6	R7	R6	R7				
技術相談	209	110	15,106	5,366				
実地指導	156	59	1,643	550				
合計	365	169	16,749	5,916				

b 沼津工業技術支援センター相談件数

所 属	バイオ科		機械電子科		その他		合計	
	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7
技術相談	830	674	1,975	618	74	50	2,879	1,342
実地指導	272	238	7	9	24	45	303	292
合 計	1,102	912	1,982	627	98	95	3,182	1,634

c 富士工業技術支援センター相談件数

所 属	製紙科		C N F 科		機械電子科		その他	
	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7
技術相談	2,106	690	471	219	856	272	83	38
実地指導	98	29	76	62	85	9	27	24
合 計	2,204	719	547	281	941	281	110	62
所 属	合計							
年 度	R6	R7						
技術相談	3,516	1,219						
実地指導	286	124						
合 計	3,802	1,343						

d 浜松工業技術支援センター相談件数

所 属	光科		機械電子科		材料科		繊維高分子材料科	
	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7
技術相談	663	207	2,986	1,105	4,440	1,919	2,256	880
実地指導	82	44	266	84	86	32	50	26
合 計	745	251	3,252	1,189	4,526	1,951	2,306	906
所 属	その他		合計					
年 度	R6	R7	R6	R7				
技術相談	65	22	10,410	4,133				
実地指導	70	35	554	221				
合 計	135	57	10,964	4,354				

(イ) 依頼試験、機器使用及び研修施設等使用

(目的)

企業からの依頼により、製品及び原材料などの各種試験・分析・測定などを行い、試験成績書を発行する。また、企業自ら研究所の設備機器を利用して試験を行う。

(実績)

令和6年度及び令和7年度（7月31日現在）の実績は下表のとおりである。

a 依頼試験の件数及び収入額

	令和6年度		令和7年度	
	件数	金額(円)	件数	金額(円)
依頼試験	18,079	29,058,230	5,937	9,480,040

b 機器使用及び研修施設等使用の時間数及び収入額

	令和6年度		令和7年度		
	時間数	金額(円)	時間数	金額(円)	
機器使用	66,147	93,142,560	17,799	30,720,800	
研修施設等使用	研修施設	344	539,900	126	167,300
	無響室	185	802,500	63	270,550
	電波暗室	324	2,397,600	128	947,200
	車載機器用EMS電波暗室	258	1,713,100	89	582,950
	車載機器用EMI電波暗室	295	1,897,650	115	713,000
	BCI試験室（シールドルーム）	175	844,000	74	358,900
	車載機器試験用シールドルーム	165	818,800	64	315,250
合計	67,893	102,156,110	18,458	34,075,950	

c 依頼試験内訳（工業技術研究所及び工業技術支援センターの合計）

		令和6年度		令和7年度	
		件数	金額(円)	件数	金額(円)
1 分析	定性分析	1,572	10,766,740	501	3,529,660
	定量分析	615	2,507,110	138	491,570
2 工業用材料	材料強度試験	739	1,653,120	137	367,290
	長期性能試験	12,604	3,346,060	4,135	930,220
	特殊試験	624	4,416,340	548	2,936,460
3 木材工業	木材試験	10	72,500	1	7,250
	塗料試験	6	9,180	0	0
	製品試験	194	802,720	62	275,560
4 化学工業	金属表面処理試験	91	398,540	19	75,190
	プラスチック及びゴム試験	51	391,600	6	30,200
	微生物試験	9	57,690	3	19,020
	セラミックス試験	0	0	0	0
	熱勘定試験	0	0	0	0
5 機械金属工業	精密測定	131	403,980	27	71,000
	機械器具の検査及び試験	2	22,280	0	0
	金属試験	263	1,267,150	19	40,480
	電気試験	0	0	0	49,540
6 包装材料	包装材料試験	82	166,460	0	0
7 繊維工業	繊維材料試験	1	3,570	0	0
	編織試験	30	127,060	5	14,500
	染色試験	0	0	0	0
	整理仕上加工試験	0	0	0	0
8 製紙工業	原材料試験	54	441,420	56	404,640
	紙質試験	480	984,030	48	104,200
	製紙及び紙加工試験	3	32,760	4	32,760
9 加工	塗装加工	0	0	0	0
	木竹材加工	0	0	0	0
10 設計及び調整	機械等の設計及び調整	290	1,004,470	23	70,150
	繊維デザイン	32	86,720	8	23,440
	商業及び工業デザイン	15	59,000	0	0
11 写真及び複写		144	19,600	197	6,910
12 成績書の複本		37	18,130	0	0
合 計		18,079	29,058,230	5,937	9,480,040

(a) 工業技術研究所の依頼試験実績

		令和6年度		令和7年度	
		件数	金額(円)	件数	金額(円)
1 分析	定性分析	460	5,236,030	113	1,407,000
	定量分析	463	1,491,340	121	306,430
2 工業用材料	材料強度試験	586	1,300,030	66	183,890
	長期性能試験	2,924	881,780	1,978	404,450
	特殊試験	456	3,354,020	501	2,726,150
3 木材工業	木材試験	10	72,500	1	7,250
	塗料試験	6	9,180	0	0
	製品試験	194	802,720	62	275,560
4 化学工業	金属表面処理試験	25	182,250	3	21,870
	プラスチック及びゴム試験	48	369,520	6	30,200
	微生物試験	0	0	0	0
	セラミックス試験	0	0	0	0
	熱勘定試験	0	0	0	0
5 機械金属工業	精密測定	8	9,120	0	0
	機械器具の検査及び試験	0	0	0	0
	金属試験	48	339,410	3	20,160
	電気試験	0	0	0	0
6 包装材料	包装材料試験	0	0	0	0
7 繊維工業	繊維材料試験	0	0	0	0
	編織試験	0	0	0	0
	染色試験	0	0	0	0
	整理仕上加工試験	0	0	0	0
8 製紙工業	原材料試験	0	0	0	0
	紙質試験	0	0	0	0
	製紙及び紙加工試験	0	0	0	0
9 加工	塗装加工	0	0	0	0
	木竹材加工	0	0	0	0
10 設計及び調製	機械等の設計及び調製	0	0	0	0
	繊維デザイン	0	0	0	0
	商業及び工業デザイン	15	59,000	0	0
11 写真及び複写		0	0	0	0
12 成績書の複本		0	0	0	0
合 計		5,243	14,106,900	2,854	5,382,960

(b) 沼津工業技術支援センターの依頼試験実績

		令和6年度		令和7年度	
		件数	金額(円)	件数	金額(円)
1 分析	定性分析	60	404,000	76	512,580
	定量分析	43	39,990	0	0
2 工業用材料	材料強度試験	34	94,220	4	11,120
	長期性能試験	361	78,800	52	25,740
	特殊試験	39	319,870	16	21,920
3 木材工業	木材試験	0	0	0	0
	塗料試験	0	0	0	0
	製品試験	0	0	0	0
4 化学工業	金属表面処理試験	0	0	0	0
	プラスチック及びゴム試験	0	0	0	0
	微生物試験	9	57,690	3	19,020
	セラミックス試験	0	0	0	0
	熱勘定試験	0	0	0	0
5 機械金属工業	精密測定	123	394,860	27	71,000
	機械器具の検査及び試験	2	22,280	0	0
	金属試験	24	68,120	5	20,320
	電気試験	0	0	0	0
6 包装材料	包装材料試験	0	0	0	0
7 繊維工業	繊維材料試験	0	0	0	0
	編織試験	0	0	0	0
	染色試験	0	0	0	0
	整理仕上加工試験	0	0	0	0
8 製紙工業	原材料試験	0	0	0	0
	紙質試験	0	0	0	0
	製紙及び紙加工試験	0	0	0	0
9 加工	塗装加工	0	0	0	0
	木竹材加工	0	0	0	0
10 設計及び調製	機械等の設計及び調製	44	270,240	0	0
	繊維デザイン	0	0	0	0
	商業及び工業デザイン	0	0	0	0
11 写真及び複写		30	9,900	2	1,060
12 成績書の複本		0	0	0	0
合 計		769	1,759,970	185	682,760

(c) 富士工業技術支援センターの依頼試験実績

		令和6年度		令和7年度	
		件数	金額(円)	件数	金額(円)
1 分析	定性分析	5	47,640	0	0
	定量分析	0	0	0	0
2 工業用材料	材料強度試験	6	8,340	22	61,160
	長期性能試験	591	193,840	51	33,820
	特殊試験	0	0	0	0
3 木材工業	木材試験	0	0	0	0
	塗料試験	0	0	0	0
	製品試験	0	0	0	0
4 化学工業	金属表面処理試験	0	0	0	0
	プラスチック及びゴム試験	0	0	0	0
	微生物試験	0	0	0	0
	セラミックス試験	0	0	0	0
	熱勘定試験	0	0	0	0
5 機械金属工業	精密測定	0	0	0	0
	機械器具の検査及び試験	0	0	0	0
	金属試験	0	0	0	0
	電気試験	0	0	0	0
6 包装材料	包装材料試験	82	166,460	0	0
7 繊維工業	繊維材料試験	0	0	0	0
	編織試験	0	0	0	0
	染色試験	0	0	0	0
	整理仕上加工試験	0	0	0	0
8 製紙工業	原材料試験	54	441,420	56	404,640
	紙質試験	480	984,030	48	104,200
	製紙及び紙加工試験	3	32,760	4	32,760
9 加工	塗装加工	0	0	0	0
	木竹材加工	0	0	0	0
10 設計及び調製	機械等の設計及び調製	0	0	0	0
	繊維デザイン	0	0	0	0
	商業及び工業デザイン	0	0	0	0
11 写真及び複写		0	0	0	0
12 成績書の複本		37	18,130	0	0
合 計		1,258	1,892,620	181	636,580

(d) 浜松工業技術支援センターの依頼試験実績

		令和6年度		令和7年度	
		件数	金額(円)	件数	金額(円)
1 分析	定性分析	1,047	5,079,070	312	1,610,080
	定量分析	109	975,780	17	185,140
2 工業用材料	材料強度試験	113	250,530	45	111,120
	長期性能試験	8,728	2,191,640	2,054	466,210
	特殊試験	129	742,450	31	188,390
3 木材工業	木材試験	0	0	0	0
	塗料試験	0	0	0	0
	製品試験	0	0	0	0
4 化学工業	金属表面処理試験	66	216,290	16	53,320
	プラスチック及びゴム試験	3	22,080	0	0
	微生物試験	0	0	0	0
	セラミック試験	0	0	0	0
	熱勘定試験	0	0	0	0
5 機械金属工業	精密測定	0	0	0	0
	機械器具の検査及び試験	0	0	0	0
	金属試験	191	859,620	11	0
	電気試験	0	0	0	49,540
6 包装材料	包装材料試験	0	0	0	0
7 繊維工業	繊維材料試験	1	3,570	0	0
	編織試験	30	127,060	5	14,500
	染色試験	0	0	0	0
	整理仕上加工試験	0	0	0	0
8 製紙工業	原材料試験	0	0	0	0
	紙質試験	0	0	0	0
	製紙及び紙加工試験	0	0	0	0
9 加工	塗装加工	0	0	0	0
	木竹材加工	0	0	0	0
10 設計及び調製	機械等の設計及び調製	246	734,230	23	70,150
	繊維デザイン	32	86,720	8	23,440
	商業及び工業デザイン	0	0	0	0
11 写真及び複写		114	9,700	195	5,850
12 成績書の複本		0	0	0	0
合 計		10,809	11,298,740	2,717	2,777,740

d 機器使用等の内訳

(a) 工業技術研究所の機器使用等の実績

		令和6年度		令和7年度	
		時間数	金額(円)	時間数	金額(円)
機器使用		19,633	24,881,450	3,616	4,965,500
研修施設等使用	研修施設	55	66,000	72	86,450
	無響室	9	36,900	14	57,400
合 計		19,697	24,984,350	3,702	5,109,350

(b) 沼津工業技術支援センターの機器使用等の実績

		令和6年度		令和7年度	
		時間数	金額(円)	時間数	金額(円)
機器使用		4,536	7,178,140	2,884	4,527,550
研修施設		36	54,000	10	13,000
合 計		4,572	7,232,140	2,894	4,540,550

(c) 富士工業技術支援センターの機器使用等の実績

		令和6年度		令和7年度	
		時間数	金額(円)	時間数	金額(円)
機器使用		5,029	10,054,770	1,827	4,869,670
研修施設		204	326,100	31	46,900
合 計		5,233	10,380,870	1,858	4,916,570

(d) 浜松工業技術支援センターの機器使用等の実績

		令和6年度		令和7年度	
		時間数	金額(円)	時間数	金額(円)
機器使用		36,949	51,028,200	9,472	16,358,080
研修施設等使用	研修施設	49	93,800	13	20,950
	無響室	176	765,600	49	213,150
	電波暗室	324	2,397,600	128	947,200
	車載機器用EMS電波暗室	258	1,713,100	89	582,950
	車載機器用EMI電波暗室	295	1,897,650	115	713,000
	BCI試験室(シールドルーム)	175	844,000	74	358,900
	車載機器試験用シールドルーム	165	818,800	64	315,250
合 計		38,391	59,558,750	10,004	19,509,480

(ウ) 研究会の育成

(目的)

講習会や講演会、工場見学会等を通じて技術向上に努める研究会を支援する。

a 工業技術研究所（令和7年7月31日現在）

研究会名	発足年月	会員数
静岡県プレス技術研究会	昭和44年6月	37社
静岡県食品技術研究会	昭和47年12月	109社・個人・団体
静岡県資源環境技術研究会	昭和44年11月	71社・人
静岡県プラスチック技術研究会	平成2年6月	33社・人
静岡県ユニバーサルデザイン・工芸研究会	平成7年5月	32社
静岡県アウトドア技術研究会	令和5年11月	26社

b 沼津工業技術支援センター（令和7年7月31日現在）

研究会名	発足年月	会員数
静岡県東部精密技術研究会	平成2年6月	35社・団体
静岡県バイオテクノロジー研究会	昭和59年9月	25社・個人・団体
しずおか伝統型酵母研究会	令和7年7月	13社・個人・団体

c 富士工業技術支援センター（令和7年7月31日現在）

研究会名	発足年月	会員数
静岡県紙パ技術研究フォーラム	昭和62年9月	10社

d 浜松工業技術支援センター（令和7年7月31日現在）

研究会名	発足年月	会員数
浜松機械技術研究会	昭和39年12月	57社
表面技術研究会	昭和60年8月	38社
浜松繊維加工技術研究会	平成7年7月	13社
浜松品質工学研究会	平成9年3月	34人
浜松EMC研究会	平成20年6月	20社
浜松地域CFRP事業化研究会	平成21年4月	45（社・個人）
はままつ超ハイテン研究会	平成28年6月	14社

(エ) 研修生の受入れ

(目的)

民間及び学生、大学院生等を研修生として受け入れることで、民間企業等の人材育成、学生の就業体験、試験研究機関の研究業務活性化及び大学教育の一層の拡充を図るとともに、県内産業の発展及び本県の科学技術進展に寄与する。

(実績)

令和6年度及び令和7年度の研修生受入れは以下のとおりである。

単位：人

	令和6年度			令和7年度 (7月31日現在)		
	一般 研修	就業体験 研修	連携 大学院	一般 研修	就業体験 研修	連携 大学院
工業技術研究所	10	2	0	2	0	0
沼津工業技術 支援センター	0	0	0	0	0	0
富士工業技術 支援センター	0	0	0	0	0	0
浜松工業技術 支援センター	2	0	0	0	0	0
合計	12	2	0	2	0	0

a 令和6年度研修生の詳細
 (a) 工業技術研究所の研修生

一般研修			
担当部門	研修項目	研修期間	研修生所属・氏名
食品科	水産物を用いた機能性食品素材の開発	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	□□□□ □□□□□
食品科	・ I C P 発光分光分析のための鹿肉、猪肉の湿式灰化 ・ G C / M S を用いた脂肪酸分析 ・ 鹿肉、猪肉のアミノ酸分析	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	□□□□□□ □□□□□□
工芸科	広葉樹の曲げ衝撃強度	令和6年5月12日～ 令和7年3月31日	□□□□□□□ □□□□□
環境エネルギー科	触媒インクの混合方法、塗工方法及び電気化学測定技術の習得	令和6年7月16日～ 令和7年3月31日	□□□□ □□□□□□□□□□ □□□□□□
食品科	水産資源を用いた食品加工技術の習得（凍結乾燥）	令和6年7月29日～ 令和6年8月29日	□□□□ □□□□□
食品科	・ G C / M S を用いたにおいかぎ分析 ・ スープのアミノ酸分析	令和6年9月2日～ 令和7年2月28日	□□□□□□ □□□□□□
食品科	I C P 分析における試料の前処理	令和6年9月27日～ 令和7年2月28日	□□□□ □□□□□
食品科	水産資源を用いた食品加工技術の習得（凍結乾燥）	令和7年1月6日～ 令和7年3月31日	□□□□ □□□□□
就業体験研修（インターンシップ）			
担当部門	研修項目	研修期間	研修生所属・氏名
金属材料科	各科業務内容の体験、所内見学、企業訪問同行	令和6年8月19日～ 令和6年8月23日	□□□□ □□□□□
化学材料科			
食品科			
環境エネルギー科			
工芸科			
環境エネルギー科	県庁仕事スタディーツアー	令和6年11月1日	□□□□ □□□□□
化学材料科			
連携大学院関係			
担当部門	研修項目	研修期間	研修生所属・氏名
受入れなし			

(b) 浜松工業技術支援センターの研修生

一般研修			
担当部門	研修項目	研修期間	研修生所属・氏名
光科	レーザーパワーの測定	令和6年11月15日	□□□□□□□□□□ □□□□ □□□□
材料科	金属3Dプリンタ	令和6年12月12日	□□□□□□□□□□ □□□ □□□□□
就業体験研修（インターンシップ）			
担当部門	研修項目	研修期間	研修生所属・氏名
受入れなし			
連携大学院関係			
担当部門	研修項目	研修期間	研修生所属・氏名
受入れなし			

b 令和7年度研修生の詳細（7月31日現在）

（a）工業技術研究所の研修生

一般研修			
担当部門	研修項目	研修期間	研修生所属・氏名
食品科	食品衛生と食品分析に関する研修	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日	□□□□ □□□□□□□□□□
就業体験研修（インターンシップ）			
担当部門	研修項目	研修期間	研修生所属・氏名
受入れなし			
連携大学院関係			
担当部門	研修項目	研修期間	研修生所属・氏名
受入れなし			

（b）浜松工業技術支援センターの研修生

一般研修			
担当部門	研修項目	研修期間	研修生所属・氏名
受入れなし			
就業体験研修（インターンシップ）			
担当部門	研修項目	研修期間	研修生所属・氏名
受入れなし			
連携大学院関係			
担当部門	研修項目	研修期間	研修生所属・氏名
受入れなし			

ウ 技術情報提供

(目的)

当研究所の業務内容又は職員が収集した技術情報及び研究成果等を、県内企業に役立つ形で提供する。

(実績)

令和6年度及び令和7年度実績は以下のとおりである。

(ア) 研究報告関係

(令和7年度は7月31日現在)

項 目 等	令和6年度	令和7年度
研究成果事例集	協議会等で配布 展示会で配布 ホームページに掲載	協議会等で配布 展示会で配布予定 ホームページに掲載
工業技術研究所研究報告	Web上で公開	Web上で公開予定 (作成中)

(イ) 研究発表会関係

項 目 等		令和6年度	令和7年度
研	工業技術研究所	開催年月日	R7. 3. 4
		演題数	37題
究	沼津工業技術 支援センター	開催年月日	バイオ科は工技研と合同開催 機械電子科は富士と合同開催
		演題数	8題
発	富士工業技術 支援センター	開催年月日	R7. 3. 7
		演題数	11題
表	浜松工業技術 支援センター	開催年月日	R7. 3. 6
		演題数	26題
会			R8. 3(予定)
			—
			R8. 3(予定)
			—
			R8. 3(予定)
			—

a 令和6年度の研究発表会の実績

(a) 令和6年度静岡県工業技術研究所研究発表会の実績

テ ー マ 名	発表者
ユニバーサルデザイン科の紹介	長澤 正
行動観察記録による製品の使いやすさ評価 ―アウトドア用品の1例―	易 強
デザインマッチング事業紹介	及川 貴康
デジタル機器活用によるデザイン支援 ―様々なプリンタを活用して制作物を創ろう―	多々良 哲也
環境エネルギー科の紹介	本間 信行
好気性グラニュールを利用した省スペース型排水処理装置の開発	岡本 哲志
メタン発酵試験装置の紹介	室伏 敬太
回転電極を用いた電気化学測定について	菊池 圭祐
GCによるバイオガス分析について	井口 大輔
工芸科の紹介 ―木材や家具の評価に欠かせない強度試験―	大竹 正寿
木材・木製品等の変色事例の紹介	村松 重緒
材料試験結果に基づく木材破壊基準の検討	船井 孝
バルカナイズドファイバー合板を使用した新規車両用床材の開発	前田 研司
機械電子科の紹介	山下 清光
RFIDタグによる倉庫の物品の管理 (II)	望月 紀寿
生産プロセスシミュレータを活用した企業支援	鈴木 悠介
中小企業版デジタルツインの構築	岩崎 清斗
ゲームエンジンを活用した転倒検知AIモデルの開発	横井 功毅
点群データを使用したバーチャル工場モデルの作成	久保田 大介
化学材料科の紹介	矢嶋 雅
異材混入によるプラスチックの物性への影響	結城 茜
PP/セルロース複合材の混練温度による物性等の変化	田中 翔悟
耐候性試験した樹脂混和物の赤外分光イメージングを使用した形態解析	野澤 遼
照明音響科の紹介	木野 直樹
マイクロプリズムアレイによるピクトグラム投影技術の製品化	豊田 敏裕
高精度自由曲面測定機による光学部品の形状評価	柳原 亘

テ ー マ 名	発表者
信号処理と音声認識技術を利用した音場評価	竹居 翼
食品科の紹介	渡瀬 隆也
超低周波磁界を用いた急速冷凍庫での保存が食品に与える影響の評価	山本 佳奈恵
未利用海藻熱水抽出物のJ774.1細胞サイトカイン産生への影響	長房 秀幸
CNFと香り成分による香りの放散挙動変化	石橋 佳奈
未利用茶の殺菌・洗浄技術開発における衛生度評価	堀池 隼雄
金属材料科の紹介	岩澤 秀
不良解析における事例紹介	吉岡 正行
ポリプロピレン/セルロース繊維複合材へのめっき技術の開発	田中 宏樹
AC4CH合金の熱処理特性に与えるSnの影響	磯部 佑太
セルロースナノファイバーによる香り成分の徐放機構の解明及び放散制御技術の開発	石橋 佳奈

(b) 令和6年度沼津工業技術支援センター研究発表の実績

テ ー マ 名	発表者
バイオ科の紹介	飯塚 千佳世
自然界由来酵母の清酒醸造適性評価	袴田 雅俊
吟醸香豊かな食中酒向け新規静岡酵母の開発	鈴木 雅博
新しい静岡県オリジナル酒造好適米「令和誉富士」の原料米特性評価	新村 駿介
沼津工業技術支援センター機械電子科の紹介	望月 建治
赤外分光分析による分析事例と腐食促進試験装置の紹介	稲葉 彩乃
走査電子顕微鏡 (SEM) による観察・分析のポイント	是永 宗祐
アルミニウム合金鋳造材のヤング率測定手法の検討 ー弾性域が不明瞭な材料のヤング率をどう測るかー	木村 光平

(c) 令和6年度富士工業技術支援センター研究発表会の実績

テ ー マ 名	発表者
CNF科の紹介 -ふじのくにCNF研究開発センターの取組について-	山下 晶平
遠州織物を利用したリサイクル紙の開発	伊藤 彰
富士工業技術支援センターCNF科の紹介 -ふじのくにCNF研究開発センターの取組について-	山下 晶平
リファイナーを用いた低コストCNF製造技術の開発	渡邊 雅之
自動二輪車向けセルロースファイラー複合樹脂の開発	山崎 利樹
富士工業技術支援センター製紙科の紹介	田村 克浩
古紙処理工程における効果の高い低密度化手法の追究 (第1報)	齊藤 将人
廃棄繊維の古紙代替利用に関する研究	伊藤 彰
富士工業技術支援センター機械電子科の紹介	増井 裕久
AIを活用した古紙原料の判別に関する研究 (Ⅱ)	齊藤 和明
画像解析による乳牛の個体識別方法の検討	井出 達樹

(d) 令和6年度浜松工業技術支援センター研究発表会の実績

テ ー マ 名	発表者
デジタルものづくりセンターの紹介	伊藤 芳典
金属3Dプリンタの活用と研究紹介	田光 伸也
アルミのバラを作るーX線CTによる形状取得、3D造形、形状評価ー	太田 幸宏
3Dスキャンとスキャンデータの活用	山口 智之
機械電子科の研究開発・技術支援への取り組み	伊藤 芳典
3Dスキャナを用いた非接触変位測定での測定位置による誤差の変化	長津 義之
車載電子機器に求められているレーダーパルス試験の概要と当センターでの対応状況	山田 浩文
簡易的な電波到来方向推定システムの開発	原口 卓也
繊維高分子材料科の研究開発・技術支援への取り組み	木野 浩成
海水中で分解速度を制御できる漁具用生分解性繊維の開発	大木 結以
モノの色の見え方と色の数値化、光との関係性ー分光測色計を用いた染色評価の事例ー	速水 優妃
熱可塑性炭素繊維強化複合材料（CFRTP）の循環利用	木野 浩成
光科の研究開発・技術支援への取り組み	渥美 博安
光学シミュレーションを用いたマイクロプリズムアレイの設計と製品応用ーラインパターン投影装置の高性能化事例ー	志智 亘
転写用樹脂を用いた光学部品微細凹部の形状評価	中野 雅晴
材料科の研究開発・技術支援への取り組み	菅野 尚子
パウダーベッド方式の金属3Dプリンタでの造形姿勢がアルミニウム合金の機械的特性に及ぼす影響	植松 俊明
パウダーベッド方式の金属3Dプリンタでの積層厚さがアルミニウム合金の緻密化と造形速度に及ぼす影響	望月 智文
金属3Dプリンタで造形した樹脂金型用ステンレス材料の表面性状評価	大澤 洋文
フーリエ変換赤外分光光度計を用いた樹脂等に付着した異物分析	柳原 茉由
成型シミュレーションの精度向上を目的とした高張力鋼板の材料特性データ取得ーバウシinger効果の測定ー	加用 敦也

(ウ) 研究所情報等の提供

(令和7年度は7月31日現在)

刊行物名	令和6年度		令和7年度	
	発行部数 (部)	ホームページ 掲載	発行部数 (部)	ホームページ 掲載
工業技術研究所各科紹介チラシ	—	○	—	○
沼津工業技術支援センターニュース	—	○	—	○
富士工業技術支援センター利用案内	—	○	—	○ (予定)
浜松工業技術支援センターニュース	1,500	○	○ (部数未定)	○ (予定)
静岡県工業技術情報	—	○	—	○
静岡県工業技術研究所年報	—	○	—	○ (予定)
静岡県工業技術研究所メールマガジン (2週間に1回発行)	31回	—	9回	—

(エ) 研究所の事業広報等

(目的)

一般県民に当研究所の業務を理解してもらうとともに、科学技術への興味を持ってもらうため、見学者の受入れや「工業技術研究所フェア」を開催する。

(実績)

令和6年度及び令和7年度の実績・結果は以下のとおりである。

(令和7年度は7月31日現在)

項 目 等		令和6年度	令和7年度	
見学の受入	工業技術研究所	230人	102人	
	沼津工業技術支援センター	116人	6人	
	富士工業技術支援センター	158人	31人	
	浜松工業技術支援センター	703人	292人	
「県民の日」 研究所 フェア 及び センター フェア	工業技術研究所	開催年月日	R6.8.2	R6.8.1 (予定)
		開催内容	・技術教室 4コース、全8回 ・体験ツアー ・地震防災教室	・技術教室 3コース、全6回 ・体験ツアー ・地震防災教室
	沼津工業技術 支援センター	開催年月日	R6.8.2	R6.8.1 (予定)
		開催内容	・実験/工作 2コース、全4回	・実験/工作 2コース、全4回
	富士工業技術 支援センター	開催年月日	R6.8.2	R6.8.1 (予定)
		開催内容	・ものづくり体験教室 2コース、全4回 ・施設見学ツアー	・ものづくり体験教室 3コース、全6回 ・施設見学ツアー
	浜松工業技術 支援センター	開催年月日	R6.8.2	R6.8.1 (予定)
		開催内容	・親子ふれあい技術広場 3コース、全6回 ・見学/体験コーナー	・親子ふれあい技術広場 3コース、全6回 ・一般体験見学

(オ) 講習会等

(目的)

企業経営者及び技術者に新技術等の情報を提供するよう、外部講師の招へい等により、講習会及び講演会を実施する。

(実績)

令和6年度及び令和7年度の実績は以下のとおりである。(令和7年度は7月31日現在)

	令和6年度		令和7年度	
	実施回数	参加者数	実施回数	参加者数
工業技術研究所	29	528	7	188
沼津工業技術支援センター	4	114	2	44
富士工業技術支援センター	16	178	2	40
浜松工業技術支援センター	25	972	11	268
合計	74	1792	22	540

a 令和6年度

(a) 工業技術研究所の実績

年月日	件名	会場	参加者数	共催等
R6. 4. 22	UD・工芸研究会見学会	静岡デザイン専門学校	10	静岡県ユニバーサルデザイン・工芸研究会
R6. 11. 5		伊藤金属総業 明電システムソリューションズ 富士テクニカ宮津	11	
R6. 5. 22	静岡県アウトドア技術研究会見学会	エコウッド景観協同組合	8	静岡県アウトドア技術研究会
R6. 6. 17	食品技術研修会	札の辻クロスホール	41	静岡県食品技術研究会
R6. 9. 26		グランシップ	73	静岡県食品技術研究会、 静岡大学食品・生物産業創出拠点
R6. 11. 29		あざれあ	54	静岡県食品技術研究会
R6. 7. 2	ロボットアーム導入体験会	工業技術研究所	8	—
R6. 7. 2	UD・工芸研究会講習会	第1回 工業技術研究所	28	静岡県ユニバーサルデザイン・工芸研究会
R6. 9. 12		第2回 工業技術研究所	9	
R6. 12. 10		第3回 静岡県教育会館	19	
R7. 2. 13		第4回 工業技術研究所	14	
R6. 7. 5	わかりやすいIoTを用いた現場実装講座	工業技術研究所	10	静岡県IoT導入推進コンソーシアム
R6. 9. 13		浜松工業技術支援センター	10	
R6. 10. 11		沼津工業技術支援センター	5	

年月日	件名	会場	参加者数	共催等
R6. 8. 27	R F I D活用 基礎セミナー	工業技術研究所	10	—
R6. 9. 26～27	ナノセルローズ・実習コース第1期（2024年度）	工業技術研究所	10	ナノセルローズジャパン 静岡大学、富士市
R6. 10. 9	表面粗さの規格/光学部品の最新形状評価セミナー	工業技術研究所	15	—
R6. 10. 10	静岡県アウトドア技術研究会ワークショップ	第2プロジェクト研究室	11	静岡県アウトドア技術研究会
R6. 10. 23	デジタル技術獲得講座（1次産業編）	工業技術研究所	7	学校法人静岡理工科大学
R6. 10. 25		工業技術研究所	10	
R7. 1. 21	わかりやすいI o Tを用いた現場実装講座成果発表会	浜松工業技術支援センター	14	静岡県I o T導入推進コンソーシアム
R7. 2. 13		沼津工業技術支援センター	5	
R6. 11. 26	I o Tの最新動向セミナー	工業技術研究所	11	—
R6. 12. 6	金型表面技術と非接触測定データを活用したモノづくり事例	工業技術研究所	26	静岡県プレス技術研究会
R6. 12. 10	学習会「水素製造技術の最新動向」	工業技術研究所	21	静岡県資源環境技術研究会
R7. 1. 31	デジタル技術獲得講座（1次産業編）成果発表会	学校法人静岡理工科大学駅前キャンパス	5	学校法人静岡理工科大学
R7. 2. 18	環境技術研修会「A I ・ I o T技術研修会」	工業技術研究所	46	静岡県資源環境技術研究会
R7. 2. 25	3 Dプリンターに関する講習会	工業技術研究所	15	—
R7. 2. 27	令和6年度 水処理技術セミナー	工業技術研究所	22	静岡県資源環境技術研究会
実施回数 29回			参加者数 528人	

(b) 沼津工業技術支援センターの実績

年月日	件名	会場	参加者数	共催等
R6. 4. 17	技術セミナー「エネルギー分散型X線分析装置（SEM-EDS）の基礎」	沼津工業技術支援センター	21	沼津センター協議会
R6. 6. 27	静岡県バイオテクノロジー研究会特別講演会	クーポール会館	24	静岡県バイオテクノロジー研究会
R6. 9. 3～4	酒造研修	もくせい会館	50	—
R7. 1. 24	静岡県バイオテクノロジー研究会企業発表会・講演会	あざれあ	19	静岡県バイオテクノロジー研究会
実施回数 4回			参加者数 114人	

(c) 富士工業技術支援センターの実績

年月日	件名	会場	参加者数	共催等
R6.5.8	静岡県紙パ技術研究 フォーラム技術勉強 会	富士工業技術支援セ ンター	14	—
R6.7.16			17	
R6.7.31	第1回紙パルプ技術セミナー	富士工業技術支援セ ンター	39	富士センター協議会製紙部会
R6.8.21	TEMPO酸化CNF製造 実習	富士工業技術支援セ ンター	6	—
R6.9.20	ロボット・AI活用セミナー	富士工業技術支援セ ンター	40	富士センター協議会機械電子部 会
R6.9.27	ナノセルロース・実習コース	富士工業技術支援セ ンター	11	富士市、静岡大学
R6.12.12			7	富士市
R7.2.19	多関節アーム型3Dスキャ ナ活用セミナー	富士工業技術支援セ ンター	22	富士センター協議会機械電子部 会
R7.3.11	CNF技術者研修	富士工業技術支援セ ンター	3	—
R7.3.12			1	
R7.3.13			4	
R7.3.14			4	
R7.3.18			3	
R7.3.25			1	
R7.3.26			5	
R7.3.27			1	
実施回数 16回			参加者数 178人	

(d) 浜松工業技術支援センターの実績

年月日	件名	会場	参加者数	共催等
R6. 4. 19	精密測定セミナー『フレッシュマンのための精密測定技術の基礎と画像測定機』	浜松工業技術支援センター	47	浜松センター協議会 浜松機械技術研究会
R6. 6. 3	金属3Dプリンタ活用セミナー7	浜松工業技術支援センター	74	浜松センター協議会 静岡県積層造形技術協議会
R6. 6. 13	熱流体解析ワークショップ～フレッシュマンのための熱流体解析の基礎とシミュレーション実習～	浜松工業技術支援センター	8	—
R6. 6. 18	フレッシュマンのための非破壊計測セミナー～X線CTの基礎と活用事例紹介～	浜松工業技術支援センター	20	浜松機械技術研究会
R6. 6. 20～21	金属3Dプリンタ活用ワークショップ(4)	浜松工業技術支援センター	7	浜松センター協議会 静岡県積層造形技術協議会
R6. 7. 5	電子機器の電磁妨害耐性(イミュニティ)試験規格の基礎と最新動向	浜松工業技術支援センター	31	浜松センター協議会 浜松EMC研究会
R6. 7. 18	SOLIDWORKSを使った強度シミュレーション基礎講座～構造解析の基礎と実習～	浜松工業技術支援センター	10	—
R6. 7. 31	デジタル化等促進在職者訓練「積層造形金属3Dプリンタ入門」	浜松工業技術支援センター	2	—
R6. 8. 27	リバースエンジニアリング体験ワークショップ～非接触3Dスキャナと点群データからの3Dモデリング～	浜松工業技術支援センター	12	浜松機械技術研究会 はままつ超ハイテン研究会
R6. 9. 25	金属3Dプリンタ活用セミナー8	浜松工業技術支援センター	66	浜松センター協議会 静岡県積層造形技術協議会
R6. 10. 1	多関節アーム型3Dスキャナ活用セミナー	浜松工業技術支援センター	29	—
R6. 10. 3	電磁ノイズ対策セミナー～ノイズトラブルの実態とその対策手法～	浜松工業技術支援センター	55	浜松センター協議会 浜松EMC研究会
R6. 10. 30	浜松地域CFRP事業化研究会技術講演会(2024)ー熱可塑性樹脂ROSの特徴とリサイクル性ー	浜松工業技術支援センター	34	はままつ超ハイテン研究会
R6. 10. 31	製造業を支えるレーザー微細加工技術	浜松工業技術支援センター	39	浜松市
R6. 11. 22	はままつ超ハイテン研究会講演会2024	静岡大学工学部	121	—
R6. 12. 3～4	MEET UP CHUBU×積層造形(金属3Dプリンタ活用セミナー9)	Co-startup Space & Community FUSE	147	経済産業省中部経済産業局 静岡県積層造形技術協議会
R6. 12. 11～12	金属3Dプリンタ活用ワークショップ(5)	浜松工業技術支援センター	4	浜松センター協議会 静岡県積層造形技術協議会

年月日	件名	会場	参加者数	共催等
R6. 12. 11	車載電子部品 E M C 試験勉強会	浜松工業技術支援センター	13	浜松 E M C 研究会
R6. 12. 13	光学設計ソフトウェア紹介体験セミナー	浜松工業技術支援センター	11	—
R6. 12. 18	プレス成形シミュレーションセミナー ～材料特性に関する講演及びAutoFormハンズオンワークショップ～	浜松工業技術支援センター	24	—
R7. 1. 20	金属 3 D プリント活用セミナー10	浜松工業技術支援センター	47	静岡県積層造形技術協議会
R7. 2. 4	フェライトコア、コイル、コンデンサー等を使った電源ノイズ対策	浜松工業技術支援センター	24	浜松センター協議会 浜松 E M C 研究会
R7. 2. 28	金属 3 D プリント活用セミナー11	浜松工業技術支援センター	70	静岡県積層造形技術協議会
R7. 3. 14	役立つ促進耐候性及び耐食性試験セミナー ～基礎知識から試験時に気をつけるポイントまで～	浜松工業技術支援センター	46	浜松センター協議会
R7. 3. 19	品質工学講演会	(Web)	31	浜松品質工学研究会
実施回数 25 回			参加者数 972 人	

b 令和7年度（7月31日現在）

(a) 工業技術研究所の実績

年月日	件名	会場	参加者数	共催等
R7.4.11	プレス技術の生産性向上に貢献する技術紹介	工業技術研究所	27	静岡県プレス技術研究会
R7.6.11	「製造業のためのやさしいIoT入門セミナー」 in 沼津	沼津工業技術支援センター	16	静岡県AI・IoT導入推進コンソーシアム
R7.6.17	「IoT環境構築のための技術知識講座」	(Web)	30	静岡県AI・IoT導入推進コンソーシアム
R7.6.25	第1回静岡県ユニバーサルデザイン・工芸研究会講習会	工業技術研究所	31	静岡県ユニバーサルデザイン・工芸研究会
R7.6.26	MATLABで実践！ 外観検査AIシステムの開発	工業技術研究所	17	—
R7.6.27	食品技術研修会	静岡市産学交流センター	54	静岡県食品技術研究会
R7.7.11	「わかりやすいIoTを用いた現場実装講座」 Raspberry Pi 5を用いた体験講座	工業技術研究所	13	静岡県AI・IoT導入推進コンソーシアム
実施回数 7回			参加者数	188人

(b) 沼津工業技術支援センターの実績

年月日	件名	会場	参加者数	共催等
R7.5.9	令和6酒造年度全国新酒鑑評会出品酒利き酒勉強会	静岡県酒造組合会館	18	—
R7.6.25	静岡県バイオテクノロジー研究会特別講演会	静岡県男女共同参画センターあざれあ	26	静岡県バイオテクノロジー研究会
実施回数 2回			参加者数	44人

(c) 富士工業技術支援センターの実績

年月日	件名	会場	参加者数	共催等
R7.6.18	カーボンニュートラル時代の「新製品開発」と「防災」	富士工業技術支援センター	19	富士センター協議会
R7.6.27	静岡県紙パ技術研究フォーラム技術勉強会	富士工業技術支援センター	21	静岡県紙パ技術研究フォーラム
実施回数 2回			参加者数	40人

(d) 浜松工業技術支援センターの実績

年月日	件名	会場	参加者数	共催等
R7.4.18	現場で役立つ金属材料試験の基礎と応用セミナー	浜松工業技術支援センター	54	—
R7.5.27	フレッシュマンのためのEMCノイズ対策セミナー(基礎編)	浜松工業技術支援センター	41	浜松センター協議会 浜松EMC研究会
R7.6.3	振動試験セミナー『フレッシュマンのための信頼性試験の基礎と振動試験の注意点』	浜松工業技術支援センター	21	浜松機械技術研究会 浜松センター協議会
R7.6.5	金属3Dプリンタ活用セミナー12	浜松工業技術支援センター	78	浜松センター協議会 静岡県積層造形技術協議会
R7.6.12	SOLIDWORKSを使った強度シミュレーション基礎講座～構造解析の基礎と実習～	浜松工業技術支援センター	12	—
R7.6.18～19	金属3Dプリンタ活用ワークショップ(6)	浜松工業技術支援センター	6	浜松センター協議会 静岡県積層造形技術協議会
R7.6.23	非破壊計測セミナー～フレッシュマンのためのX線(CT)撮影の基礎～	浜松工業技術支援センター	10	浜松機械技術研究会 浜松センター協議会
R7.7.3	2DCAD・部品加工ユーザーのための3DCAD体験ワークショップ	浜松工業技術支援センター	10	—
R7.7.4	3DCAD導入済み企業向けの製品開発フローの強化術～設計からCAE、製造現場までつなぐデジタル活用の最前線～	浜松工業技術支援センター	8	—
R7.7.11	産業用ロボット導入支援セミナー	浜松工業技術支援センター	25	浜松商工会議所 浜松センター協議会 浜松機械技術研究会
R7.7.25	デジタル化等促進在職者訓練「金属3Dプリンタ入門」	浜松工業技術支援センター	3	浜松技術専門校
実施回数 11回			参加者数 268人	

(カ) 講師活動

(目的)

企業経営者及び技術者等に新技術等の情報を提供するよう、講習会及び講演会等で職員が講演を実施する。

(実績)

令和6年度及び令和7年度の実績は以下のとおりである。(令和7年度は7月31日現在)

	令和6年度		令和7年度	
	活動回数	参加者数	活動回数	参加者数
工業技術研究所	22	887	6	229
沼津工業技術 支援センター	12	871	4	213
富士工業技術 支援センター	13	126	2	88
浜松工業技術 支援センター	22	371	6	115
合計	69	2255	18	645

a 令和6年度

(a) 工業技術研究所の実績

年月日	講習会等の名称		会場	参加者数	主催	講師氏名
R6.7.5	わかりやすいIoTを用いた現場実装講座		工業技術研究所	10	静岡県IoT導入推進コンソーシアム	横井 功毅
R6.7.19	(公社) 鋳造工学会軽合金研究部会シンポジウム		早稲田大学	90	(公社) 鋳造工学会	岩澤 秀
R6.7.25	総合食品学講座	パイロットプラントの紹介&講義	工業技術研究所	20	(公財) 静岡県産業振興財団	渡瀬 隆也 松野 正幸 山本 佳奈恵 石橋 佳奈 長房 秀幸 堀池 隼雄
R6.9.5		食品の劣化と保存のポイント、発酵の基礎		33		長房 秀幸 石橋 佳奈
R6.10.1		試作品作成実習		9		渡瀬 隆也 松野 正幸 山本 佳奈恵 石橋 佳奈 長房 秀幸 堀池 隼雄
R6.10.3		試作品作成実習		10		
R6.10.10		試作品評価実習		19		
R6.10.15		微生物実習I		16		
R6.10.17		微生物実習II		19		
R6.8.20		鋳造カレッジ		機械振興会館		
R6.10.4	(公社) 鋳造工学会若手技術討論会		(株) スギヤマ	35	(公社) 鋳造工学会	岩澤 秀 磯部 佑太
R6.10.10	静岡県アウトドア技術研究会ワークショップ		工業技術研究所	11	静岡県アウトドア技術研究	易 強
R6.11.1	Node-RED Con 2024 Osaka		グラングリーン大阪	45	さくらインターネット(株)	岩崎 清斗
R6.11.28	〈製造業DX〉AIとデジタルツインで「業務効率化」を目指せ！スマート生産革命		SHIP	26	(株) スカイディスク	岩崎 清斗
R6.11.28	技術講習		不二電子工業(株)	6	工業技術研究所	吉岡 正行
R6.12.16			朝日電装(株)	30		
R7.1.22			(株) アイエイアイ	29		

年月日	講習会等の名称	会場	参加者数	主催	講師氏名
R6.12.12	静岡地域食材学B	静岡県立大学	41	静岡県立大学	長房 秀幸
R6.12.13	静岡県デジタル技術獲得講座 [物流編]	工業技術研究所	7	学校法人静岡理工科大学	久保田 大介
R7.2.1	Unreal Engine Meetup in Shizuoka Vol.1	(株)静岡新聞社	130	FutureSoftware	岩崎 清斗
R7.2.16	Scaniverse Japan Meetup in 掛川	大日本報徳社	262	Niantec Inc.	岩崎 清斗
R7.2.18	A I ・ I o T 技術研修会（令和6年度環境技術研修会）	工業技術研究所/ Web	34	静岡県資源環境技術研究会	岩崎 清斗
活動回数 22回			参加者数 887人		

(b) 沼津工業技術支援センターの実績

年月日	講習会等の名称	会 場	参加者数	主 催	講師氏名
R6. 6. 18	G I 静岡スタートアップ交流会	ホテルグランヒルズ静岡	170	名古屋国税局	鈴木 雅博
R6. 6. 28	令和6年度第1回静岡県ガストロノミーツーリズム研究会	沼津市民文化センター	70	(一財) 静岡新食文化共創機構	鈴木 雅博
R6. 7. 20	南アルプス高山植物由来酵母とウイスキー&交流会	B-nest/静岡市産学交流センター	70	静岡大学	鈴木 雅博
R6. 9. 3~4	酒造研修	もくせい会館	50	沼津工業技術支援センター 静岡県酒造組合 静岡県杜氏研究会	鈴木 雅博 袴田 雅俊 新村 駿介
R6. 10. 11	わかりやすいIoTを用いた現場実装講座	沼津工業技術支援センター	3	静岡県IoT導入推進コンソーシアム	望月 建治
R6. 10. 13	南アルプスユネスコエコパーク登録10周年記念連続シンポジウム「南アルプスの水と酒造り」	レイアップ御幸町ビル	25	静岡大学	鈴木 雅博
R6. 11. 8	粋に愉しむ 日本酒ワールド 金曜	浜松アクトタワー	15	NHKカルチャー浜松教室	鈴木 雅博
R6. 11. 24	「G I 静岡」指定一周年記念 G I 静岡認定酒と地場食材とのペアリング	ホテルグランヒルズ静岡	100	静岡県酒造協同組合	袴田 雅俊
R6. 12. 7	静岡大学社会人リカレントセミナー	静岡大学静岡キャンパス	15	静岡大学	鈴木 雅博
R7. 2. 26	第9回静岡クラフトビールの会	沼津市大手町商店街振興組合「さんさんホール」	38	静岡クラフトビールの会	袴田 雅俊
R7. 3. 19	第29回杜氏セミナー	(Web)	300	(公財) 日本醸造協会	鈴木 雅博
R7. 3. 20	粋に愉しむ 日本酒ワールド 木曜	浜松アクトタワー8階	15	NHKカルチャー浜松教室	鈴木 雅博
活動回数 12回			参加者数 871人		

(c) 富士工業技術支援センターの実績

年月日	講習会等の名称	会 場	参加者数	主 催	講師氏名
R6. 7. 16	静岡県紙パ技術研究フォーラム 技術勉強会	富士工業技術支援センター	17	静岡県紙パ技術研究フォーラム	齊藤 和明
R6. 8. 21	TEMPO酸化CNF製造実習	富士工業技術支援センター	6	富士工業技術支援センター	渡邊 雅之
R6. 9. 27	ナノセルロース・実習コース	富士工業技術支援センター	11	富士工業技術支援センター	山崎 利樹
R6. 12. 12 ～13			7		渡邊 雅之
R6. 11. 15	繊維学会紙パルプ研究委員会シンポジウム	東京大学農学部中島董一郎記念ホール	63	繊維学会紙パルプ研究委員会	齊藤 和明
R7. 3. 11	CNF技術者研修	富士工業技術支援センター	3	富士工業技術支援センター	小坪 慎太郎
R7. 3. 12			1		山崎 利樹
R7. 3. 13			4		渡邊 雅之 山崎 利樹
R7. 3. 14			4		渡邊 雅之 山崎 利樹
R7. 3. 18			3		渡邊 雅之 小坪 慎太郎
R7. 3. 25			1		小坪 慎太郎
R7. 3. 26			5		渡邊 雅之
R7. 3. 27			1		小坪 慎太郎
活動回数 13回			参加者数 126人		

(d) 浜松工業技術支援センターの実績

年月日	講習会等の名称	会 場	参加者数	主 催	講師氏名
R6. 6. 3	金属 3 D プリント活用セミナー 7	浜松工業技術支援センター	74	浜松工業技術支援センター	植松 俊明
R6. 6. 18	フレッシュマンのための非破壊計測セミナー	浜松工業技術支援センター	20	浜松工業技術支援センター	太田 幸宏
R6. 6. 20 ~ 21	金属 3 D プリント活用ワークショップ	浜松工業技術支援センター	(4)	浜松工業技術支援センター	菅野 尚子 田光 伸也 植松 俊明 望月 智文
R6. 6. 20 ~ 22			(5)		
R6. 7. 18	連携大学院制度による客員教授としての学生指導	静岡大学工学部	1	静岡大学工学部	中野 雅晴
R6. 7. 26			1		
R6. 10. 21			1		
R6. 11. 7			1		
R7. 1. 7			1		
R7. 1. 9			1		
R7. 1. 16			1		
R7. 1. 28			1		
R6. 8. 27	リバーズエンジニアリング体験ワークショップ	浜松工業技術支援センター	12	浜松工業技術支援センター	長津 義之
R6. 9. 13	I o T 大学連携講座	浜松工業技術支援センター	10	静岡県産業振興財団	太田 幸宏
R6. 10. 1	多関節アーム型 3 D スキャナ活用セミナー	浜松工業技術支援センター	29	浜松工業技術支援センター	長津 義之
R6. 10. 16	プレス成形シミュレーションのための材料パラメータについて	浜松工業技術支援センター	20	はままつ超ハイテク研究会	長津 義之
R6. 10. 23 ~ 25	レーザー中核人材育成講座「レーザー加工実習 2 A, 2 B」	浜松工業技術支援センター	19	光産業創成大学院大学	渥美 博安 中野 雅晴 志智 亘 植田 浩安

年月日	講習会等の名称	会場	参加者数	主催	講師氏名
R6.12.4	デジタルものづくり研究会	浜松工業技術支援センター	30	経済産業省中部経済産業局 浜松工業技術支援センター 静岡県積層造形技術協議会	伊藤 芳典 田光 伸也
R6.12.18	プレス成形シミュレーションセミナー ～材料特性に関する講演及びAutoFormハンズオンワークショップ～	浜松工業技術支援センター	24	浜松工業技術支援センター	長津 義之
R7.2.19	多関節アーム型3Dスキャナ活用セミナー@富士工業技術支援センター	富士工業技術支援センター	22	浜松工業技術支援センター	長津 義之
R7.3.14	耐候性試験及び耐食性試験セミナー	浜松工業技術支援センター	46	浜松工業技術支援センター	望月 智文
R7.3.14	役立つ促進耐候性及び耐食性試験セミナー ～基礎知識から試験時に気をつけるポイントまで～	浜松工業技術支援センター	46	浜松工業技術支援センター	木野 浩成
活動回数 22 回			参加者数 371 人		

b 令和7年度（7月31日現在）

(a) 工業技術研究所の実績

年月日	講習会等の名称	会場	参加者数	主催	講師氏名
R7.6.11	「製造業のためのやさしいIoT入門セミナー」 in 沼津	沼津工業技術支援センター	16	静岡県AI・IoT導入推進コンソーシアム	横井 功毅
R7.6.17	「IoT環境構築のための技術知識講座」	(Web)	30	静岡県AI・IoT導入推進コンソーシアム	横井 功毅
R7.6.18	第23回産総研・産技連LS-BT合同研究発表会	産業技術総合研究所つくばセンター	130	国立研究開発法人 産業技術総合研究所・産業技術連携推進会議 ライフサイエンス部会 バイオテクノロジー分科会	室伏 敬太
R7.7.11	「わかりやすいIoTを用いた現場実装講座」 Raspberry Pi 5を用いた体験講座	工業技術研究所	13	静岡県AI・IoT導入推進コンソーシアム	横井 功毅
R7.7.24	総合食品学講座	工業技術研究所	20	(公財) 静岡県産業振興財団ウェルネス・フーズ産業支援センター	渡瀬 隆也 松野 正幸 山本 佳奈恵 長房 秀幸 石橋 佳奈 堀池 隼雄
R7.7.31	総合食品学講座	工業技術研究所	20	(公財) 静岡県産業振興財団ウェルネス・フーズ産業支援センター	渡瀬 隆也 松野 正幸 山本 佳奈恵 長房 秀幸 石橋 佳奈 堀池 隼雄
活動回数 6 回			参加者数 229人		

(b) 沼津工業技術支援センターの実績

年月日	講習会等の名称	会場	参加者数	主催	講師氏名
R7. 4. 11	誉富士交流会	ホテルグランヒルズ静岡	65	静岡県誉富士普及推進協議会	鈴木 雅博
R7. 5. 9	令和 6 酒造年度全国新酒鑑評会出品酒利き酒勉強会	静岡県酒造組合会館	18	沼津工業技術支援センター	勝山 聡 袴田 雅俊 鈴木 雅博 新村 駿介
R7. 6. 7	静岡朝日テレビカルチャー静岡スクール 「地酒ライター 鈴木真弓の日本酒講座 しずおか 酒と人 2025年4月～9月期」	新静岡セノバ5階	20	静岡朝日テレビカルチャー静岡スクール	鈴木 雅博
R7. 7. 12	酒と食の文化の実践的理解シンポジウム	岐阜大学応用生物科学部	110	岐阜大学応用生物科学部	鈴木 雅博
活動回数 4 回			参加者数 213 人		

(c) 富士工業技術支援センターの実績

年月日	講習会等の名称	会場	参加者数	主催	講師氏名
R7. 6. 25	令和 7 年度製紙工学技術者新入社員研修 座学	富士工業技術支援センター	44	(一社) 静岡県紙パルプ技術協会	田村 克浩
R7. 6. 26	令和 7 年度製紙工学技術者新入社員研修 実習	富士工業技術支援センター	44	(一社) 静岡県紙パルプ技術協会	田村 克浩 齊藤 将人 伊藤 彰 佐野 重光 松永 良美 佐野 知恵
活動回数 2 回			参加者数 88 人		

(d) 浜松工業技術支援センターの実績

年月日	講習会等の名称	会 場	参加者数	主 催	講師氏名
R6.6.5	金属3Dプリンタ活用セミナー12	浜松工業技術支援センター	78	浜松工業技術支援センター	田光 伸也
R6.6.18 ~19	金属3Dプリンタ活用ワークショップ(6)	浜松工業技術支援センター	6	浜松工業技術支援センター	菅野 尚子 田光 伸也 植松 俊明 望月 智文
R7.7.2	連携大学院制度による客員教授としての学生指導	静岡大学工学部	1	静岡大学工学部	中野 雅晴
R7.7.16					
R7.7.23					
R7.7.29	金型工業会主催の勉強会	浜松工業技術支援センター	30	(一社)金型工業会 浜松部会	長津 義之 山口 智之
活動回数 6 回			参加者数 115 人		

(キ) 委員派遣

(目的)

委嘱を受けた場合に職員を委員として出席させ、知見や新技術の情報等を提供する。

(実績)

令和6年度及び令和7年度の実績は以下のとおりである。 (令和7年度は7月31日現在)

	令和6年度		令和7年度	
	派遣回数	延べ派遣者数	派遣回数	延べ派遣者数
工業技術研究所	56	56	21	23
沼津工業技術 支援センター	28	33	4	9
富士工業技術 支援センター	41	45	17	17
浜松工業技術 支援センター	58	63	26	29
合計	183	197	68	78

a 令和6年度

(a) 工業技術研究所の実績

年月日	委員会等の名称	会場	主催	派遣者氏名
R6. 4. 8	(公社) 鑄造工学会東海支部工場見学委員会	(Web)	(公社) 鑄造工学会東海支部	岩澤 秀
R6. 4. 12		シャインズ		
R6. 4. 22		(Web)		
R6. 5. 6				
R6. 6. 3				
R6. 8. 28		豊橋 (現地)	(公社) 鑄造工学会	
R6. 9. 17		(Web)		
R6. 10. 18		新東工業 (株)、浜北工業 (株)		
R6. 10. 29		リョービ (株)		
R7. 1. 22		(Web)		
R6. 5. 24	食品等開発助成事業及び化粧品等研究開発推進事業助成金に係る審査委員会	静岡県産業経済会館	(公財) 静岡県産業振興財団フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションセンター	油上 保
R7. 2. 26				
R6. 5. 31	海洋技術開発促進事業費補助金審査委員会	(Web)	新産業集積課	油上 保
R6. 6. 5	(公社) 鑄造工学会軽合金研究部会	(Web)	(公社) 鑄造工学会	岩澤 秀
R6. 12. 9				
R6. 6. 25	I S O国内委員会	(Web)	(一社) 日本規格協会	柳原 亘
R6. 11. 13				
R7. 2. 18				
R6. 6. 25	J I S素案作成委員会	(Web)	(一社) 日本規格協会	柳原 亘
R6. 9. 17				
R6. 11. 13				
R6. 12. 18				
R7. 2. 18				

年月日	委員会等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R6. 7. 17	富士山麓先端健康産業集積プロジェクト推進事業 医療機器等開発可能性調査審査会	書面会議	(公財) ふじのくに医療城下町推進機構	油上 保
R6. 10. 11				
R6. 7. 18	技能検定実技試験(塗装)補佐員	県立工科短期大学校	静岡県職業能力開発協会	村松 重緒
R6. 8. 9				船井 孝
R6. 8. 19				前田 研司
R6. 8. 27				村松 重緒
R6. 9. 5				前田 研司
R6. 9. 17				船井 孝
R6. 9. 25				前田 研司
R6. 10. 21				船井 孝
R6. 11. 5				村松 重緒
R6. 11. 14				
R6. 11. 26				
R6. 7. 23	研究調査委員会	(Web)	(一社) 照明学会	豊田 敏裕
R6. 12. 9				
R6. 12. 11				
R7. 3. 31				
R6. 10. 9	溶接コンクール	ポリテクセンター静岡	静岡県溶接工業協同組合	岩澤 秀
R7. 1. 15				
R6. 11. 5	令和7年度 第17回焼津水産ブランド認定評価審査会(専門審査員)	焼津商工会議所	焼津商工会議所 焼津水産ブランド事業協議会	渡瀬 隆也
R6. 11. 21	令和6年第1回授賞選考委員会	(Web)	(公社) 日本食品科学工学会	渡瀬 隆也
R6. 11. 26	D2Cセミナー等開催業務委託に係る企画提案審査委員会	(Web)	地域産業課	油上 保
R6. 12. 19	静岡県創エネ・蓄エネ技術開発推進事業費補助金検討委員会	(Web)	エネルギー政策課	油上 保

年月日	委員会等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R6. 12. 25	核心的製品試作委託審査会	書面会議	(公財) ふじのくに医療城下町推進機構	油上 保
R7. 2. 28	(公社) 鑄造工学会東海支部理事会	(Web)	(公社) 鑄造工学会	岩澤 秀
R7. 3. 12	マリンオープンイノベーション事業化促進事業費補助金審査委員会	県庁	新産業集積課	油上 保
R7. 3. 13	海洋技術開発促進事業費補助金審査委員会	(Web)	新産業集積課	油上 保
R7. 3. 16	溶接技術競技大会	ポリテクセンター静岡	静岡県溶接工業協同組合	岩澤 秀
R7. 3. 19		工業技術研究所		
R7. 3. 25		工業技術研究所		
R7. 3. 26		ポリテクセンター静岡		
R7. 3. 21	総合食品学講座 事業推進委員会	静岡県産業経済会館	(公財) 静岡県産業振興財団フーズヘルスケアオープンイノベーションセンター	渡瀬 隆也
派遣回数 56 回			派遣人数 (延べ) 56 人	

(b) 沼津工業技術支援センターの実績

年月日	委員会等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R6. 4. 2	令和6年静岡県清酒鑑評会表彰式	ホテルグランヒルズ静岡	静岡県酒造組合 沼津工業技術支援センター	飯野 修 杉本 芳邦 鈴木 雅博
R6. 5. 15	令和6年度富士山麓産業支援ネットワーク会議	(公財) ふじのくに医療城下町推進機構ファルマバレー センター	(公財) ふじのくに医療城下町推進機構ファルマバレー センター	黒瀬 智英子
R6. 7. 17		(Web)		
R6. 9. 18		(公財) ふじのくに医療城下町推進機構ファルマバレー センター		
R6. 11. 20		(公財) ふじのくに医療城下町推進機構ファルマバレー センター		
R7. 1. 15		(公財) ふじのくに医療城下町推進機構ファルマバレー センター		
R7. 3. 11		(Web)		
R6. 6. 17	静岡大学全学教育科目講義科目「地域と生活の科学」講義	静岡大学静岡キャンパス	静岡大学大学教育センター	鈴木 雅博
R6. 7. 3	令和6年度静岡県誉富士普及推進協議会幹事会	県庁	静岡県誉富士普及推進協議会	飯野 修
R6. 8. 5	静岡県創業者育成施設複数室使用承認に係るヒアリング	沼津工業技術支援センター	産業イノベーション推進課	鬼久保 郁雄 黒瀬 智英子
R6. 9. 8	生物工学会大会審査員	東京工業大学大岡山キャンパス	日本生物工学会	鈴木 雅博
R6. 9. 10	ぬまづ技能マイスター及びぬまづITマイスター認定審査会	沼津商工会議所	沼津商工会議所	飯野 修
R6. 9. 24	静岡県科学技術振興表彰選考委員会	(Web)	商工振興課	飯野 修
R6. 10. 3	静岡県創業者育成施設複数室使用承認に係るヒアリング	沼津工業技術支援センター	産業イノベーション推進課	鬼久保 郁雄 黒瀬 智英子
R6. 10. 6	全国高等専門学校 ロボットコンテスト2024 東海北陸地区大会 審査員	プラサ ヴェルデ	全国高等専門学校連合会、NHK、NHKエンタープライズ	飯野 修
R6. 11. 7	静岡県科学技術振興表彰・静岡県経営革新優秀賞 公益財団法人静岡県産業振興財団理事長表彰 合同表彰式	静岡県庁	静岡県、公益財団法人静岡県産業振興財団	飯野 修
R6. 11. 15	静岡県創業者育成施設入居審査委員会	静岡県庁	産業イノベーション推進課	飯野 修

年月日	委員会等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R6. 11. 15	静岡大学全学教育科目「発酵とサステナブルな地域社会」	静岡大学静岡キャンパス	静岡大学	鈴木 雅博
R6. 11. 22	沼津工業高等専門学校運営諮問会議	(独行)国立高等専門学校機構沼津工業高等専門学校	(独行)国立高等専門学校機構沼津工業高等専門学校	飯野 修
R6. 11. 25	ぬまづ技能マイスター及びぬまづITマイスター認定式	沼津リバーサイドホテル	沼津商工会議所	飯野 修
R7. 2. 13	全国市販酒類調査	名古屋国税局	名古屋国税局	鈴木 雅博
R7. 3. 11	杜氏研究会持ち寄り新酒研究会	萬惣屋	静岡県杜氏研究会	鈴木 雅博 新村 駿介
R7. 3. 12	愛知県新酒品評会	あいち産業科学技術総合センター	愛知県酒造組合	鈴木 雅博
R7. 3. 13	岐阜県新酒鑑評会	岐阜県食品科学研究所	岐阜県酒造組合	鈴木 雅博
R7. 3. 14	三重県新酒品評会	三重県工業研究所	三重県酒造組合	袴田 雅俊
R7. 3. 19	ふじのくに先端医療総合特区地域協議会	(Web)	ふじのくに先端医療総合特区地域協議会	飯野 修
R7. 3. 19	名古屋国税局新酒品質評価会	名古屋国税局	名古屋国税局	鈴木 雅博
R7. 3. 25	名古屋国税局ビールワークショップ	名古屋国税局	名古屋国税局	鈴木 雅博
派遣回数 28回			派遣人数 (延べ)	33人

(c) 富士工業技術支援センターの実績

年月日	委員会等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名	
R6. 4. 22	紙パルプ試験規格委員会	第116回	(Web)	紙パルプ技術協会	齊藤 将人
R6. 6. 28		第117回	銀座区民館		
R6. 7. 30		第118回	銀座区民館		
R6. 9. 27		第119回	銀座区民館		
R6. 11. 6		第120回	銀座区民館		
R6. 12. 23		第121回	銀座区民館		
R7. 2. 17		第122回	(Web)		
R7. 3. 31		第123回	銀座区民館		
R6. 5. 8	富士地域再生家庭紙利用促進協議会	富士市消防防災庁舎	富士地域再生家庭紙利用促進協議会	田中 伸佳	
R6. 5. 15	令和6年度第1回富士山麓産業支援ネットワーク会議	(公財) ふじのくに医療城下町推進機構	ファルマバレーセンター	小泉 雄輔	
R6. 5. 15	令和6年度理事会	ホテルグランド富士	(一社) 静岡県紙パルプ技術協会	田中 伸佳	
R6. 8. 21					
R6. 12. 10					
R7. 3. 13					
R6. 5. 16	紙パルプ技術協会木材科学委員会	第233回	(Web)	紙パルプ技術協会	田中 伸佳
R6. 7. 22		第234回			
R6. 9. 11		第235回			
R6. 12. 6		第236回			
R7. 3. 4		第237回			
R6. 5. 28	令和6年度通常総会	ホテルグランド富士	(一社) 静岡県紙業協会	田中 伸佳	
R6. 6. 10		富士市新環境クリーンセンター	岳南地域地下水利用対策協議会		
R6. 6. 11	第77回定時総会	ホテルグランド富士	(一社) 静岡県紙パルプ技術協会	田中 伸佳	
R6. 6. 17	富士ブランド推進会議	富士商工会議所	富士商工会議所	田中 伸佳	
R6. 8. 9					

年月日	委員会等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名	
R6. 6. 20	機能紙研究会理事会	岡山国際交流センター タワーホール船堀	特定非営利活動法人機能紙研究会	田中 伸佳	
R6. 11. 20				機能紙研究会企画・編集委員会	齊藤 将人
R6. 11. 21				機能紙研究会総会・発表会・見学会	田中 伸佳 齊藤 将人
R6. 6. 25～26	第71回紙パルプ研究発表会 優秀発表賞審査	東京大学	紙パルプ技術協会	田中 伸佳	
R6. 7. 4～17	(一社) 静岡県紙 パルプ技術協会編 集委員会	(書面開催)	(一社) 静岡県紙 パルプ技術協会	田中 伸佳	
R6. 11. 25～1 2. 10				第1回	田村 克浩
R7. 2. 20～28				第2回	
R6. 8. 29	富士市立博物館協議会	富士山かぐや姫ミュージアム	富士市立博物館	田中 伸佳	
R6. 9. 2	富士市C N F 関連産業推進 懇話会	富士市役所	富士市	田中 伸佳	
R7. 1. 20					
R6. 10. 15	富士市工業振興会議	富士市役所	富士市	田中 伸佳	
R6. 11. 15	紙業振興大会	ホテルグランド富士	静岡県紙業振興協 議会	田中 伸佳	
R6. 11. 27	富士市発明くふう展表彰式	富士市役所	富士市	田中 伸佳	
R6. 12. 17	富士市産業経済問題懇話会	富士商工会議所	富士商工会議所	田中 伸佳	
R7. 1. 8	富士市C N F ブランド認定 審査会	富士市役所	富士市	田中 伸佳	
R7. 3. 4	紙パルプ技術協会木材科学 委員会	(Web)	紙パルプ技術協会	田中 伸佳	
R7. 3. 19	ふじのくに先端医療総合特 区地域協議会	(Web)	ふじのくに先端医 療総合特区地域協 議会	田中 伸佳	
派遣回数 41回			派遣人数 (延べ) 45人		

(d) 浜松工業技術支援センターの実績

年月日	委員会等の名称		会 場	主 催	派遣者氏名
R6. 4. 5	A-SAPプロジェクト検討会		(公財) 浜松地域イノベーション推進機構	(公財) 浜松地域イノベーション推進機構	伊藤 芳典
R6. 4. 5	A-SAP採択審査会		(公財) 浜松地域イノベーション推進機構	(公財) 浜松地域イノベーション推進機構	鈴木 敬明
R6. 8. 21					
R6. 11. 12					
R7. 2. 3					鈴木 敬明 伊藤 芳典
R6. 4. 18	技術委員会		(Web)	中部エレクトロニクス振興会	山田 浩文
R6. 6. 20					
R6. 12. 19					
R7. 2. 20					
R6. 4. 25	HFP定例会	第1回	浜松商工会議所	(一社)静岡県繊維協会	木野 浩成 大木 結以
R6. 6. 18		第3回			木野 浩成
R6. 7. 23		第4回			
R6. 8. 16		第5回			
R6. 11. 26		第8回			
R6. 12. 7		第9回			
R7. 2. 25		第10回			
R7. 3. 18		第11回			
R6. 5. 16	光・電子活用チャレンジ事業費補助金審査委員会		(公財) 浜松地域イノベーション推進機構	(公財) 浜松地域イノベーション推進機構	伊藤 芳典
R6. 5. 21	はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点 事業運営委員会ワーキング会議	第96回	浜松医科大学	はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点	渥美 博安
R6. 9. 17		第98回			
R6. 11. 19		第99回			
R7. 1. 21		第100回			
R7. 3. 18		第101回			

年月日	委員会等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R6. 5. 22	新規EMC規格対応WG	(Web)	(一財) K E C 関西電子工業振興センター	山田 浩文
R6. 8. 19~20		(一財) K E C 関西電子工業振興センター		
R6. 12. 2~3		(一財) K E C 関西電子工業振興センター		
R7. 2. 17		(Web)		
R6. 5. 28	はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点令和6年度第1回事業運営委員会	浜松商工会議所	はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点	渥美 博安
R7. 3. 28				
R6. 5. 16	光・電子活用チャレンジ事業費補助金審査委員会	(公財) 浜松地域イノベーション推進機構	(公財) 浜松地域イノベーション推進機構	伊藤 芳典
R6. 6. 2	中部地区溶接技術検定委員会	浜松技術専門学校	(一財) 日本溶接協会 中部地区溶接技術検定委員会	植松 俊明
R6. 9. 1				
R6. 12. 1				
R7. 3. 2				
R6. 6. 6	レーザー中核人材育成講座事業統括委員会	えんてつ浜松駅貸会議室	(学) 光産業創成大学院大学	渥美 博安
R6. 12. 26				
R7. 3. 12				
R6. 6. 17	(一社) 静岡県繊維協会通常総会	浜松商工会議所	(一社) 静岡県繊維協会	木野 浩成
R6. 6. 19	中部エレクトロニクス振興会技術委員会 第1分科会	浜松工業技術支援センター	中部エレクトロニクス振興会	山田 浩文
R6. 10. 16		(Web)		
R6. 12. 9		浜松工業技術支援センター		
R7. 2. 18		(Web)		
R7. 2. 20		(Web)		
R7. 3. 17		浜松工業技術支援センター		
R6. 6. 21	車載機器EMC計測技術開発WG	(Web)	(一財) K E C 関西電子工業振興センター	山田 浩文
R6. 9. 20				
R6. 10. 9				
R6. 12. 20				
R7. 1. 15~16		直轄産業振興センターADOX福岡		

年月日	委員会等の名称		会場	主催	派遣者氏名
R6. 7. 3	金型技術研究会役員会及び総会		ホテルクラウンパレス	静岡理科大学金型技術研究会	高木 誠
R6. 7. 5	令和6年度繊維機械学会東海支部総会		愛知県尾張繊維技術センター	(一社)日本繊維機械学会東海支部	木野 浩成
R6. 7. 12	GO-Tech 助成事業 研究開発推進委員会	第一回	(Web)	(公財)浜松地域イノベーション推進機構	中野 雅晴 志智 亘
R7. 2. 21		第二回			
R6. 7. 22	モータードライブ応用研究会役員会及び総会		ホテルクラウンパレス	静岡理科大学モータードライブ応用研究会	菅野 尚子
R6. 10. 10	基礎級技能検定実技試験検定委員会		神谷理研株式会社	静岡県職業能力開発協会	田光 伸也
R6. 12. 19	「静岡県創エネ・蓄エネ技術開発推進事業費補助金」選定委員会		県庁	エネルギー政策課	伊藤 芳典
R7. 2. 10	令和6年度スタートアップ支援事業成果報告会		アクトシティ浜松 コンgresセンター	はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点	伊藤 芳典
R7. 3. 24	A-SAP計画検討会		(公財)浜松地域イノベーション推進機構	(公財)浜松地域イノベーション推進機構	伊藤 芳典
R7. 3. 24	令和6年度繊維学会東海支部幹事会		(Web)	繊維学会東海支部	木野 浩成
派遣回数 58 回				派遣人数 (延べ)	63 人

b 令和7年度（7月31日現在）
 (a) 工業技術研究所の実績

年月日	委員会等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R7. 4. 22	鑄造工学会東海支部工場見 学委員会	(Web) リョービ(株)、ヤマ ハ発(株)	(公社) 日本鑄造 工学会東海支部	岩澤 秀
R7. 5. 16				
R7. 5. 26				
R7. 5. 15	技能検定実技試験(塗装) 補佐員	工科短期大学校	静岡県職業能力開 発協会	船井 孝
R7. 5. 20				前田 研司
R7. 5. 30				村松 重緒
R7. 6. 9				船井 孝
R7. 6. 18				村松 重緒 船井 孝 前田 研司
R7. 6. 27				前田 研司
R7. 7. 4				村松 重緒
R7. 7. 16				船井 孝
R7. 7. 24				前田 研司
R7. 5. 22				海洋技術開発促進事業費補 助金審査委員会
R7. 5. 27	医療機器等開発可能性調査 審査会	(書面)	(公財) ふじのくに 医療城下町推進機 構	増井 裕久
R7. 5. 28	未来型食品等開発助成金審 査委員会 フードテックシーズ活用可 能性調査助成金審査委員会	静岡県産業経済会館	(公財) 静岡県産業 振興財団	増井 裕久
R7. 6. 27	医療機器等開発可能性調査 審査会	(書面)	(公財) ふじのくに 医療城下町推進機 構	増井 裕久
R7. 7. 6	溶接技術検定委員会	ポリテクセンター静岡	(一社) 日本溶接 協会	岩澤 秀
R7. 7. 7	フードテックシーズ活用可 能性調査助成金審査委員会	静岡県産業経済会館	(公財) 静岡県産業 振興財団	増井 裕久
R7. 7. 11	I S O国内委員会	(Web)	(一社) 日本規格 協会	柳原 亘
R7. 7. 11	J I S素案作成委員会	(Web)	(一社) 日本規格 協会	柳原 亘
派遣回数 21 回			派遣人数 (延べ) 23 人	

(b) 沼津工業技術支援センターの実績

年月日	委員会等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R7.5.8	令和7年静岡県杜氏研究会 新酒研究会	沼津工業技術支援セ ンター	静岡県杜氏研究会	鈴木 雅博 新村 駿介
R7.5.14	令和7年静岡県清酒鑑評会	沼津工業技術支援セ ンター	静岡県酒造組合 沼津工業技術支援 センター	赤堀 篤 鈴木 雅博 新村 駿介
R7.6.2	令和7年静岡県清酒鑑評会 表彰式	ホテルグランヒルズ 静岡	静岡県酒造組合 沼津工業技術支援 センター	赤堀 篤 鈴木 雅博 新村 駿介
R7.6.16	静岡大学全学教育科目 講義科目「地域と生活の科 学」講義	静岡大学静岡キャン パス	静岡大学大学教育 センター	鈴木 雅博
派遣回数 4 回			派遣人数 (延べ) 9 人	

(c) 富士工業技術支援センターの実績

年月日	委員会等の名称		会 場	主 催	派遣者氏名
R7. 4. 17	紙パルプ試験規格委員会		銀座区民館	紙パルプ技術協会	齊藤 将人
R7. 6. 10					
R7. 7. 3					
R7. 4. 21	第三月曜会	4月例会	富士商工会議所	富士商工会議所	田中 伸佳
R7. 5. 19		5月例会			
R7. 5. 14	(一社) 静岡県紙パルプ技術協会理事会・運営委員会		ホテルグランド富士	(一社) 静岡県紙パルプ技術協会	田中 伸佳
R7. 5. 16	富土地域再生家庭紙利用促進協議会通常総会		富士市役所	富土地域再生家庭紙利用促進協議会	田中 伸佳
R7. 5. 21	(一社) 静岡県紙業協会通常総会		ホテルグランド富士	(一社) 静岡県紙業協会	田中 伸佳
R7. 6. 2	機能紙研究会企画委員会		(Web)	NPO法人機能紙研究会	齊藤 将人
R7. 6. 5	静岡県創業者育成施設入居審査委員会		県庁	産業イノベーション推進課	田中 伸佳
R7. 6. 9	岳南地域地下水利用対策協議会通常総会		富士市交流プラザ	岳南地域地下水利用対策協議会	田中 伸佳
R7. 6. 10	(一社) 静岡県紙パルプ技術協会定時総会		ホテルグランド富士	(一社) 静岡県紙パルプ技術協会	田中 伸佳
R7. 6. 16	第1回富士ブランド推進会議		富士商工会議所	富士商工会議所	田中 伸佳
R7. 6. 19	令和7年度ふじマイスター選定委員会		富士市役所	富士市	田中 伸佳
R7. 6. 20	特定非営利活動法人機能紙研究会理事会		岡山国際センター	特定非営利活動法人機能紙研究会	田中 伸佳
R7. 7. 16	(一社) 紙パルプ技術協会木材科学委員会		(Web)	(一社) 紙パルプ技術協会	田中 伸佳
R7. 7. 23~31	(一社) 静岡県紙パルプ技術協会第1回編集委員会		(書面開催)	(一社) 静岡県紙パルプ技術協会	田村 克浩
派遣回数 17 回				派遣人数 (延べ)	17 人

(d) 浜松工業技術支援センターの実績

年月日	委員会等の名称		会 場	主 催	派遣者氏名
R7. 4. 25	H F P 定例会	第 1 回	浜松商工会議所	(一社) 静岡県繊維協会	木野 浩成
R7. 5. 20		第 2 回			伊藤 芳典 木野 浩成
R7. 5. 7	先端精密技術研究会幹事会		アクトシティコン グレスセンター	先端精密技術研究会	山田 浩文
R7. 5. 20	はままつ次世代 光・健康医療産 業創出拠点 事業運営委員会 ワーキング会議	第102回	浜松医科大学	はままつ次世代光・ 健康医療産業創出拠 点	渥美 博安
R7. 7. 15		第103回			
R7. 5. 21	光・電子活用チャレンジ事 業補助金審査		(公財)浜松地域イ ノベーション推進 機構	(公財)浜松地域イ ノベーション推進機構	小松 剛
R7. 5. 27	はままつ新事業創出資金調 達促進事業審査委員会		(公財)浜松地域イ ノベーション推進 機構	(公財)浜松地域イ ノベーション推進機構	伊藤 芳典
R7. 5. 30	A-SAP産学官金連携イ ノベーション推進事業採択 審査		(公財)浜松地域イ ノベーション推進 機構	(公財)浜松地域イ ノベーション推進機構	小松 剛
R7. 5. 30	はままつ次世代光・健康医 療産業創出拠点令和7年度第 1回事業運営委員会		浜松商工会議所	はままつ次世代光・ 健康医療産業創出拠 点	伊藤 芳典 渥美 博安
R7. 6. 4	浜松市産業用ロボット導入 支援事業費補助金審査会		浜松商工会議所	浜松市産業振興課	伊藤 芳典
R7. 6. 8	中部地区溶接技術検定委員 会		浜松技術専門校	(一社)日本溶接協会 中部地区溶接技術検 定委員会	植松 俊明
R7. 6. 10	先端精密技術研究会総会		グランドホテル浜 松	先端精密技術研究会	山田 浩文
R7. 6. 11	レーザー中核人材育成講座 事業統括委員会		えんてつ浜松駅貸 大会議室	(学)光産業創成大 学院大学	渥美 博安
R7. 6. 13	浜松インキュベートセンタ ー入居審査会		県庁	産業イノベーション 推進課	伊藤 芳典
R7. 6. 18	中部エレクトロニクス振興 会技術委員会 第1分科会		(Web)	中部エレクトロニク ス振興会	山田 浩文
R7. 7. 29			浜松工業技術支援 センター		
R7. 6. 19	新規EMC規格対応WG		(Web)	(一財)KEC関西 電子工業振興センタ ー	山田 浩文

年月日	委員会等の名称	会場	主催	派遣者氏名
R7.6.20	車載機器EMC計測技術開発WG	(Web)	(一財)KEC関西電子工業振興センター	山田 浩文
R7.6.24				
R7.6.30~7.1		(一財)KEC関西電子工業振興センター		
R7.7.24		浜松工業技術支援センター		
R7.7.2	金型技術研究会役員会及び総会	ホテルクラウンパレス	静岡理工科大学金型技術研究会	菅野 尚子
R7.7.4	医工連携スタートアップ支援事業審査会	アクトシティ浜松 コンgresセンター	はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点	小松 剛
R7.7.4	令和7年度日本繊維機械学会東海支部運営委員会・年会	愛知県尾張繊維技術センター	(一社)日本繊維機械学会東海支部	木野 浩成
R7.7.18	基礎級技能検定実技試験検定委員会	株式会社ミヤキ	静岡県職業能力開発協会	田光 伸也
R7.7.29	浜松地域新産業創出会議	グランドホテル浜松	浜松商工会議所	伊藤 芳典 小松 剛
派遣回数 26回			派遣人数(延べ)	29人

(ク) 産業技術連携推進会議等への派遣

(目的)

(国研)産総研及び他都道府県公設試との協力体制を強化し、機関相互の試験研究を効果的に推進するため、職員を委員として派遣する。

(実績)

令和6年度及び令和7年度の実績は以下のとおりである。(令和7年度は7月31日現在)

	令和6年度		令和7年度	
	派遣回数	延べ派遣者数	派遣回数	延べ派遣者数
工業技術研究所	20	29	3	4
沼津工業技術支援センター	5	5	0	0
富士工業技術支援センター	3	8	0	0
浜松工業技術支援センター	11	28	5	11
合計	39	70	8	15

a 令和6年度

(a) 工業技術研究所の実績

年月日	会議等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R6. 4. 23	つながる工場テストベッド 事業報告会	(Web)	産総研	山下 清光
R6. 6. 25				
R6. 7. 23				
R6. 8. 27				山下 清光 岩崎 清斗
R6. 9. 24				山下 清光
R6. 10. 22				
R7. 2. 25				
R7. 3. 25				
R6. 6. 19	LS-B T 合同研究発表会	産総研つくばセンター	産総研・産技連	堀池 隼雄
R6. 6. 27～28	産業技術連携推進会議ライ フサイエンス部会デザイン 分科会	産総研北陸デジタル ものづくりセンター	産技連	油上 保 及川 貴康
R6. 10. 25		(Web)		油上 保 長澤 正 易 強 及川 貴康 多々良 哲也
R6. 7. 26	関東甲信越地区食品醸造研 究会	(Web)	長野県工業技術総 合センター	堀池 隼雄
R6. 10. 17	第6回 産総研-先端技術開 発型中堅・中小企業の交流 会 水資源の利活用技術交 流会	産総研つくばセンタ ー	産総研	本間 信行
R6. 10. 21	産業技術連携推進会議木質 科学分科会	岐阜県生活技術研究 所	産技連	大竹 正寿
R6. 10. 31～1 1. 1	第62回高分子分科会総会	地方独立行政法人北 海道立総合研究機構 本部	産技連ナノテクノ ロジー・材料部会 高分子分科会	矢嶋 雅
R6. 11. 14～1 5	産業技術連携推進会議塗装 工学分科会	ハイテクプラザ会津 若松技術支援センタ ー	産技連	村松 重緒
R6. 11. 30	産業技術連携推進会議 東海・北陸地域部会 機 械・金属分科会	名古屋市工業研究所	産総研	岩澤 秀 磯部 佑太

年月日	会議等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R6.12.10	2024年度 産業技術連携推進会議 製造プロセス部会 I o Tものづくり分科会	あいち産業科学技術総合センター 産業技術センター	産総研	岩崎 清斗、 横井 功毅
R7.1.30	産技連 環境・エネルギー部会・分科会研究会合同総会	(Web)	産技連 環境・エネルギー部会	本間 信行
R7.2.14	全国食品関係試験研究場所長会定期総会	つくば国際会議場	全国食品関係試験研究場所長会	油上 保 松野 正幸
派遣回数 20 回			派遣人数 (延べ) 29 人	

注) 産技連：産業技術連携推進会議
産総研：(国研)産業技術総合研究所

(b) 沼津工業技術支援センターの実績

年月日	会議等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R6. 7. 11	静岡県-産総研連絡会議	(Web)	産総研	鬼久保 郁雄
R6. 9. 27	中部公設試験研究機関 機関長会・研究者表彰式	愛知県産業労働センター (ウイंकあいち)	(公財) 中部科学技術センター	飯野 修
R6. 10. 30	産業技術連携推進会議 関東甲信越静地域産業技術連携推進会議、産業技術連携推進会議 関東甲信越静地域部会合同総会	東葛テクノプラザ	産技連 関東甲信越静地域産業技術連携推進会議、産業技術連携推進会議 関東甲信越静地域部会、関東経済産業局、国立研究開発法人産業技術総合研究所	飯野 修
R6. 12. 17～20	産業技術連携推進会議企画調整委員会	(書面)	産技連企画調整委員会	飯野 修
R7. 1. 21	産業技術連携推進会議総会	(Web)	産技連	飯野 修
派遣回数 5回			派遣人数 (延べ) 5人	

注) 産技連：産業技術連携推進会議
産総研：(国研)産業技術総合研究所

(c) 富士工業技術支援センターの実績

年月日	会議等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R6. 10. 23 ～ 24	産業技術連携推進会議ナノテクノロジー・材料部会紙・パルプ分科会	富士工業技術支援センター	富士工業技術支援センター	田中 伸佳 深沢 博之 田村 克浩 齊藤 将人 伊藤 彰
R6. 10. 30	産技連合同総会	東葛テクノプラザ	産技連	田中 伸佳
R6. 12. 10	産技連製造プロセス部会 I o Tものづくり分科会	(Web)	産技連 I o Tものづくり分科会	増井 裕久 齊藤 和明
派遣回数 3回			派遣人数 (延べ) 8人	

注) 産技連：産業技術連携推進会議
産総研：(国研)産業技術総合研究所

(d) 浜松工業技術支援センターの実績

年月日	会議等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R6. 5. 16	コンポジットハイウェイコンソーシアム全体会議	(Web)	産技連東海・北陸地域部会 機械・金属分科会	木野 浩成
R6. 5. 22	令和6年度産業技術連携推進会 ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会 東海地域連絡会総会	浜松工業技術支援センター	産技連ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会 東海地域連絡会	鈴木 敬明 伊藤 芳典 木野 浩成 宮原 鐘一 大木 結以 速水 優妃
R6. 6. 20~21	令和6年度産業技術連携推進会 ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会総会	AOSSA (福井市)	産技連ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会	木野 浩成
R6. 10. 3	産業技術連携推進会議 ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会 令和6年度繊維技術研究会	十日町商工会議所	産技連ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会	大木 結以 速水 優妃
R6. 11. 5	令和6年度産業技術連携推進会議 ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会 東海地域連絡会 繊維技術研究会	あいち産業科学技術総合センター 三河繊維技術センター	産技連ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会 繊維技術研究会 東海地域連絡会	鈴木 敬明 伊藤 芳典 木野 浩成 大木 結以 速水 優妃
R6. 11. 7	第9回地方公設試験研究機関金属AM技術担当者会議	東京都立産業技術研究センター	東京都立産業技術研究センター	田光 伸也 植松 俊明
R6. 11. 7~8	産業技術連携推進会議 知的基盤部会 第28回電磁環境分科会及び第33回EMC研究会	米子コンベンションセンター	産技連 知的基盤部会 電磁環境分科会	山田 浩文 原口 卓也
R6. 11. 21~22	産業技術連携推進会議 製造プロセス部会 精密微細分科会第5回積層造形研究会	福島県ハイテクプラザ 他	産技連	田光 伸也
R6. 12. 3~4	デジタルものづくり研究会	Co-startup Space & Community FUSE 浜松工業技術支援センター	経済産業省中部経済産業局 浜松工業技術支援センター 静岡県積層造形技術協議会	菅野 尚子 田光 伸也 植松 俊明 望月 智文 柳原 茉由 加用 敦也
R7. 2. 5	炭素繊維複合材料高度利活用技術研究会	(Web)	産技連 東海・北陸地域部会 機械・金属分科会	木野 浩成
R7. 2. 7	第22回 関東甲信越静EMC研究交流会 およびMTEP EMCパートナーグループ会	東京都立産業技術研究センター	産技連 知的基盤部会 電磁環境分科会	原口 卓也
派遣回数 11回			派遣人数 (延べ) 28人	

注) 産技連：産業技術連携推進会議

産総研：(国研)産業技術総合研究所

b 令和7年度（7月31日現在）

(a) 工業技術研究所の実績

年月日	会議等の名称	会場	主催	派遣者氏名
R7. 6. 12～13	産技連ライフサイエンス部会第36回デザイン分科会	兵庫県立工業技術センター	産技連ライフサイエンス部会デザイン分科会 国立研究開発法人産業技術総合研究所 兵庫県立工業技術センター	易 強 辻 真衣子
R7. 6. 18	LS-BT合同研究発表会	(Web)	産総研・産技連ライフサイエンス部会 バイオテクノロジー分科会	堀池 隼雄
R7. 7. 2	産業技術連携推進会議東海北陸地域産業技術連携推進会議および東海・北陸地域部会総会合同会議	ミッドランドホール	産総研	山下 清光
派遣回数 3 回			派遣人数 (延べ) 4 人	

注) 産技連：産業技術連携推進会議
産総研：(国研)産業技術総合研究所

(b) 浜松工業技術支援センターの実績

年月日	会議等の名称	会場	主催	派遣者氏名
R7. 5. 9	産業技術連携推進会議 ナノテクノロジー・材料部会繊維分科会 東海地域連絡会	あいち産業科学技術総合センター三河繊維技術センター	産技連ナノテクノロジー・材料部繊維分科会 東海地域連絡会	伊藤 芳典 小松 剛
R7. 5. 21	コンポジットハイウェイコンソーシアム全体会議	(Web)	コンポジットハイウェイコンソーシアム	木野 浩成
R7. 5. 22	令和7年度産業技術連携推進会議 ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会 東海地域連絡会総会	あいち産業科学技術総合センター 三河繊維技術センター	産技連ナノテクノロジー・材料部会繊維分科会 東海地域連絡会	伊藤 芳典 小松 剛 木野 浩成 森田 達弥 大木 結以 速水 優妃
R7. 6. 19～20	令和7年度産業技術連携推進会議 ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会総会	経済会館	産技連ナノテクノロジー・材料部会繊維分科会	木野 浩成
R7. 7. 2	2024年度産業技術連携推進会議 東海北陸地域産業技術連携推進会議、東海・北陸地域部会総会	ミッドランドホール	東海北陸地域産業技術連携推進会議、東海・北陸地域部会	伊藤 芳典
派遣回数 5 回			派遣人数 (延べ) 11 人	

注) 産技連：産業技術連携推進会議
産総研：(国研)産業技術総合研究所

(ケ) 学会等への発表、外部発行誌等への投稿及び展示会への出展

(目的)

研究者や技術者及び企業経営者等に新技術等の情報を提供するため、学会や展示会等で発表するとともに、学会誌や専門誌等に投稿する。

(実績)

令和6年度及び令和7年度の実績は以下のとおりである。 (令和7年度は7月31日現在)

	令和6年度				令和7年度			
	学会等発表回数 (ポスター発表含む)	学会誌等投稿	一般誌投稿	展示会出展	学会等発表回数 (ポスター発表含む)	学会誌等投稿	一般誌投稿	展示会出展
工業技術研究所	14	3	0	11	1	0	1	6
沼津工業技術支援センター	3	1	0	5	0	2	0	0
富士工業技術支援センター	5	1	2	6	0	1	2	2
浜松工業技術支援センター	12	4	2	6	2	1	0	5
合計	34	9	4	28	3	4	3	13

a 令和6年度の学会発表及び投稿等の実績

(a) 工業技術研究所の実績 (※はポスター発表)

年月日	項目	発表会名	発表刊行物	発表者名
学会等への発表				
R6. 5. 23	野生鹿および猪の副産物（内臓肉）に含まれる遊離アミノ酸量についての報告	第78回日本栄養・食糧学会大会	—	長房 秀幸
R6. 7. 11	セルロースナノファイバーと香り成分による放散挙動変化※	セルロース学会第31回年次大会	—	石橋 佳奈
R6. 7. 11 ~ 12	自動車用湿式摩擦材中のセルロースナノファイバー（CNF）定量分析手法の開発※	セルロース学会第31回年次大会	要旨集	野澤 遼
R6. 10. 26	鋳造用アルミニウム合金の鋳肌黒色化及び硬さに及ぼすSnの影響	(公社) 日本鋳造工学会	(公社) 日本鋳造工学会 全国講演大会 概要集	磯部 佑太 岩澤 秀 吉岡 正行
R6. 10. 26	アルミニウム合金鋳物のマイクロ組織に及ぼす微量不純物の影響			岩澤 秀
R6. 11. 13	不織布を適用した低周波風防による屋外風雑音の測定	(公社) 日本騒音制御工学会2024年秋季研究発表会	研究発表会講演論文集	木野 直樹
R6. 11. 21	豆乳の凍結融解によるタンパク質分画条件と物性の相関関係	第42回種子生理生化学研究会年会	—	松野 正幸
R6. 12. 2 ~ 3	未利用海藻熱水抽出物のJ774.1細胞サイトカイン産生への影響※	日本食品免疫学会設立20周年記念学術大会	—	長房 秀幸
R7. 2. 27	乳酸菌発酵甘酒の香り変化について※	第8回京都生体質量分析研究会・第3回天然香気研究会 合同国際シンポジウム	—	石橋 佳奈
	フードテックを活用した高付加価値食品の開発※		—	山本 佳奈恵
R7. 3. 4~8	新規乾燥技術を施した緑茶葉の香り特性及びアミノ酸含有量評価※	日本農芸化学会2025年度大会	—	松野 正幸
R7. 3. 12 ~ 13	高濃度セルロースファイバー複合化がポリプロピレンへのめっき密着性に及ぼす影響	(一社) 表面技術協会第151回講演大会	講演要旨集	田中 宏樹
R7. 3. 13	中小企業版デジタルツインの検討	情報処理学会第87回全国大会	—	岩崎 清斗
	仮想空間上の生成データで学習したAIを用いたIoTシステムの提案		—	横井 功毅

年月日	項 目	発 表 会 名	発表刊行物	発表者名
学会誌及び専門誌への投稿				
R6. 7. 20	セルロースナノファイバーの建築資材への利用	—	ナノファイバー学会誌Vol. 15No. 1-2	村松 重緒
R6. 11. 13	Tuna(Thunnus alalunga) Gil l Extract Alters Gut Micro biota Composition and Increases Fecal Immunoglobulin A Levels in Male Mice	—	ACS FOOD SCIENCE & TECHNOLOGY	長房 秀幸
R7. 2. 26	Effect of bubble size on microbial community in intermittently-aerated activated sludge process in wastewater treatment	—	Process Biochemistry Vol. 152 pp. 38-46 (2025)	岡本 哲志
一般誌等への投稿				
実績なし				
展示会への出展				
R6. 4. 4～ 5. 2	バイオマス燃料電池材料の研究	浜名湖花博	—	菊池 圭祐
R6. 4. 6～ 5. 2	静岡県産バラを活用した化粧品香り評価*		—	松野 正幸
R6. 6. 12～ 14	デザインマッチング他事業紹介*	シズオカ [KAGU]メッセ	—	ユニバーサルデザイン科
R6. 6. 12	家具の性能評価承ります！ 椅子編①、その他編②		—	大竹 正寿 前田 研司
R6. 6. 13			—	村松 重緒
R6. 6. 14			—	大竹 正寿 船井 孝
R6. 7. 25	中小企業版デジタルツイン デモの展示	Fujinokuni Digital's Day	—	岩崎 清斗
R6. 7. 26			—	
R6. 7. 27			—	
R6. 10. 15	中小企業版デジタルツイン デモの展示	CEATEC Japan 2024	—	岩崎 清斗 横井 功毅
R6. 10. 16			—	
R6. 11. 8	中小企業版デジタルツイン デモの展示	いわた産業展示フェア	—	鈴木 悠介 岩崎 清斗
R6. 11. 13		新技術交流イベント in Shizuoka 2024	—	岩崎 清斗 横井 功毅
R6. 11. 29		S H I P縁日	—	岩崎 清斗

年月日	項目	発表会名	発表刊行物	発表者名
R6.9.13	燃料電池触媒の発電性能評価	ふじのくに 医療・介護福祉機器展	—	菊池 圭祐
R6.10.9~10	Acceleration of cooperation of industries and institutions between Shizuoka and Germany	PHOTONICS DAYS 2024 (ベルリン)	—	豊田 敏裕
R6.10.24~25	CNFを活用したアロマ基礎化粧品の開発*	ふじのくにセルロース循環経済国際展示会	—	石橋 佳奈
R6.11.7~8	デザインマッチング他事業紹介*	医療介護福祉機器展	—	ユニバーサルデザイン科
R6.11.7	家具試験（福祉用機器）の紹介	ふじのくに医療・介護福祉機器展	—	大竹 正寿
R7.2.14	家具の性能評価承ります！ 木製家具を対象としたCAE解析	Shizuoka-Products Forum2025	—	船井 孝 前田 研司
R7.2.15			—	村松 重緒 船井 孝 油上 保
R7.2.16			—	油上 保 大竹 正寿
合計件数 28件		学会等発表 14件・投稿等 3件・展示会 11件		

(b) 沼津工業技術支援センターの実績 (※はポスター発表)

年月日	項 目	発 表 会 名	発表刊行物	発表者名
学会等への発表				
R6. 9. 9	第76回日本生物工学会	Development of seed koji suitable for sake brewing in Shizuoka Prefecture	—	鈴木 雅博 袴田 雅俊 飯塚 千佳世 杉本 芳邦
R6. 11. 7	海洋由来微生物を活用したサワービールの開発	BCOJ (Brewery Convention of Japan) 年次大会	—	バイオ科
R7. 3. 6	コーヒーかす抽出液を利用した酵母によるバイオステイミュラントの生産※	日本農芸化学会	—	袴田 雅俊
学会誌及び専門誌への投稿				
R6. 10. 25	静岡酵母と静岡県の酒造りについて	—	生物工学会誌	鈴木 雅博
一般誌への投稿				
実績なし				
展示会への出展				
R6. 4. 4～5. 2	板成形シミュレーションの高精度化に向けた取組※	浜名湖花博	—	是永 宗祐
R6. 5. 2～6. 2	伊豆特産サクラ葉の素材化と抗炎症評価※		—	袴田 雅俊
R6. 11. 7	本県初！静岡オリジナル清酒用種麴の開発※	Made in Mt. Fuji ふじのくに医療・介護福祉機器展—富士山麓産学官金連携フォーラム2024—	—	鬼久保 郁雄 黒瀬 智英子
	二軸引張試験等の導入による高精度プレス成形シミュレーションの実施※			
	本県独自の清酒用種麴の開発フローの構築※			
合計件数 9 件		学会等発表 3 件・投稿等 1 件・展示会 5 件		

(c) 富士工業技術支援センターの実績 (※はポスター発表)

年月日	項目	発表会名	発表刊行物	発表者名
学会等への発表				
R6.9.3	隠れマルコフモデルを用いた乳牛の疾病検知方法の検討	第40回 ファジィシステムシンポジウム	—	井出 達樹
R6.9.14	Detecting Digestive Disorders in Dairy Calves Based on Behavioral Analysis Using Hidden Markov Models	第11回 IIAE International Conference on Intelligent Systems and Image Processing (ICISIP) 2024	—	井出 達樹
R6.9.16	隠れマルコフモデルを用いた行動解析に基づく乳牛の消化器疾患の検出	産業応用工学会全国大会2024	—	井出 達樹
R6.10.10	遠州織物の廃材を利用したリサイクル紙の開発	第67回紙パルプ技術協会年次大会	—	伊藤 彰
R6.11.11	Study on the Extraction Method of Activity Levels for Disease Detection in Dairy Cows Using Optical Flow Image Analysis	2024 Joint 13th International Conference on Soft Computing and Intelligent Systems&25th International Symposium on Advanced Intelligent Systems	—	井出 達樹
学会誌及び専門誌への投稿				
R6.9.1	深層学習を用いた乳牛の分娩時「いきみ」検知技術の開発	一般社団法人電気学会	電気学会論文誌C (電子・情報・システム部門誌) Vol.144 No.9	井出 達樹
一般誌への投稿				
R6.5.1	AIを活用した古紙原料の判別に関する研究	—	紙パルプタイムス 第67巻第5号	齊藤 和明 井出 達樹 増井 裕久
R6.7.20	画像解析に基づく乳牛の疾病検出のための機械学習手法の開発	—	アグリバイオ 第8巻7	井出 達樹
展示会への出展				
R6.4.6 ~ 6.2	次世代自動車軽量化のためのCNF複合材の開発、プラスチック資源循環実現に向けたCNF複合樹脂のリサイクル性の評価※	浜名湖花博	—	CNF科
	遠州織物の廃材を利用したリサイクル紙の開発※		—	製紙科

年月日	項 目	発 表 会 名	発表刊行物	発表者名
展示会への出展				
R6. 5. 2 ~ 6. 2	A I を用いたスマート畜産への取組について	浜名湖花博	—	井出 達樹
R6. 10. 24 ~25	「C N F 等微細化セルロースのサンプルを御提供します」、「新型リファイナーを用いた C N F 製造の試み」、「ふじのくにCNF研究開発センター」※	ふじのくにセルロース循環経済国際展示会	—	山下 晶平 渡邊 雅之 山崎 利樹 小塚 慎太郎
R6. 11. 8 ~ 9		産業振興フェアinいわた	—	
R6. 10. 24 ~25		遠州織物の廃材を利用したリサイクル紙の開発※	ふじのくにセルロース循環経済国際展示会	—
R6. 11. 8 ~ 9	産業振興フェアinいわた		—	
R7. 2. 7~8	ものづくり力交流フェア2025		—	伊藤 彰 齊藤 将人 田村 克浩
R7. 1. 29 ~ 31	「C N F 等微細化セルロースのサンプルを御提供します」※	nano tech2025	—	渡邊 雅之 山崎 利樹 小塚 慎太郎
合計件数 14 件		学会等発表 5 件・投稿等 3 件・展示会 6 件		

(d) 浜松工業技術支援センターの実績 (※はポスター発表)

年月日	項 目	発 表 会 名	発表刊行物	発表者名
学会等への発表				
R6. 9. 4	路面に図形を描画するマイクロプリズムアレイの作製と形状評価	2024年度精密工学会秋季大会学術講演会	—	中野 雅晴 志智 亘
R6. 10. 3	海洋での分解速度を制御できる漁具用モノフィラメント糸の開発	令和6年度産業技術連携推進会議繊維分科会繊維技術研究会	—	大木 結以
R6. 11. 8 ~ 10	選択的レーザー溶融法によるアルミニウム合金製部品の製造プロセスの有限要素解析	第75回塑性加工連合講演会	—	田光 伸也 大澤 洋文 植松 俊明
R6. 11. 25	海洋での分解制御機能を有する漁具用繊維の開発に向けた取り組み	令和6年度産業技術連携推進会議ナノテクノロジー・材料部会繊維分科会東海地域連絡会繊維技術研究会	—	大木 結以
R6. 11. 28	海洋生分解性樹脂PCLへのPHA添加による酵素分解抑制効果※	2024年繊維学会秋季研究発表会	—	大木 結以 鈴木 重好 木野 造成
	海洋生分解性樹脂PHAとPCLの混合樹脂からなる繊維における分解抑制現象		—	
R6. 12. 5 ~ 7	Evaluation of effect of forming condition on strength of formed part by Powder Bed Fusion type additive manufacturing	第7回アジア材料・加工シンポジウム2024 (ASMP2024)	—	大澤 洋文 植松 俊明
R6. 12. 6	海洋での分解速度を制御できる漁具用繊維の開発	第37回東海支部若手繊維研究会プログラム	第37回東海支部若手繊維研究会講演要旨集	大木 結以 鈴木 重好 木野 造成
R7. 3. 4	選択的レーザー溶融法によるアルミニウム合金製部品の寸法精度, 内部応力および機械的性質の評価	(公社)日本材料学会東海支部第19回学術講演会	—	植松 俊明 田光 伸也 大澤 洋文
R7. 3. 7	海洋生分解性樹脂PHAとPCLの混合樹脂からなる繊維の酵素分解性と海水での耐久性※	24-3 エコマテリアルシンポジウム	—	大木 結以 鈴木 重好 木野 造成
R7. 3. 12 ~ 13	L-PBF法により作製したアルミニウム合金材に対する陽極酸化処理性の検証※	(一社)表面技術協会 第151回講演大会	—	田光 伸也
R7. 3. 28	BCI法における複数ワイヤ端のストレス分析	2025年電子情報通信学会総合大会	—	山田 浩文

年月日	項目	発表会名	発表刊行物	発表者名
学会誌及び専門誌への投稿				
R6. 5. 1	積分球による全光束測定における内部空間応答分布関数の影響	—	照明学会誌	志智 亘
R6. 11. 1	サブナノ秒レーザーピーンフォーミングによる薄板の球面成形	「塑性と加工」	塑性加工学会誌	鷺坂 芳弘
R6. 11. 8	レーザーピーンフォーミングによる板曲げにおいて走査速度がパルスあたりの曲げ変形量に与える影響			
R6. 11. 25	ナノ秒グリーンレーザーピーンフォーミングによる板曲げにおける水噴射方法の影響			
一般誌への投稿				
R6. 6. 22	白色干渉計による傾斜面の形状測定 - 傾斜基準面を用いた角度測定範囲の拡張 -	—	月刊JETI2024年7月号	中野 雅晴
R6. 9. 11	新成長分野発展に貢献する軽量高強度材料（CFRP）の高効率成形技術の確立	—	プレス技術	木野 浩成
展示会への出展				
R6. 6. 8	綿の産地フェア	アミューズ豊田<サブアリーナ>	—	繊維高分子材料科
R6. 7. 6～7	注染・ゆかた・和装展	浜松駅前ギャラリーモール「ソラモ」	—	
R6. 8. 3	まちなかワクワクアカデミー		—	
R6. 10. 19～.20	はままつ染め織りマーケット		—	
R6. 11. 5～10	金属3Dプリンタを活用したものづくり支援のための積層造形技術開発	JIMTOF2024（第32回日本国際工作機械見本市）	—	田光 伸也 植松 俊明
R7. 1. 29～31		TCT Japan 2025（公設試パビリオン）	—	田光 伸也 植松 俊明 大澤 洋文 望月 智文 菅野 尚子
R7. 1. 16	炭素繊維強化複合材料（CFRP）の高効率成形技術の開発	コンポジットハイウェイコンベンション2024	—	木野 浩成
合計件数 24		学会等発表12件・投稿等 6件・展示会 6件		

a 令和7年度の学会発表及び投稿等の実績（7月31日現在）

(a) 工業技術研究所の実績（※はポスター発表）

年月日	項目	発表会名	発表刊行物	発表者名
学会等への発表				
R7.7.23	セルロースファイバー複合化がプラスチックめっきの密着性に及ぼす影響	(一社) 表面技術協会めっき部会7月例会	(Web)	田中 宏樹
学会誌及び専門誌への投稿				
実績なし				
一般誌への投稿				
R7.6.1	デジタルツインの基礎と導入ポイント	—	月刊食品工場長2025年6月号	山下 清光
展示会への出展				
R7.4.13	CNFを活用したアロマ基礎化粧品の開発*	第107回花と緑の百科展	—	石橋 佳奈
R7.5.4		第20回富士ばらまつり	—	
R7.5.22~23	静岡県工業技術研究所で取り組んでいる燃料電池触媒の開発事例と保有機器等の紹介*	第32回燃料電池シンポジウム	(一社) 燃料電池開発情報センター	菊池 圭祐
R7.5.31	綿の産地フェア	アミューズ豊田<サブアリーナ>	—	繊維高分子材料科
R7.6.24~27	a one-stop service for technical cooperation between Japan and Germany	Laser World of Photonics 2025	Exhibitors of Laser World of Photonics 2025 (online/printed)	豊田 敏裕
R7.7.5~6	注染・ゆかた・和装展	浜松駅前ギャラリーモール「ソラモ」	—	繊維高分子材料科
R7.7.28~29	陸上養殖サーモン血液の利用について*	Blue Economy EXPO	—	長房 秀幸
合計件数 8 件		学会等発表 1 件・投稿等 1 件・展示会 6 件		

(b) 沼津工業技術支援センターの実績 (※はポスター発表)

年月日	項 目	発 表 会 名	発表刊行物	発表者名
学会等への発表				
実績なし				
学会誌及び専門誌への投稿				
R7.4.25	チタン合金のエンドミル加工における工具摩耗の予測手法の検討	—	(一社)日本チタン協会 機関誌「チタン」	是永 宗祐
R7.5.26	Coproduction of Glutathione and 5-Aminolevulinic Acid by <i>Saccharomyces cerevisiae</i> NMZ-2 on Spent Coffee Grounds	—	Applied Biochemistry and Biotechnology	袴田 雅俊
一般誌への投稿				
実績なし				
展示会への出展				
実績なし				
合計件数 2 件		学会等発表 0 件・投稿等 2 件・展示会 0 件		

(c) 富士工業技術支援センターの実績 (※はポスター発表)

年月日	項 目	発 表 会 名	発表刊行物	発表者名
学会等への発表				
実績なし				
学会誌及び専門誌への投稿				
R7.6.1	富士工業技術支援センターの紹介と紙及び板紙試験機類	—	日本包装学会誌第34巻第3号	田村 克浩
一般誌への投稿				
R7.5.1	AIを活用した古紙原料の判別に関する研究 (II)	—	紙パルプ技術タイムス 第68巻 第5号 通巻823号	齊藤 和明 井出 達樹 増井 裕久
	「かみのまち」のアイデンティティを産学官連携により内外へ発信	—		田中 伸佳
展示会への出展				
R7.7.5~6	遠州織物を利用したリサイクル紙の開発※	注染・浴衣・和装展	—	田村 克浩
R7.7.23	CNF等微細化セルロースのサンプルをご提供します※	ナノセルロースジャパン総会	—	深沢 博之
R7.7.24		富士市CNFプラットフォームフォーラムセミナー	—	
合計件数 5 件		学会等発表 0 件・投稿等 3 件・展示会 2 件		

(d) 浜松工業技術支援センターの実績

年月日	項 目	発 表 会 名	発表刊行物	発表者名
学会等への発表				
R7.7.7	Fabrication and Characterization of Melt-Spun PHA/PCL Blend Monofilaments: Mechanical and Degradation Properties	The 19th Pacific Polymer Conference (PPC19)	—	大木 結以 木野 浩成
R7.7.16	生分解性樹脂PCL系ブレンドからなる糸や織物の海洋分解性評価*	第14回JACI/GSCシンポジウム	—	大木 結以 木野 浩成
学会誌及び専門誌への投稿				
R7.4.25	チタン合金のエンドミル加工における工具摩耗の予測手法の検討	—	日本チタン協会誌「チタン」Vol.73 No.2 2025年4月 p140-p143	植松 俊明 伊藤 芳典
一般誌への投稿				
実績なし				
展示会への出展				
R7.5.28～29	トランスファ成形機を用いた試作開発支援とリサイクル技術開発	第14回次世代ものづくり基盤技術産業展TECH Biz EXPO 2025	—	木野 浩成 森田 達弥
R7.6.24～27	金属3Dプリンタを活用したものづくり支援のための積層造形技術開発	Laser World of Photonics	—	田光 伸也
R7.7.9	トランスファ成形機を用いたCFRTPの成形技術とリサイクル技術の開発	NCC次世代複合材研究会プレゼン会・NCC見学会	—	森田 達弥
R7.7.15	金属3Dプリンタを活用したものづくり支援のための積層造形技術開発	やらまいかテクノロジー	—	田光 伸也 植松 俊明
R7.7.24～26	金属3Dプリンタを活用したものづくり支援のための積層造形技術開発	TECH BEAT Shizuoka 2025	—	田光 伸也 植松 俊明
合計件数 8 件		学会等発表 2 件・投稿等 1 件・展示会 5 件		

エ その他

(ア) 産学官連携コーディネート体制強化事業

(目的)

公益財団法人静岡県産業振興財団を中心に実施する地域企業、大学、支援機関の連携強化事業に参画し、技術情報の共有化や研究開発、産業振興を図る。

(実績)

実績は下表のとおりである。

(令和7年度は7月31日現在)

項 目	令和6年度	令和7年度
他支援機関等へのコーディネートによる支援	9件	2件
他支援機関からの技術支援要請への対応	149件	12件
研究開発助成事業など支援事業の申請に関わるコーディネート	57件	29件
工業技術研究所や大学等のシーズ紹介、事業への共同申請等のコーディネート	129件	60件
他支援機関等より依頼された事業評価、審査等への対応	22件	49件
新産業集積クラスターなど重点分野への技術支援	116件	74件
合 計	482件	226件

注) 各項目の件数は研究所及び3支援センターの数値を合計したものである。

(イ) 資質向上研修

(目的)

研修を通して研究職員の技術や知識を向上させることで、研究の推進を図るとともに、中小企業等の技術相談に対応できるようにする。

(実績・計画)

下表のとおり資質向上研修を実施した。

(令和7年度は7月31日現在)

	令和6年度	令和7年度
	件 数	件数(計画)
工業技術研究所	28件	8件(22件)
沼津工業技術支援センター	8件	4件(6件)
富士工業技術支援センター	7件	2件(5件)
浜松工業技術支援センター	10件	4件(6件)
合 計	53件	18件(39件)

オ 評価・改善

(ア) 工業技術研究所

a 試験研究

令和6年度は、一般共同研究、受託研究（競争的資金（国、国立研究開発法人、財団法人等が実施する研究開発助成事業等）を含む）が2/3を占めており、地域のニーズ、産業界の要望に応える課題設定ができたものと考えている。

新成長戦略研究については、令和6年度まで実施した「人とコミュニケーションを図る次世代車載装置用樹脂レンズの開発」において、自動運転に必要なコミュニケーションライティングシステム用樹脂レンズの金型製造を可能とするための、超精密な加工技術の開発に成功した。また、同じく令和6年度まで実施した「設備、モノ、ヒトの統合的データ分析による生産性の効率化」において、中小企業版デジタルツインのモデル企業に対しシステムを構築し、実装を行った。さらに令和7年度からは、 castingにおける脱炭素化に寄与する半溶融成形法の普及のため新たに研究課題「次世代輸送用機器部品の脱炭素化に貢献するアルミ成形加工技術の開発」を開始した。

このように、企業の要望に合わせた研究や地域企業・業界の発展を支援する波及性の高い研究課題を設定し実施している。

b 技術相談等

令和6年度は16,749件の技術相談を実施し、前年度に比べて691件の増加であった。各科の状況を見ると、金属材料科、照明音響科で指導実績が大きく増加した。特に金属材料科においては、前年度に比べ80%増となった。他の6科においてはほぼ前年比±10%以内と前年度並みの実績であった。

c 依頼試験・機器等使用・研修施設等使用

令和6年度の依頼試験件数は5,243件で、前年度に比べ4,037件減少した。収入額は14,106千円で1,309千円の微減であった。これは、件数に大きく影響する長期試験が少なかったことによるものと思われる。

また令和6年度の機器等使用及び研修施設等については、使用時間数が19,697時間、収入は24,984千円で、前年度に比べ使用時間数は8,899時間の減少であったが、収入については543千円の微増であった。これは分析機器等の比較的単価の高い装置へ利用者の需要がシフトした結果である可能性が考えられた。今後も地域企業・業界のニーズに応えられるよう機器の導入・更新、維持管理に努めていく。

d 研修生の受入れ

令和6年度は、大学等から10名の研修生を受け入れ、前年度から3名増加した。また、就業体験研修（インターンシップ）には、4名の学生が業務体験に参加した。今後も研究所が持つ技術を普及させるため、企業に研修生制度を紹介するとともに、就業体験研修生や大学院生も積極的に受入れていく。

e 技術情報提供

令和6年度の講習会・講演会については、28件開催し参加者数は延べ521名であった。前年度よりも開催件数は3件増加したが、参加者は245名の減少となった。この参加者数の減少は、コロナ禍収束から一定時間が経過し、講習会の開催形式についてWebから実地へ回帰が生じている影響であると考えられる。

講師活動は、令和6年度は22回実施し、参加者数は887名であった。前年度と比較して11回、590名に大幅に増加した。学会・専門誌・展示会における発表・投稿・展示については、令和6年度は13件で、前年度と比較して1件増加した。

その他、ホームページによる各種情報提供に加え、原則月に2回の頻度で研究所や県の最新情報を記したメールマガジンを配信している。登録者数は順調に増加し1,100を超え、いち早く企業に必要な情報を提供できていると考えている。

f 産学官連携の促進

研究所全体で、産学官連携推進コーディネータの活動実績は、482件であった。引き続き、他支援機関等と連携した企業支援活動を継続し、新たな産業創出に向けた取り組みができていていると考えている。

また、公益財団法人静岡県産業振興財団が実施する新成長産業分野への助成事業について、助成先への技術的な助言やコーディネート活動による支援を行っている。今後も引き続き産学官連携の促進を図っていく。

(イ) 沼津工業技術支援センター

a 試験研究

バイオ科では令和2年度から令和4年度まで水産・海洋技術研究所が中核研究機関となった新成長戦略研究「マリンバイオ産業を振興するための海洋由来微生物を活用した新たな食品開発」を実施し、微生物産業の持続的発展と新たな展開に力を入れた。令和4年度には本研究の成果として得られた海洋微生物を利用したサワービールを県内のクラフトビールメーカーと共同で製品化した。また、従来から取り組んできた有用微生物を用いた日本酒・ビール等の新規発酵食品開発については、開発した酵母株を企業、団体等へ分譲し順調に実績を伸ばしている。さらに、令和3年度から令和5年度まで一般共同研究「本県独自の清酒用麹の開発フローの構築」を実施し、本県の清酒造りに適した独自の麹菌株選抜基準を設定して、これまでに無かった本県独自の清酒醸造用麹の開発フローを構築した。令和4年度には、共同研究先で県オリジナル清酒用麹の試作品を開発した。また、令和5年度は、その麹を用いて県内酒造メーカーで試験醸造された清酒が販売された。本研究で開発した麹は、共同研究機関にて製造され、令和6年度から県内酒造メーカーのみを対象に販売を開始した。

機械電子科では、平成28年度から平成30年度までの3年間で戦略的基盤技術高度化支援事業（経産省）の「骨端用プレートの高品質・低コスト成形加工技術の開発」に取り組み、製品の高品質、低コスト化につながる成果を得た。また、新成長戦略研究「次世代型インプラントの型鍛造成形を可能にする設計支援技術の開発」では、整形外科用インプラントの型鍛造成形を実現させる上で必要不可欠な、金型や成形条件探索等に費やす開発費を削減させることができる独自の設計支援技術（一部は特許取得 特許第7228202号「摩擦係数測定方法およびシミュレーション方法、摩擦係数測定装置およびシミュレーション装置、摩擦係数測定プログラムおよびシミュレーションプログラム」令和5年2月15日登録）を開発した。この設計支援技術を活用することで、試験用インプラントの開発期間を3年から1年へ、試作開発費を7割以上削減させることが可能となった。このようにファルマバレープロジェクトの促進に積極的に取り組んでいる。

b 技術相談等

令和6年度は3,207件であり、令和5年度の3,103件に対して104件増加した。また、令和7年度の7月末までの実績は1,634件であり、年間換算すると令和7年度は増加となる見込みである。そのうち現地指導については、令和6年度は308件で、令和5年度の223件に対し85件増加している。さらに令和7年度は7月末現在で292件となっていることから、このペースが続けば令和7年度は大幅に増加するものと思われる。今後も引き続き地域産業界の技術的な課題の解決に役立つことを目標に、企業に訪問を含め、業界ニーズ・要望に対応していく。

c 依頼試験・機器等使用・研修施設等使用

依頼試験については、令和6年度は、113件となり、令和5年度と比べ、件数では34件減少、また、収入は1,760千円となり、令和5年度と比べ228千円の減少となった。

また、機器等使用及び研修施設等使用については、令和6年度は4,572時間となり、令和5年度と比べ、延べ使用時間では827時間の減ではあったが、収入は、1,020千円の増加となった。これは、総時間数は減ったが、時間単価が高い複合環境振動試験機と振動試験機の利用時間が107時間多かったこと等によるものである。従来から、依頼試験・機器等使用についての企業のニーズに対しては可能な限り積極的に対応するようにしている。今後も機器の維持管理や導入・更新に積極的に取り組み、地域ニーズや業界の要望に応えられるよう努めるとともに、利用促進のためにもセンターのPRを実施していく。

d 研修生の受入れ

これまでには継続して一定数の受入れを行って来たが、令和4年度以降は受け入れていない。今後は、企業訪問や展示会出展等の機会をとらえて積極的なPRに努め、地域人材の育成に貢献していく。

e 技術情報提供

講習会・講演会・見学会については、令和6年度の実施回数は対面方式で4回、参加者数は114人で、令和5年度を回数で1回、人数で14人下回った。令和7年度は、7月末の段階で開催2回、参加44名である。今後も引き続き地域企業の要望を的確に捉え、新技術等の情報を積極的に発信していく。

学会・専門誌・展示会への発表・投稿・出展については、令和6年度は10件であり、令和5年度より4件減少した。今後は、試験研究で得られた成果は広く発信するよう努める。

f 産学官連携の促進

産学官連携コーディネータを中心に幅広く連携を支援している。ファルマバレーセンターをはじめとした地域の支援機関との連携も深めており、令和2年度からはマリンオープンイノベーション推進機構との新たな協働が本格的に始動している。また、令和3年度からは静岡大学に協力研究員として職員を派遣しており、引き続き産学官連携の促進を図っていく。

(ウ) 富士工業技術支援センター

a 試験研究

製紙科では、地域の製紙会社が共通して抱えている問題に対応するため、『古紙原料のリサイクル』の視点で課題設定を行っている。令和元年度からは特殊更紙の低密度化に取り組んでおり、原料の選択や加工条件の調整により、低密度化できる要因を明らかにし、地域の企業が実践して効果を上げている。低密度化のメカニズム解明のために東京農工大学と協力して科研費を獲得して研究を継続している。また、令和5年度は、新成長戦略研究政策課題指定枠「サステイナブルファッションに寄与する廃棄衣料を利用した製紙技術の開発」の成果として、遠州織物業界から排出される廃棄衣類を富士市内の製紙工場で印刷用紙を製造するというリサイクルモデルの実証を行い、現在、リサイクル紙を遠州織物業界を中心に名刺、ポストカード、商品タグ等に使って頂き使用感等のフィードバックを収集している。CNF科では、大学や地域企業との連携により、CNF複合材の実用化を目指して研究開発を進めている。令和4年度は、新成長戦略研究政策課題指定枠「プラスチック資源循環実現に向けたCNF複合樹脂リサイクル性の評価」を実施し、脱炭素・資源循環社会実現に向けた自動車部材の軽量化素材として、リサイクルが困難なガラス繊維等を使用した樹脂の代替とするため、CNF複合樹脂のリサイクル性を検証した。また、令和元年度に開設した新たな産学官連携拠点「ふじのくにCNF研究開発センター」において、CNFラボに入居する企業3社と共同研究を進め、早期の事業化・実用化を目指している。機械電子科では、畜産技術研究所等関係機関と連携して、AI技術を応用した先進的な畜産技術の開発を行ってきた。さらに、令和6年度からは製紙工場の製造現場にAIを活用して生産性を向上させるための技術開発に取り組んでいる。

各科のテーマとも、地域のニーズ・産業界の要望に応える課題であり、地域振興に役立つものと考えている。

b 技術相談等

令和6年度の相談件数は3,802件で、令和5年度と比較してやや増加した。現地訪問による相談は令和5年度比28%増の286件、遠隔相談システムの利用は55件であった。技術相談の内容としては、製紙・機械金属・電子機器等の地域産業の技術的な問題に関する相談が大半であるが、全国的に希少な専門部署である製紙とCNFは県外からの相談が合わせて842件（令和6年度）であり、両分野全体の31%を占めている。また、令和7年度の相談実績（件数）は、令和6年度同時期と比べて12%程度減少傾向である。CNFに関する相談は増加しているが米国の関税政策の影響等もあり機械電子分野、製紙分野の相談件数が減少している。今後も、企業の課題や技術的なニーズの把握に努め、要望に応じていきたい。

c 依頼試験・機器等使用・研修施設等使用

依頼試験については、令和6年度は1,258件、収入で1,893千円であった。令和5年度と比較して、件数で475件、金額で704千円の増加である。

一方、機器等使用については、令和6年度は時間数で5,233時間、金額で10,381千円であった。令和5年度と比較して、時間数は5,385時間の減少、金額で1,338千円の減少であった。令和7年度は、前年の同時期と比べて43%程度増加している。製紙分野の利用増加のほかCNF分野の大幅な利用増加が要因である。

令和6年度は依頼試験が増加、機器使用がやや減少した。機器使用の時間数が減少したのは長期間の試験が減少したことが要因である。長期的には依頼試験が減少し機器使用が増加する傾向が続いている。従来、中小企業の技術者の試験・分析技術の不足により依頼試験としていた業務が、技術力の向上により機器使用による自らの試験・分析で業務を行えるようになったことが要因と思われる。

d 研修生の受入れ

令和6年度及び令和7年度（7月末まで）は、研修生を受け入れていない。

製紙業界への技術習得のための施設として、令和7年度は研修（実習）を再開する予定である。また、研修生ではないが、令和6年、令和7年共に地元高校生に対し、CNF実習を行っている。

e 技術情報提供

講習会・講演会については、令和6年度は実施回数16回、参加者数178名であった。令和5年度と

比較して、実施回数1回増加、参加人数26名の減少となった。製紙、CNF、機器分析、AI等それぞれの分野で参加者がおり、バランスの取れた事業を行っている。

講師活動は、令和6年度は令和5年度と比較して、実施回数は13回（1回減少）、参加人数は126名で225名の大幅な減少となった。令和5年度は富士市主催の製紙産業イノベーション創出シンポジウムの参加人数が多かったが令和6年度はシンポジウムが開催されなかったことが大幅減少の要因である。

学会・専門誌・展示会における発表・投稿・展示の実績は、令和6年度は5件となり、令和5年度と比較して2件減少した。引き続き研究成果の情報発信に力を入れていく。

f 産学官連携の促進

産学官連携コーディネータを中心に地域の産業支援機関や富士市・富士宮市の産業支援担当課との連携を図っている。また、沼津高専、東京農工大学や民間企業から外部研究員を招聘して指導を受け、研究員の資質向上を図るとともに、シーズ把握の場としても活用している。また、静岡県産業振興財団の新成長産業戦略的育成事業の助成案件毎の事業推進チームのメンバーとして事業化に導くための支援を行っている。今後も国立研究開発法人産業技術総合研究所との連携を強化し、産総研の高度なシーズを活用し、先端産業の育成推進を積極的に進めていく。

(エ) 浜松工業技術支援センター

a 試験研究

令和6年度に実施した研究テーマは9件のうち、6件のテーマが一般共同研究、または競争的資金以外の受託研究に属するものであり、アウトプットを見据えたテーマ設定と、企業からの要望への柔軟な対応ができておりと考えている。

それ以外の県単独研究と新成長戦略研究の3件についても、地域企業・産業の発展を支援するための技術開発及びスキルアップに繋がる研究であることから、全体的に見ても地域ニーズ・産業界ニーズに応える研究が実施できたと考えている。

b 技術相談等

令和6年度の技術相談数は12,437件（そのうち現地相談は508件）であり、前年度と比較してやや増加した（令和5年度はそれぞれ12,437件、508件）。

新型コロナウイルスの影響が徐々に弱まり現地相談件数が回復している。

今後も県西部地域産業界を中心に、相談対応による課題・問題点の解決、新製品開発等への提案に努めることはもちろん、積極的に企業訪問も行い、産業界ニーズの収集に努め、利用者の増加に努めていく。

c 依頼試験・機器等使用・研修施設等使用

令和6年度に実施した依頼試験の件数・金額は10,809件・11,299千円（令和5年度はそれぞれ10,466件・11,617千円）で、いずれも増加した。一方、設備（機器・施設）使用については38,391時間・59,559千円（令和5年度は39,083時間・61,956千円）でいずれも減少した。

d 研修生の受入れ

令和6年度は、2名の研修生を受け入れた。（令和5年度は、研修生を受入れていない）。対面で行われる研修は少しずつ回復していくと考えられる。

e 技術情報提供

令和6年度に実施した講習会・講演会は24回、参加者数は877名であり、前年度に比べ件数は増加・参加者数は減少した。講師活動は80回であり前年度と比べて増加した。web配信による開催ではアクセス数の増減が顕著に出るため、今後も引き続き受講機会拡大に努めていく。学会発表数は9件、投稿は6件であった。展示会出展、一般・企業への情報提供等を目的として7件に参加した。

f 産学官連携の促進

令和6年度も、企業が計画する公募競争型資金助成研究開発への申請支援及び研究・指導による協力を実施した。今後も産学官が連携した共同研究の推進、研究・開発成果発表会等を通じた研究者間の交流、さらには公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構が事務局として運営する浜松地域産業支援ネットワーク会議等に参画すること等により、地域の大学や各支援機関との連携強化を積極的に進めていく。

(3) 事業の根拠法令調

(工業技術研究所及び各工業技術支援センター共通)

事業名	根拠法令
新成長戦略研究事業	<ul style="list-style-type: none"> ・新成長戦略研究推進要綱 ・新成長戦略研究実施要領
受託研究事業	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡県工業技術研究所受託研究実施要綱 ・静岡県工業技術研究所受託研究取扱要領
外部研究員招へい事業 資質向上研修事業	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡県試験研究機関における研究員の資質向上プログラムの取扱い
依頼試験・研修室等使用業務	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡県工業技術研究所使用料及び手数料条例 ・静岡県工業技術研究所研修施設等の使用等に関する規則
機器等使用業務	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡県工業技術研究所の設置、管理及び使用料に関する条例 ・同条例施行規則
産学官連携	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡県工業技術研究所産学官連携推進コーディネータ設置要領
連携大学院制度	<ul style="list-style-type: none"> ・国立大学法人静岡大学と静岡県試験研究機関との教育研究協力に関する協定 ・静岡県試験研究機関及び静岡県公立大学法人静岡県立大学の教育・研究協力に関する協定 ・静岡県と静岡理工科大学との研究分野での連携に関する協定 ・連携大学院制度における大学院生受入要領

(注)1 根拠法令は、法律、政令、規則、条例及び要綱を全て記入する。

2 法律のみ適用条項を()内に記入する。

1 職員調

(1) 工業技術研究所(静岡)

(令和7年7月31日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	所長(技)	鈴木 敬明	所全体総括	□□□	□年 □月	□□□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□
2	次長兼総務課長兼総務班長(事)	宮本 三生	総務総括	□□□	□年 □月	□□□□□□□□□□□□□□□□ □
3	研究統括官兼化学材料科長(技)	真野 毅	金属材料科、化学材料科、機械電子科、照明音響科総括	□□□	□年 □月	
4	研究調整官兼ユニバーサルデザイン科長(技)	増井 裕久	食品科、環境科、ユニバーサルデザイン科、工芸科総括	□□□	□年 □月	□□□□□□□
<総務課>						
5	主幹(事)	清水 一也	総務・会計	□□□	□年 □月	□□□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□
6	主任(事)	藪 哲洋	総務・会計	□□□	□年 □月	□□□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□
7	主主任事	梶原 千江里	総務・会計	□□□	□年 □月	□□□□□□□□□□□□□□□□ □□□□
8	主任(技)	一瀬 将平	総務・会計	□□□	□年 □月	□□□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□
<企画調整部>						
9	企画調整部長(技)	本多 正計	部総括	□□□	□年 □月	
10	企画調整班長(技)	本間 信行	企画調整	□□□	□年 □月	
11	上席研究員(技)	浅沼 俊倫	企画調整	□□□	□年 □月	
12	上席研究員(技)	志田 英士	企画調整	□□□	□年 □月	
13	主事	伊藤 春香	企画調整	□□□	□年 □月	
<金属材料科>						
14	科長(技)	岩澤 秀	科総括	□□□	□年 □月	□□□□□□□□□□□□□□□□
15	上席研究員(技)	吉岡 正行	金属材料技術	□□□	□年 □月	
16	上席研究員(技)	田中 宏樹	金属材料技術	□□□	□年 □月	□□□□□□□□□□□□□□□□ □□
17	主任研究員(技)	磯部 佑太	金属材料技術	□□□	□年 □月	□□□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□
18	研究員(技)	増田 諒一	金属材料技術	□□□	□年 □月	
<化学材料科>						
19	上席研究員(技)	結城 茜	科総括補助、化学材料科技術	□□□	□年 □月	
20	上席研究員(技)	田中 翔悟	化学材料科技術	□□□	□年 □月	□□□□□□□□
21	主任研究員(技)	野澤 遼	化学材料科技術	□□□	□年 □月	□□□□□□□□□□□
<機械電子科>						
22	科長(技)	山下 清光	科総括	□□□	□年 □月	
23	上席研究員(技)	望月 紀寿	機械電子技術	□□□	□年 □月	□□□□□□□□□□□□
24	主任研究員(技)	久保田 大介	機械電子技術	□□□	□年 □月	
25	主任研究員(技)	横井 功毅	機械電子技術	□□□	□年 □月	
26	研究員(技)	佐藤 弘啓	機械電子技術	□□□	□年 □月	
<照明音響科>						
27	科長(技)	木野 直樹	科総括	□□□	□年 □月	
28	上席研究員(技)	豊田 敏裕	照明音響技術	□□□	□年 □月	□□□□□□□
29	上席研究員(技)	竹居 翼	機械電子技術	□□□	□年 □月	□□□□□□□□□□□□
30	上席研究員(技)	柳原 亘	照明音響技術	□□□	□年 □月	

＜食品科＞						
31	科長(技)	渡瀬 隆也	科総括	□□□	□年 □月	
32	上席研究員(技)	松野 正幸	食品技術	□□□	□年 □月	
33	上席研究員(技)	山本 佳奈恵	食品技術	□□□	□年 □月	
34	主任研究員(技)	長房 秀幸	食品技術	□□□	□年 □月	
35	主任研究員(技)	石橋 佳奈	食品技術	□□□	□年 □月	
36	主任研究員(技)	堀池 隼雄	食品技術	□□□	□年 □月	
＜環境エネルギー科＞						
37	科長(技)	岡本 哲志	科総括	□□□	□年 □月	□□□□□□□□□□□□
38	上席研究員(技)	室伏 敬太	環境技術	□□□	□年 □月	
39	上席研究員(技)	菊池 圭祐	環境技術	□□□	□年 □月	□□□□□□□□□□□□ □□□□□
40	主任研究員(技)	井口 大輔	環境技術	□□□	□年 □月	
41	研究員(技)	藁科 孝太	環境技術	□□□	□年 □月	□□□□□□□□□□□□
＜ユニバーサルデザイン科＞						
42	上席研究員(技)	易 強	科総括補助、ユニバーサルデザイン技術	□□□	□年 □月	
43	上席研究員(技)	嶋谷 慶雄	ユニバーサルデザイン技術	□□□	□年 □月	
44	主任(技)	深谷 謙一	ユニバーサルデザイン技術	□□□	□年 □月	□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□
45	研究員(技)	辻 真衣子	ユニバーサルデザイン技術	□□□	□年 □月	
＜工芸科＞						
46	科長(技)	油上 保	科総括	□□□	□年 □月	□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□
47	上席研究員(技)	村松 重緒	工芸技術	□□□	□年 □月	□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□
48	上席研究員(技)	船井 孝	工芸技術	□□□	□年 □月	□□□□□□□□
49	主任研究員(技)	前田 研司	工芸技術	□□□	□年 □月	
＜会計年度任用職員＞						
1	会計年度任用職員	杉山 和人	総合案内	□□□	□年 □月	
2	会計年度任用職員	坂田 真弓	総合案内	□□□	□年 □月	
3	会計年度任用職員	種茂 俊哉	総合案内	□□□	□年 □月	
4	会計年度任用職員	井上 雅文	依頼試験等の補助	□□□	□年 □月	
5	会計年度任用職員	杉山 正幸	依頼試験等の補助	□□□	□年 □月	
6	会計年度任用職員	八木 淳一	依頼試験等の補助	□□□	□年 □月	
7	会計年度任用職員	佐藤 義則	依頼試験等の補助	□□□	□年 □月	
平均年数（会計年度任用職員を除く）					□年 □月	

(2) 沼津工業技術支援センター

(令和7年7月31日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	センター長(技)	赤堀 篤	センター総括	□□□	□年 □月	□□□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□
2	研究統括官(技)	山下 晶平	研究業務総括	□□□	□年 □月	
＜総務課沼津分室＞						
3	分室長(事)	中野 佳典	総務総括	□□□	□年 □月	□□□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□
4	主任(事)	杉本 和子	総務・会計	□□□	□年 □月	□□□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□
＜技術支援担当＞						
5	主任(技)	長澤 正	企画・情報	□□□	□年 □月	□□□□□
＜バイオ科＞						
6	科長(技)	飯塚 千佳世	科総括	□□□	□年 □月	□□□□□□□□□□□□□□□□ □
7	上席研究員(技)	勝山 聡	バイオ技術	□□□	□年 □月	
8	上席研究員(技)	袴田 雅俊	バイオ技術	□□□	□年 □月	
9	主任研究員(技)	鈴木 雅博	バイオ技術	□□□	□年 □月	
10	研究員(技)	新村 駿介	バイオ技術	□□□	□年 □月	
＜機械電子科＞						
11	科長(技)	鬼久保 郁雄	科総括	□□□	□年 □月	□□□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□
12	上席研究員(技)	稲葉 彩乃	機械電子技術	□□□	□年 □月	□□□□□□□□
13	主任研究員(技)	木村 光平	機械電子技術	□□□□	□年 □月	
14	主任研究員(技)	長田 貴将	機械電子技術	□□□	□年 □月	
＜会計年度任用職員＞						
1	会計年度任用職員	米城 法子	総務事務補助	□□□	□年 □月	
2	会計年度任用職員	佐藤 廣美	依頼試験・技術相談等の補助	□□□	□年 □月	
3	会計年度任用職員	鈴木 文隆	依頼試験・技術相談等の補助	□□□	□年 □月	
4	会計年度任用職員	清水 昇	依頼試験・技術相談等の補助	□□□	□年 □月	
平均年数（会計年度任用職員を除く）					□年 □月	

(3) 富士工業技術支援センター

(令和7年7月31日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	センター長(技)	田中 伸佳	センター総括	□□□	□年□月	□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□
2	研究統括官(技)	深沢 博之	研究業務総括	□□□	□年□月	□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□
＜総務課富士分室＞						
3	分室長(事)	清水 俊秀	総務総括	□□□	□年□月	□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□
4	主任(事)	望月 しょう	総務・会計	□□□	□年□月	□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□
＜技術支援担当＞						
5	主任研究員(技)	小泉 雄輔	企画・情報	□□□	□年□月	
＜製紙科＞						
6	科長(技)	田村 克浩	製紙技術総括	□□□	□年□月	□□□□□□□□□□□□
7	上席研究員(技)	齊藤 将人	製紙技術	□□□	□年□月	
8	上席研究員(技)	伊藤 彰	製紙技術	□□□	□年□月	□□□□□□□□□□□□
9	上席研究員(技)	河部 千香	製紙技術	□□□	□年□月	□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□
＜CNF科＞						
	科長(技)	深沢 博之	CNF技術総括		□年□月	□□□□□□□□
10	上席研究員(技)	渡邊 雅之	CNF技術	□□□	□年□月	
11	主任研究員(技)	山崎 利樹	CNF技術	□□□	□年□月	□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□
12	主任研究員(技)	山口 智久	CNF技術	□□□	□年□月	□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□
13	研究員(技)	小塚 慎太郎	CNF技術	□□□	□年□月	□□□□□□□□
＜機械電子科＞						
14	科長(技)	望月 建治	機械電子技術総括	□□□	□年□月	
15	上席研究員(技)	齊藤 和明	機械電子技術	□□□	□年□月	
16	主任研究員(技)	井出 達樹	機械電子技術	□□□	□年□月	□□□□□□□□
＜会計年度任用職員＞						
1	会計年度任用職員	石川 真澄	総務事務補助	□□□	□年□月	
2	会計年度任用職員	佐野 重光	依頼試験・研究補助・窓口業務	□□□	□年□月	
3	会計年度任用職員	松永 良美	依頼試験・研究補助・窓口業務	□□□	□年□月	
4	会計年度任用職員	佐野 知恵	依頼試験・研究補助・窓口業務	□□□	□年□月	
5	会計年度任用職員	増田 雅子	依頼試験・研究補助・窓口業務	□□□	□年□月	
平均年数(会計年度任用職員等を除く)					□年□月	

職 員 の 年 齢 調

(令和7年7月31日現在)

年 齢	工業技術研究所 (静岡)		沼津工業技術 支援センター		富士工業技術 支援センター		浜松工業技術 支援センター		合 計	
	人 員	摘 要	人 員	摘 要	人 員	摘 要	人 員	摘 要	人 員	摘 要
20歳未満	人		人		人		人		0人	
20歳以上30歳未満	5人		2人		1人		6人		14人	
30歳以上40歳未満	14人		4人		5人		5人		28人	
40歳以上50歳未満	9人		1人		3人		4人		17人	
50歳以上56歳未満	8人		0人		2人		4人		14人	
56歳以上61歳未満	11人		5人		5人		6人		27人	
61歳以上	2人	暫定再任用 2	2人	暫定再任用2	人		4人	暫定再任用3	8人	
計	49人	平均年齢 44.7歳	14人	平均年齢 46.5歳	16人	平均年齢 45.5歳	29人	平均年齢 45.1歳	108人	平均年齢 45.2歳

健 康 管 理

1 令和6年度受診状況

区 分		内 容				合計
		工業技術研究所(静岡)	沼津工業技術支援センター	富士工業技術支援センター	浜松工業技術支援センター	
受診状況	受診者数	52人	14人	15人	29人	110人
	職員数	52人	14人	15人	29人	110人
受診率		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
県平均受診率		100.0%				

2 令和7年度在籍者の健康管理区分結果

(令和7年7月31日現在)

健 康 管 理 区 分		人 数				合計	
		工業技術研究所(静岡)	沼津工業技術支援センター	富士工業技術支援センター	浜松工業技術支援センター		
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。	(1) 1人	() 人	(1) 1人	(2) 2人	(4) 4人	
B1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要治療	() 人	() 人	() 人	() 人	
B2		要経過観察	() 人	() 人	() 人	() 人	
C1	勤務をほぼ平常に行っておりが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要治療	(2) 2人	() 人	() 人	(2) 2人	
C2		要経過観察	() 人	() 人	(1) 1人	() 人	(1) 1人
D1	平常の勤務でよい。	要治療	(15) 15人	(3) 3人	(4) 4人	(9) 9人	(31) 31人
D2		要経過観察	(12) 12人	(6) 6人	(4) 4人	(10) 10人	(32) 32人
D3		医療不要	(17) 17人	(5) 5人	(5) 5人	(6) 6人	(33) 33人
区分者計		(47) 47人	(14) 14人	(15) 15人	(27) 27人	(103) 103人	
未区分者数		() 2人	() 0人	() 1人	() 2人	() 5人	
合 計		(47) 49人	(14) 14人	(15) 16人	(27) 29人	(103) 108人	

(1) 管理区分A～C2該当者に対する措置状況

面談等をしながらか業務調整の必要性や健康状態の確認を行っている。

(2) 未区分の理由

ア 産休・育休	人
イ 新規採用	4人
ウ 自己都合による未受診	人
エ その他	1人

職 員 配 置 調

(令和7年7月31日現在)

区 分	工業技術研究所										沼津工業技術支援センター				富士工業技術支援センター					浜松工業技術支援センター						合 計				
	総務課	企画調整部	金属材料科	化学材料科	機械電子科	照明音響科	食品科	環境エネルギー科	ユニバーサルデザイン科	工芸科	小計	総務課沼津分室	技術支援担当	バイオ科	機械電子科	小計	総務課富士分室	技術支援担当	製紙科	CNF科	機械電子科	小計	総務課浜松分室	技術支援担当	光科		機械電子科	材料科	繊維高分子材料科	小計
所在地	静岡市葵区牧ヶ谷										沼津市大岡				富士市大淵					浜松市浜名区新都田										
担当区域																														
職員(事)	2	1								3	1			1	2						2	2						2	8	
職員(技)	4	4	5	3	5	4	6	5	4	44	2		5	4	11	2	1	4	4	3	14	2		4	7	6	5	24	93	
暫定再任用職員(事)	2									2	1			1								1							1	4
暫定再任用職員(技)												1		1										1	1				2	3
配置職員																														
計	8	5	5	3	5	4	6	5	4	49	4	1	5	4	14	4	1	4	4	3	16	5	0	5	8	6	5	29	108	
会計年度任用職員		3		1	1					2	7	1		3	4	1		3	1		5	1	3		3	5	4	16	32	
臨時的任用職員																														
計	0	3	0	1	1	0	0	0	0	2	7	1	0	3	4	1	0	3	1	0	5	1	3	0	3	5	4	16	32	
合計	8	8	5	4	6	4	6	5	4	6	56	5	1	5	7	18	5	1	7	5	3	21	6	3	5	11	11	9	45	140

*所属長は総務課に、センター長は総務課分室に、研究統括官及び研究調整官は総務課、総務課分室に記載

第2 沼津工業技術支援センター(沼津市)

[財務事務]

歳 入 予 算

一般会計

区 分	調 定 額 A	収 入 済 額		不納欠損額 D
		納 期 内 B	納 期 後 C	
	円	円	円	円
款 08 使用料及び手数料	2,274,480	1,946,980	327,500	0
項 01 使用料	2,274,480	1,946,980	327,500	0
目 06 経済産業使用料	2,274,480	1,946,980	327,500	0
04 創業者育成施設使用料	2,270,800	1,943,300	327,500	0
12 庁舎等使用料	3,680	3,680	0	0
款 10 財産収入	24,530	24,530	0	0
項 02 財産売払収入	24,530	24,530	0	0
目 02 物品売払収入	24,530	24,530	0	0
01 不用品売払収入	24,530	24,530	0	0
備品	24,530	24,530	0	0
款 14 諸収入	593,177	593,177	0	0
項 04 受託事業収入	593,177	593,177	0	0
目 04 経済産業受託事業収入	593,177	593,177	0	0
01 工業技術研究受託料	593,177	593,177	0	0
項 07 雑入	1,021,614	1,021,614	0	0
目 02 雑入	1,021,614	1,021,614	0	0
81 保険料負担金	590,854	590,854	0	0
非常勤職員	590,854	590,854	0	0
79 雑収	430,760	430,760	0	0
計	3,913,801	3,913,801	327,500	0

歳 入 予 算

一般会計

区 分	調 定 額 A	収 入 済 額		不納欠損額 D
		納 期 内 B	納 期 後 C	
	円	円	円	円
款 08 使用料及び手数料	900,880	700,700	134,680	0
項 01 使用料	900,880	676,580	134,680	0
目 07 経済産業使用料	900,880	676,580	134,680	0
01 創業者育成施設使用料	897,200	672,900	131,000	0
12 庁舎等使用料	3,680	0	3,680	0
款 10 財産収入	10,770	10,770	0	0
項 02 財産売払収入	10,770	10,770	0	0
目 03 生産物売払収入	10,770	10,770	0	0
08 工業技術研究所生産物売払収入	10,770	10,770	0	0
款 14 諸収入	1,751,206	1,549,535	0	0
項 04 受託事業収入	1,524,594	1,322,923	0	0
目 04 経済産業受託事業収入	1,524,594	1,322,923	0	0
01 工業技術研究受託料	1,524,594	1,322,923	0	0
項 07 雑入	226,612	226,612	0	0
目 02 雑入	226,612	226,612	0	0
81 保険料負担金	226,612	226,612	0	0
非常勤職員	226,612	226,612	0	0
計	2,662,856	2,261,005	0	134,680

執 行 状 況 調

(令和7年度)
(令和7年7月31日現在)

収 入 未 済 額			収入歩合	納期内 収入率	摘 要
納期限経過 E	納期限未到来 F	計			
円	円	円	$\frac{B+C}{A-D-F}$ %	$\frac{B}{A-D-F}$ %	
65,500	0	65,500	92.7	77.7	
65,500	0	65,500	92.7	77.7	
65,500	0	65,500	92.7	77.7	
65,500	0	65,500	92.6	78.0	
0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	100.0	100.0	
0	201,671	201,671	100.0	100.0	
0	201,671	201,671	100.0	100.0	
0	201,671	201,671	100.0	100.0	
0	201,671	201,671	100.0	100.0	
0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	100.0	100.0	
65,500	201,671	201,671	97.3	91.8	

様式第 5 号－ 2

県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調

区 分	令和 6 年度	令和 7 年度 (令和 7 年 7 月 31 日現在)
	件 数	件 数
依頼試験手数料	7 6 9	1, 4 9 2
機器等使用料	3 6 5	1 2 3
研修施設等使用料	3	1

(注) 1 本表は出先機関において、該当がある場合に調製する。

2 「区分」欄は、使用料及び手数料の名称を記載する。

様式第7号-2

保管現金有高調

(令和7年度)

(令和7年7月31日現在)

現金保管者	区 分	金 額 (円)
沼津工業技術支援センター長	駐車料等継続的資金前渡	7,000

様式第7号-3

預金調

(令和6年7月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残 高 (円)	摘 要
スルガ銀行沼津セントラル支店	無利息型普通預金	2527368	静岡県工業技術研究所沼津工業技術支援センター資金前渡者 飯野修	0	負担金等支払い
スルガ銀行沼津セントラル支店	無利息型普通預金	2527367	(自振口)静岡県工業技術研究所沼津工業技術支援センター資金前渡者 飯野修	0	光熱水費等口座振替
残高合計				0	

郵券等受払調

(令和7年7月31日現在)

(単位:枚、円)

区分	種類		6年度						7年度						差引現在高		摘要
			繰越		受入		払出		繰越		受入		払出				
			枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額			
郵券	2円券	2	50	100	0	0	29	58	21	42	0	0	3	6	18	36	文書発送用
	5円券	5	5	25	0	0	2	10	3	15	0	0	0	0	3	15	
	10円券	10	53	530	0	0	18	180	35	350	0	0	3	30	32	320	
	20円券	20	66	1,320	100	2,000	116	2,320	50	1,000	0	0	34	680	16	320	
	26円券	26	0	0	100	2,600	28	728	72	1,872	0	0	68	1,768	4	104	
	40円券	40	0	0	50	2,000	7	280	43	1,720	0	0	2	80	41	1,640	
	63円券	63	4	252	0	0	4	252	0	0	0	0	0	0	0	0	
	84円券	84	148	12,432	100	8,400	179	15,036	69	5,796	0	0	69	5,796	0	0	
	85円券	85	0	0	2	170	0	0	2	170	0	0	0	0	2	170	
	110円券	110	0	0	2	220	2	220	0	0	100	11,000	64	7,040	36	3,960	
	120円券	120	142	17,040	0	0	72	8,640	70	8,400	0	0	34	4,080	36	4,320	
	140円券	140	0	0	100	14,000	73	10,220	27	3,780	0	0	6	840	21	2,940	
	180円券	180	0	0	100	18,000	19	3,420	81	14,580	0	0	19	3,420	62	11,160	
	350円券	350	100	35,000	50	17,500	56	19,600	94	32,900	0	0	17	5,950	77	26,950	
	370円 レターバックライト	370	5	1,850	5	1,850	10	3,700	0	0	0	0	0	0	0	0	
	430円 レターバックライト	430	0	0	25	10,750	6	2,580	19	8,170	20	8,600	30	12,900	9	3,870	
	520円 レターバックプラス	520	5	2,600	0	0	3	1,560	2	1,040	0	0	0	0	2	1,040	
計				71,149		77,490		68,804		79,835		19,600		42,590		56,845	
タクシーチ ケット	伊豆箱根交通タク シー		26		0		2	2	22		0		0		22		客員研究員送 迎等
計			26		0		2	2	22		0		0		22		
収入印紙	500円券		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	資格免許申請用
	1000円券		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

様式第8号

歳入歳出外現金調

(令和7年度)

(令和7年7月31日現在)

区 分	越 高	受 高	払 高	残 高	摘 要
保証金	円 0	円 0	円 0	円 0	
計	0	0	0	0	

歳出予算執行状況調

(令和6年度)

一般会計

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
	円	円	円	
款 04 経営管理費	5,214,910	5,214,910	0	
項 01 経営管理費	5,214,910	5,214,910	0	
目 01 一般総務費	2,552,910	2,552,910	0	
01 報酬	1,112,934	1,112,934	0	
03 非常勤職員報酬	1,112,934	1,112,934	0	
03 職員手当等	253,936	253,936	0	
01 その他の職員手当等	253,936	253,936	0	
04 共済費	1,168,996	1,168,996	0	
01 地方公務員共済組合に 対する負担金	62,230	62,230	0	
02 報酬、給料及び賃金に 係る社会保険料	1,106,766	1,106,766	0	
08 旅費	17,044	17,044	0	
01 その他の旅費	17,044	17,044	0	
目 05 資産経営費	2,662,000	2,662,000	0	
14 工事請負費	2,662,000	2,662,000	0	
款 05 暮らし・環境費	1,029,820	1,029,820	0	
項 04 環境費	1,029,820	1,029,820	0	
目 01 環境政策費	1,029,820	1,029,820	0	
12 委託料	1,029,820	1,029,820	0	
款 08 経済産業費	82,047,286	82,047,286	0	
項 01 経済産業費	756,047	756,047	0	
目 01 経済産業総務費	745,497	745,497	0	
01 報酬	392,480	392,480	0	
03 非常勤職員報酬	392,480	392,480	0	
03 職員手当等	308,584	308,584	0	
01 その他の職員手当等	308,584	308,584	0	
04 共済費	44,433	44,433	0	
01 地方公務員共済組合に 対する負担金	9,912	9,912	0	
02 報酬、給料及び賃金に 係る社会保険料	34,521	34,521	0	

歳出予算執行状況調

(令和6年度)

一般会計

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
	円	円	円	
目 02 経済産業企画費	10,550	10,550	0	
08 旅費	10,550	10,550	0	
02 普通旅費	10,550	10,550	0	
項 02 産業革新費	5,298,962	5,298,962	0	
目 01 産業革新費	5,298,962	5,298,962	0	
08 旅費	276,230	276,230	0	
02 普通旅費	276,230	276,230	0	
10 需用費	2,190,536	2,190,536	0	
01 その他の需用費	2,190,536	2,190,536	0	
11 役務費	488,457	488,457	0	
12 委託料	975,000	975,000	0	
13 使用料及び賃借料	50,589	50,589	0	
17 備品購入費	1,306,250	1,306,250	0	
18 負担金、補助及び交付金	11,900	11,900	0	
項 04 商工業費	75,992,277	75,992,277	0	
目 01 商工業費	75,992,277	75,992,277	0	
01 報酬	3,497,254	3,497,254	0	
03 非常勤職員報酬	3,497,254	3,497,254	0	
03 職員手当等	980,017	980,017	0	
01 その他の職員手当等	980,017	980,017	0	
04 共済費	1,198,245	1,198,245	0	
01 地方公務員共済組合に 対する負担金	248,456	248,456	0	
02 報酬、給料及び賃金に 係る社会保険料	949,789	949,789	0	
07 報償費	57,750	57,750	0	
01 その他の報償費	57,750	57,750	0	
08 旅費	517,733	517,733	0	
01 その他の旅費	62,983	62,983	0	
02 普通旅費	454,750	454,750	0	

歳出予算執行状況調

(令和6年度)

一般会計

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
	円	円	円	
10 需用費	28,081,785	28,081,785	0	
01 その他の需用費	28,081,785	28,081,785	0	
11 役員費	1,203,450	1,203,450	0	
12 委託料	39,593,669	39,593,669	0	
13 使用料及び賃借料	189,263	189,263	0	
17 備品購入費	451,000	451,000	0	
18 負担金、補助及び交付金	196,911	196,911	0	
26 公課費	25,200	25,200	0	
計	88,292,016	88,292,016	0	

歳出予算執行状況調

(令和7年度)

(令和7年7月31日現在)

一般会計

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
	円	円	円	
款 03 総務費	5,224,328	1,111,752	4,112,576	
項 01 総務費	5,224,328	1,111,752	4,112,576	
目 01 一般総務費	5,122,128	1,009,552	4,112,576	
01 報酬	2,912,000	380,890	2,531,110	
03 非常勤職員報酬	2,912,000	380,890	2,531,110	
03 職員手当等	1,000,000	293,806	706,194	
01 その他の職員手当等	1,000,000	293,806	706,194	
04 共済費	1,168,128	328,952	839,176	
01 地方公務員共済組合に 対する負担金	225,000	36,845	188,155	
02 報酬、給料及び賃金に 係る社会保険料	943,128	292,107	651,021	
08 旅費	42,000	5,904	36,096	
01 その他の旅費	42,000	5,904	36,096	
目 05 人事管理費	102,200	102,200	0	
08 旅費	102,200	102,200	0	
02 普通旅費	102,200	102,200	0	
款 04 財務費	6,737,000	0	6,737,000	
項 01 財務費	6,737,000	0	6,737,000	
目 03 行政経営費	6,737,000	0	6,737,000	
14 工事請負費	6,737,000	0	6,737,000	
款 09 経済産業費	87,916,993	19,158,606	68,758,387	
項 01 経済産業費	13,000	2,780	10,220	
目 02 経済産業企画費	13,000	2,780	10,220	
08 旅費	13,000	2,780	10,220	
02 普通旅費	13,000	2,780	10,220	
項 02 産業革新費	3,481,460	772,784	2,708,676	
目 01 産業革新費	3,481,460	772,784	2,708,676	
08 旅費	232,960	1,700	231,260	
02 普通旅費	232,960	1,700	231,260	
10 需用費	1,480,500	360,906	1,119,594	
01 その他需用費	1,480,500	360,906	1,119,594	
11 役務費	352,000	53,460	298,540	

歳出予算執行状況調

(令和7年度)
(令和7年7月31日現在)

一般会計

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
	円	円	円	
12 委託料	1,340,000	356,718	983,282	
13 使用料及び賃借料	76,000	0	76,000	
項 04 商工業費	84,422,533	18,383,042	66,039,491	
目 01 商工業費	84,422,533	18,383,042	66,039,491	
01 報酬	3,880,000	993,609	2,886,391	
03 非常勤職員報酬	3,880,000	993,609	2,886,391	
03 職員手当等	1,612,000	777,159	834,841	
01 その他の職員手当等	1,612,000	777,159	834,841	
04 共済費	1,331,000	516,725	814,275	
01 地方公務員共済組合に 対する負担金	259,000	107,318	151,682	
02 報酬、給料及び賃金に 係る社会保険料	1,072,000	409,407	662,593	
07 報償費	109,000	0	109,000	
01 その他の報償費	109,000	0	109,000	
08 旅費	492,010	153,733	338,277	
01 その他の旅費	111,000	13,583	97,417	
02 普通旅費	381,010	140,150	240,860	
10 需用費	27,093,373	6,420,238	20,673,135	
01 その他の需用費	27,093,373	6,420,238	20,673,135	
11 役務費	1,150,150	119,330	1,030,820	
12 委託料	42,528,000	9,209,810	33,318,190	
13 使用料及び賃借料	256,000	104,119	151,881	
17 備品購入費	5,728,000	0	5,728,000	
18 負担金、補助及び交付金	215,000	88,319	126,681	
26 公課費	28,000	0	28,000	
計	99,878,321	20,270,358	79,607,963	

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					5年度	6年度	左のうち、前年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	くらし・環境費	環境費	環境政策費	/	1,029,820	/
	一般会計	経済産業費	産業革新費	産業革新費		975,000	
	一般会計	経済産業費	商工業費	商工業費		39,593,669	
計					42,376,521	41,598,489	0
(14) 工事 請負費	一般会計	経営管理費	経営管理費	資産経営費	/	2,662,000	/
計					5,214,000	2,662,000	0
(16) 公有財産 購入費					/		/
計					0	0	0
(17) 備品 購入費	一般会計	経済産業費	産業革新費	産業革新費	/	1,306,250	/
	一般会計	経済産業費	商工業費	商工業費		451,000	
計					52,871,500	1,757,250	0
(18) 負担金、 補助及 び交付金	一般会計	経済産業費	産業革新費	産業革新費	/	11,900	/
	一般会計	経済産業費	商工業費	商工業費		196,911	
計					275,400	208,811	0
(21) 補償、補 填、及び 賠償金					/		/
計					0	0	0

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和7年7月31日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、前年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	経済産業費	産業革新費	産業革新費	356,718	0
	一般会計	経済産業費	商工業費	商工業費	9,209,810	0
計					9,566,528	0
(14) 工事 請負費	一般会計	財務費	財務費	行政経営費	0	
計					0	0
(16) 公有財産 購入費						
計					0	0
(17) 備品 購入費	一般会計	経済産業費	商工業費	商工業費	0	
計					0	0
(18) 負担金、 補助及 び交付金	一般会計	経済産業費	商工業費	商工業費	88,319	0
計					88,319	0
(21) 補償、補 填、及び 賠償金						
計					0	0

委託料に関する調

(令和6年度)

整理 番号	委託 業務名	受託者	当初 設計金額	契約金額			契約 締結 方法	契約 期間	支出 年月日	金額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変更 増減額	計						
1	(事務関係) 沼津イン キュベート センター設 備運転管理 業務	東海ビル 保善㈱	円 667,700	円 667,700	円	円 667,700	随契	6.4.1 ～ 7.3.31	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.25 7.1.31 7.2.28 7.3.28 7.4.25 小計	円 8,470 31,020 8,470 31,020 8,470 31,020 93,170 31,020 8,470 31,020 8,470 377,080 667,700	インキュ ベート施 設設備運 転管理	随契 1号 (少額)
2	緑化環境整 備管理業務	㈱植正園	3,516,451	3,300,000		3,300,000	一般	6.6.3 ～ 7.3.31	6.8.30 6.9.30 6.11.29 7.3.28 7.4.16 小計	790,000 985,000 930,000 510,000 85,000 3,300,000	剪定・病 虫害防除 等樹木管 理	
3	排水処理施 設維持管理 業務	東海ブラ ント㈱	5,448,801	5,016,000		5,016,000	一般	6.4.1 ～ 7.3.31	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.25 7.1.31 7.2.28 7.3.28 7.4.25 小計	171,600 314,600 171,600 171,600 264,000 171,600 222,200 264,000 171,600 2,657,600 264,000 171,600 5,016,000	実験・一 般合併排 水処理施 設維持管 理	
4	設備運転管 理業務	東海ビル 保善㈱	10,427,467	10,297,320		10,297,320	一般	6.4.1 ～ 7.3.31	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.25 7.1.31 7.2.28 7.3.28 7.4.25 小計	841,940 841,940 938,960 841,940 841,940 841,940 841,940 841,940 938,960 841,940 841,940 841,940 10,297,320	設備日常 点検・運 転管理	
5	自動扉・排 煙トップラ イト保守点 検業務	ナブコシ ステム㈱ 沼津営業 所	206,800	206,800		206,800	随契	6.4.1 ～ 7.3.31	6.9.19 6.12.25 7.3.28 小計	24,933 156,934 24,933 206,800	自動扉・ 排煙トッ プライト 保守点検	随契 1号 (少額)
	頁 計		20,267,219	19,487,820	0	19,487,820				19,487,820		

委託料に関する調

(令和6年度)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
6	清掃管理業務	東海ビル保善㈱	円 3,610,104	円 3,570,600	円	円 3,570,600	一般	6.4.1 ～ 7.3.31	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.25 7.1.31 7.2.28 7.3.28 7.4.25 小計	円 262,900 262,900 262,900 354,684 262,900 322,916 262,900 526,900 262,900 262,900 262,900 262,900 3,570,600	日常及び定期清掃管理	
7	昇降機等保守管理業務	日本オーチス・エレベータ㈱静岡支店	1,650,000	1,650,000		1,650,000	随契	6.4.1 ～ 7.3.31	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.25 7.1.31 7.2.28 7.3.28 7.4.25 小計	円 137,500 137,500 137,500 137,500 137,500 137,500 137,500 137,500 137,500 137,500 137,500 137,500 1,650,000	エレベータ設備保守点検	随契 2号 (不適)
8	建築物環境衛生管理業務	静岡ビルサービス㈱	2,254,230	2,244,000		2,244,000	不随	6.4.1 ～ 7.3.31	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.25 7.1.31 7.2.28 7.3.28 7.4.25 小計	円 38,500 464,200 38,500 96,800 139,700 245,300 38,500 464,200 38,500 96,800 139,700 443,300 2,244,000	空気環境測定、水質検査等建築物環境衛生管理	
9	空調設備等保守点検業務	東海ビル保善㈱	3,386,845	3,366,000		3,366,000	不随	6.4.1 ～ 7.3.31	6.7.31 6.10.31 6.12.25 7.1.31 7.4.25 小計	円 1,954,150 4,950 1,397,000 4,950 4,950 3,366,000	冷温水発生機等空調設備保守点検	
10	自家発電設備保守点検業務	静岡ビルサービス㈱	2,442,000	1,562,000		1,562,000	一般	6.4.1 ～ 7.3.31	6.10.31 7.4.25 小計	円 1,122,000 440,000 1,562,000	自家発電設備保守点検	
	頁計		13,343,179	12,392,600	0	12,392,600			小計	円 12,392,600		

委託料に関する調

(令和6年度)

整理 番号	委託 業務名	受託者	当初 設計金額	契約金額			契約 締結 方法	契 約 期 間	支 出 年 月 日	金 額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変更 増減額	計						
11	警備業務	総合警備保障(株)静岡支社	円 792,000	円 792,000	円	円 792,000	随契	6.4.1 ～ 7.3.31	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.25 7.1.31 7.2.28 7.3.28 7.4.25 小計	円 66,000 66,000 66,000 66,000 66,000 66,000 66,000 66,000 66,000 66,000 66,000 66,000 66,000 792,000	庁舎機械 警備	随契 1号 (少額)
12	一般廃棄物 収集運搬業 務	(有)松岡商 事	290,400	290,400		290,400	随契	6.4.1 ～ 7.3.31	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.25 7.1.31 7.2.28 7.3.28 7.4.25 小計	24,200 24,200 24,200 24,200 24,200 24,200 24,200 24,200 24,200 24,200 24,200 24,200 24,200 290,400	一般廃棄 物運搬	随契 1号 (少額)
13	自家用電気 工作物保安 管理業務	杉山電気 管理事務 所 □□ □□	591,360	591,360		591,360	随契	6.4.1 ～ 7.3.31	6.6.28 6.7.1 6.7.31 6.9.27 6.9.27 6.10.31 6.11.19 7.1.23 7.1.23 7.3.26 7.4.25 小計	38,280 38,280 38,280 38,280 38,280 38,280 38,280 170,280 38,280 76,560 38,280 591,360	自家用電 気工作物 保安管理	随契 1号 (少額)
14	LAN及び ネットワー ク機器等保 守点検業務	コミュニ ケーション システム(株)	149,600	149,600		149,600	随契	6.4.1 ～ 7.3.31	6.5.31 6.11.29 小計	74,800 74,800 149,600	LAN及び ネット ワーク機 器等保守 点検	随契 1号 (少額)
15	構内電話交 換設備保守 点検業務	コミュニ ケーション システム(株)	308,000	308,000		308,000	随契	6.4.1 ～ 7.3.31	6.5.31 6.8.30 6.11.29 7.2.28 小計	77,000 77,000 77,000 77,000 308,000	構内電話 交換設備 保守点検	随契 1号 (少額)
16	高木・支障 枝せん定作 業委託	(株)植正園	839,300	836,000		836,000	随契	7.2.20 ～ 7.3.31	7.4.16	836,000	高木・支 障枝せん 定作業委 託	随契 1号 (少額)
	頁 計		2,970,660	2,967,360	0	2,967,360				2,967,360		

委託料に関する調

(令和6年度)

整理 番号	委託 業務名	受託者	当初 設計金額	契約金額			契約 締結 方法	契約 期 間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変更 増減額	計						
17	直流電源装置等保守点検業務	㈱明電エンジニアリング静岡支店	円 170,500	円 170,500	円	円 170,500	随契	6.4.1 ～ 7.3.31	6.5.31	円 170,500	直流電源装置等保守点検	随契 1号 (少額)
18	消防用設備等保守点検業務	能美防災㈱静岡支社	753,500	499,400		499,400	随契	6.4.1 ～ 7.3.31	6.10.31 7.4.25	201,300 298,100	消防用設備等保守点検	随契 1号 (少額)
19	排水処理施設産業廃棄物処理業務	日興サービス㈱	242,000	242,000		242,000	随契	6.10.1 ～ 7.3.31	7.3.7	499,400	産業廃棄物処理	随契 1号 (少額)
20	合併浄化槽清掃業務	㈱太平洋社	127,413	127,413		127,413	随契	6.10.1 ～ 7.3.31	7.2.28	127,413	合併浄化槽清掃	随契 1号 (少額)
21	クレーン設備年次点検業務	内藤工機㈱	121,000	121,000		121,000	随契	6.10.4 ～ 7.3.31	6.12.6	121,000	クレーン設備年次点検	随契 1号 (少額)
22	エネルギー分散型X線分析装置保守点検業務	東海理機㈱	753,500	753,500		753,500	随契	6.7.11 ～ 7.3.31	7.2.27	753,500	エネルギー分散型X線分析装置保守点検	随契 1号 (少額)
23	表面粗さ・輪郭形状測定機点検業務	㈱東精エンジニアリング	273,900	273,900		273,900	随契	6.10.23 ～ 7.3.31	7.3.25	273,900	表面粗さ・輪郭形状測定機点検	随契 1号 (少額)
24	恒温恒湿槽保守点検業務	遠藤科学㈱三島営業所	473,550	473,550		473,550	随契	6.7.31 ～ 7.3.31	6.9.30 7.2.28	321,750 151,800	恒温恒湿槽保守点検	随契 1号 (少額)
25	精密万能試験機点検業務	東海理機㈱	999,900	999,900		999,900	随契	6.10.16 ～ 7.3.31	7.2.27	999,900	精密万能試験機点検	随契 1号 (少額)
26	局所排気装置点検業務	東海理機㈱	166,100	166,100		166,100	随契	6.7.31 ～ 7.2.28	7.1.15	166,100	局所排気装置点検	随契 1号 (少額)
27	振動試験機点検業務	東海理機㈱	403,480	403,480		403,480	随契	6.11.20 ～ 7.3.31	7.2.26	403,480	振動試験機点検	随契 1号 (少額)
28	高速液体クロマトグラフ点検業務	協立電機㈱	396,000	396,000		396,000	随契	6.10.17 ～ 7.3.31	7.2.26	396,000	高速液体クロマトグラフ点検	随契 1号 (少額)
29	水平/垂直切替式複合環境振動試験装置点検業務	遠藤科学㈱三島営業所	785,554	785,554		785,554	随契	6.11.15 ～ 7.3.31	7.4.11	785,554	水平/垂直切替式複合環境振動試験装置点検	随契 1号 (少額)
	頁 計		5,666,397	5,412,297	0	5,412,297				5,412,297		

委託料に関する調

(令和6年度)

整理 番号	委託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契約金額			契約 締結 方法	契 約 期 間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変更 増減額	計						
30	クラウド ファンディ ング型研究 資金募集ち らし作成業 務	㈱サイラ ン	円 40,000	円 40,000	円	円 40,000	随契	6.5.15 ～ 6.5.31	6.6.11	円 40,000	研究資金 募集ちら し作成	随契 1号 (少額)
31	産業廃棄物 収集運搬処 分業務	㈱平和リ サイクル	69,850	69,850		69,850	随契	6.12.13 ～ 7.3.31	7.2.21	69,850	産業廃棄 物収集運 搬処分	随契 1号 (少額)
32	産業廃棄物 (廃試薬) 収集運搬業 務	日本産業 廃棄物処 理㈱	78,302	78,302		78,302	随契	7.1.21 ～ 7.3.31	7.3.21	78,302	産業廃棄 物収集運 搬	随契 1号 (少額)
33	産業廃棄物 (廃試薬) 処分業務	三光㈱	80,774	80,774		80,774	随契	7.1.21 ～ 7.3.31	7.3.28	80,774	産業廃棄 物処分	随契 1号 (少額)
34	産業廃棄物 (廃試薬) 処分業務	㈱大洋 サービス	11,550	11,550		11,550	随契	7.1.21 ～ 7.3.31	7.3.21	11,550	産業廃棄 物処分	随契 1号 (少額)
35	産業廃棄物 (蛍光灯 等) 収集運 搬・処分業 務	セキトラ ンスシ テム㈱	28,116	28,116		28,116	随契	7.2.14 ～ 7.3.31	7.4.14	28,116	産業廃棄 物収集運 搬・処分	随契 1号 (少額)
36	低濃度ポリ 塩化ビフェ ニル廃棄物 収集運搬・ 処分業務	群桐エコ ロ㈱	2,626,800	1,029,820		1,029,820	一般	7.1.15 ～ 7.3.31	7.3.28	1,029,820	低濃度ポ リ塩化ビ フェニル 廃棄物収 集運搬・ 処分	
	頁 計		2,935,392	1,338,412	0	1,338,412				1,338,412		
	事務関係計	36件	45,182,847	41,598,489	0	41,598,489				41,598,489		
	合 計	36件	45,182,847	41,598,489	0	41,598,489				41,598,489		

委託料に関する調

(令和7年度)
(令和7年7月31日現在)

整理 番号	委託 業務名	受託者	当初 設計金額	契約金額			契約 締結 方法	契 約 期 間	支 出 年 月 日	金 額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変更 増減額	計						
1	(事務関係) 沼津インキュ ベートセン ター設備運 転管理業務	東海ビル 保善(株)	円 734,360	円 734,360	円	円 734,360	随契	7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 小計	円 9,306 32,956 9,306 51,568	インキュ ベート施 設設備運 転管理	随契 1号 (少額)
2	緑化環境整備 管理業務	株式会社 植正園	3,729,000	3,278,000		3,278,000	一般	7.5.26 ～ 8.3.31	7.7.31	1,406,200	剪定・病 虫害防 除等樹 木管理	
3	排水処理施設 維持管理業務	東海プラ ント(株)	5,537,400	5,346,000		5,346,000	一般	7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 小計	183,700 345,400 183,700 712,800	実験・一 般合併 排水処 理施設 維持管 理	
4	設備運転管理 業務	東海ビル 保善(株)	11,136,675	10,915,080		10,915,080	一般	7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 小計	890,670 890,670 1,004,190 2,785,530	設備日 常点 検・運 転管 理	
5	清掃管理業務	東海ビル 保善(株)	4,164,981	3,820,080		3,820,080	一般	7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 小計	283,250 283,250 283,250 849,750	日常及 び定期 清掃 管理	
6	昇降機等保守 管理業務	日本オー チス・エ レベータ 株静岡支 店	1,689,600	1,689,600		1,689,600	随契	7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 小計	140,800 140,800 140,800 422,400	エレベ ータ設 備保 守点 検	随契 1号 (少額)
7	建築物環境衛 生管理業務	静岡ビル サービス 株	2,371,600	2,371,600		2,371,600	一般	7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 小計	41,800 487,300 41,800 570,900	空気環 境測 定、水 質検査 等建 物環 境衛 生管 理	
8	空調設備等保 守点検業務	東海ビル 保善(株)	3,789,720	3,567,960		3,567,960	一般	7.4.1 ～ 8.3.31	7.6.30 7.7.31 小計	1,949,200 55,440 2,004,640	冷温水 発生機 等空 調設 備保 守点 検	
9	警備業務	総合警備 保障(株) 静岡支社	818,400	818,400		818,400	随契	7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 小計	68,200 68,200 68,200 204,600	庁舎機 械警 備	随契 1号 (少額)
10	一般廃棄物取 集運搬業務	有松岡商 事	290,400	290,400		290,400	随契	7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 小計	24,200 24,200 24,200 72,600	一般廃 棄物 運搬	随契 1号 (少額)
11	自家用電気工 作物保安管理 業務	杉山電気 管理事務 所 □□ □□	613,360	613,360		613,360	随契	7.4.1 ～ 8.3.31	7.4.25 7.6.30 7.6.30 小計	38,280 38,280 38,280 114,840	自家用 電気工 作物 保安 管理	随契 1号 (少額)
12	LAN及びネッ トワーク機器 等保守点検業 務	コミュニ ケーション システム 株	158,400	158,400		158,400	随契	7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.30	79,200	LAN及 びネ ット ワー ク機 器等 保守 点 検	随契 1号 (少額)
	頁 計		35,033,896	33,603,240	0	33,603,240				9,275,028		

委託料に関する調

(令和7年度)
(令和7年7月31日現在)

整理 番号	委託 業務名	受託者	当初 設計金額	契約金額			契約 締結 方法	契 約 期 間	支 出 年 月 日	金 額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変更 増減額	計						
13	構内電話交換 設備保守点検 業務	コミュニ ケーショ ンシス ト㈱	円 418,000	円 418,000	円	円 418,000	随契	7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.30	円 104,500	構内電話 交換設備 保守点検	随契 1号 (少額)
14	直流電源装置 等保守点検業 務	榊明電エ ンジニア リング静 岡支店	187,000	187,000		187,000	随契	7.4.1 ～ 8.3.31	7.6.27	187,000	直流電源 装置等保 守点検	随契 1号 (少額)
15	自動扉・排煙 トップライト 保守点検業務	ナプコス システム㈱ 沼津営業 所	206,800	206,800		206,800	随契	7.4.1 ～ 8.3.31			自動扉・ 排煙トッ プライト 保守点検	随契 1号 (少額)
16	自家発電設備 保守点検業務	静岡ビル サービス ㈱	2,409,000	2,409,000		2,409,000	一般	7.4.1 ～ 8.3.31			自家用発 電設備保 守点検	
17	消防用設備等 保守点検業務	能美防災 ㈱静岡支 社	741,400	499,400		499,400	随契	7.4.1 ～ 8.3.31			消防用設 備等保守 点検	随契 1号 (少額)
18	エネルギー分 散型X線分析 装置保守点検 業務	東海理機 ㈱	1,765,500	1,765,500		1,765,500	随契	7.4.25 ～ 8.3.31			エネル ギー分散 型X線分 析装置保 守点検	随契 1号 (少額)
19	恒温恒湿槽保 守点検業務	遠藤科学 ㈱三島営 業所	411,180	411,180		411,180	随契	7.7.31 ～ 8.3.31			恒温恒湿 槽保守点 検	随契 1号 (少額)
20	高速液体クロ マトグラフ点 検業務	協立電機 ㈱	396,000	396,000		396,000	随契	7.6.19 ～ 8.3.31			高速液体 クロマト グラフ点 検	随契 1号 (少額)
	頁 計		6,534,880	6,292,880	0	6,292,880				291,500		
	事務関係計	20件	41,568,776	39,896,120	0	39,896,120				9,566,528		
	合 計	20件	41,568,776	39,896,120	0	39,896,120				9,566,528		

負担金支出調

(令和 6 年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	サンフロント 21 懇話会 年会費	静岡新聞社・静岡 放送サンフロント 21 懇話会	会則	年会費	円 10,000	6. 4. 19
2	第 7 6 回日本生物工学会大 会	公益社団法人 日 本生物工学会	開催案内	学会	10,000	6. 5. 14
3	全国新酒鑑評会製造技術研 究会参加費	独立行政法人 酒 類総合研究所	開催案内	学会	4,611	6. 5. 24
4	醸造 WE B 講習受講料	公益財団法人 日 本醸造協会	開催案内	研修	22,000	6. 6. 16
5	清酒製造入門セミナー<実 習編>受講料	公益財団法人 日 本醸造協会	開催案内	研修	44,000	6. 7. 22
6	2024 年秋期 (第 175 回) 講 演大会参加料	公益社団法人 日 本金属学会	開催案内	学会	24,000	6. 8. 30
7	保護具着用管理責任者教育 受講料	沼津労働基準協会	開催案内	研修	14,300	6. 9. 25
8	三次元測定機を使った幾何 偏差の測定技術受講料	独立行政法人 高 齢・障害・求職者 雇用支援機構高度 訓練センター	開催案内	研修	26,000	6. 10. 2
9	保護具着用管理責任者実務 研修会受講料	三島労働基準協会	開催案内	研修	11,000	6. 11. 14
10	日本農芸化学会 2025 年度 札幌大会参加費	公益社団法人 日 本農芸化学会	開催案内	学会	24,000	7. 1. 20
	計	10 件			189,911	

負担金支出調

(令和 7 年度)
(令和 7 年 7 月 3 1 日現在)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	サンフロント 21 懇話会 年会費	静岡新聞社・静岡 放送サンフロント 21 懇話会	会則	年会費	円 10,000	7.4.30
2	全国新酒鑑評会製造技術研 究会参加費	独立行政法人 酒 類総合研究所	開催案内	学会	10,319	7.5.2
3	甲種防火管理新規講習会受 講料	一般社団法人 日 本防火・防災協会	開催案内	研修	8,000	7.5.2
4	能力開発セミナー<金属材 料の理論と実際>受講料	独立行政法人 高 齢・障害・求職者 雇用支援機構高度 訓練センター	開催案内	研修	24,000	7.6.19
5	保護具着用管理責任者実務 研修会受講料	三島労働基準協会	開催案内	研修	11,000	7.7.7
6	能力開発セミナー<有限要 素法理論理解のための材料 力学から有限要素法への展 開>受講料	独立行政法人 高 齢・障害・求職者 雇用支援機構高度 訓練センター	開催案内	研修	25,000	7.7.18
	計	6 件			88,319	

建 築 工

整理 番号	予算科目	工事名	工事箇所	当 初 設計金額	契 約 金	
					当 初 額	変更増減額
1	資産経営費	本館1階空調機械 室西側扉更新工事	沼津市大岡 地内	円 1,199,000	円 1,155,000	円
2	資産経営費	本館AHP-15室 外機修繕工事	沼津市大岡 地内	1,507,000	1,507,000	
参考	商工業費	防火倉庫新築ほか 工事	沼津市大岡 地内	7,634,000	7,370,000	627,000
参考	商工業費	受変電設備改修 工事	沼津市大岡 地内	22,055,000	21,670,000	726,000
		合 計	4 件	32,395,000	31,702,000	1,353,000
		(沼津工業技術支援 センター執行分)	2 件	2,706,000	2,662,000	
		(交通基盤部執行 再配当分)	2 件	29,689,000	29,040,000	1,353,000

事 調

(令和6年度)

額	契約 締結 方法	受注者	着手 完成(予定) 年月日	支出済額	工事概要	公有財 産台帳	摘 要
計							
円 1,155,000	随契	株式会社川村組	令和6年 9月18日 令和7年 1月6日	円 1,155,000	本館1階空 調機械室の 西側扉更新	—	令達 6.7.11 最終支払 7.1.31 随契一号 (少額)
1,507,000	随契	株式会社レイダ ン	令和6年 10月29日 令和7年 2月6日	1,507,000	AHP-15(電 子顕微鏡室 室外機)の オーバーホ ール修繕	—	令達 6.7.11 最終支払 7.3.3 随契一号 (少額)
7,997,000	指名	東工業株式会 社	令和6年 11月6日 令和7年 3月5日	7,997,000	防火シャ ッターの 危害防止 装置設置	—	令達 6.4.1 6.10.8 最終支払 7.4.9 沼津土木事務 所執行
22,396,000	指名	システムナオ株 式会社	令和6年 9月4日 令和7年 3月17日	22,396,000	低濃度PCB を含む受変 電設備の更 新	—	令達 6.4.1 最終支払 7.4.30 交通基盤部設 備課執行
33,055,000				33,055,000			
2,662,000				2,662,000			
30,393,000				30,393,000			

建 築 工

整理 番号	予 算 科 目	工 事 名	工 事 箇 所	当 初 設計金額	契 約 金	
					当 初 額	変更増減額
1	行政経営費	本館緊急ガス遮断 装置修繕工事	沼津市大岡 地内	円 418,000	円 418,000	円
2	行政経営費	本館雨水排水ポン プ更新工事	沼津市大岡 地内	605,000	605,000	220,000
		合 計	2 件	1,023,000	1,023,000	220,000

(令和7年度)

事 調

(令和7年7月31日現在)

額	契約 締結 方法	受注者	着手 完成(予定) 年月日	支出済額	工事概要	公有財 産台帳	摘 要
計							
円 418,000	随契	静岡ガス株式会社	令和7年 6月20日 (令和7年 9月30日)	円 0	緊急ガス遮 断装置リミ ットスイッ チ等のオー バーホール 修繕	—	令達 7.4.22 最終支払 随契一号 (少額)
825,000	随契	伸弘テクノ株式 会社	令和7年 6月18日 (令和7年 10月16日)	0	排水ポンプ 、チャッキ 弁、電極保 持器及び操 作盤内の電 磁開閉器等 の更新	—	令達 7.4.22 最終支払 随契一号 (少額)
1,243,000				0			

公 有 財 産 調

(令和 6 年度)

(令和 7 年 3 月 31 日現在)

区 分	6 年 3 月 31 日 現 在		増		減		7 年 3 月 31 日 現 在		摘要
	数量又は 面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又は 面積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 1,861,465		千円		千円		千円	
土地	m ² 19,739.01	1,035,283	m ²		m ²		m ² 19,739.01	1,035,283	
立木竹	本 187	12,800	本		本 3	54	本 184	12,746	枯損
建物	m ² 3,891.67 6,218.44	812,533	m ²		m ²	55,916	m ² 3,891.67 6,218.44	756,617	
工作物	個 172	849	個		個	849	個 172	0	
普通財産		0						0	
特許権等	件 2	0	件		件		件 2	0	
公有財産に準ずるもの		557						557	
電話加入権	件 8	557	件		件		件 8	557	
上記の財産に属さないもの		0						0	
準特許権等	件 0	0	件		件		件 0	0	

「令和 7 年度中増減なし」

借 地 借 家 等 調

(令和 7 年 7 月 31 日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又 は面積	借 料		契 約 期 間	所有者又 は契約者 氏名	用途
				台 帳	現 況		単価	年額			
1	土地	道路 敷地	沼津市 大岡地先	公衆用 道 路	公衆用 道 路	m ² 3.40	円	円 免除	5.4.1 ～ 10.3.31	国土交通省中 部地方整備局 長	案 内 標 識
2	土地	河川 敷地	沼津市 大岡谷津 地先	その他 河 川	その他 河 川	203.12		免除	2.4.1 ～ 12.3.31	河川管理者 沼津市長	道路橋 等敷地
	計					206.52					

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和7年度)

(令和7年7月31日現在)

区 分	事業名又は契約名	内 容	契約額	(契約額の年度別内訳)					
				2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
長期継続 契約	電子複写機賃貸借契約	電子複写機の賃貸借 (契約日) 2年4月1日	571,230	円 114,246	円 114,246	円 114,246	円 114,246	円 114,246	円
長期継続 契約	自動体外式除細動器 (AED) 賃貸借契約	AEDの賃貸借 (契約日) 6年4月1日	310,200	円	円	円	円	円 62,040	円 62,040
長期継続 契約	電子複写機賃貸借契約	電子複写機の賃貸借 (契約日) 7年4月1日	948,420	円	円	円	円	円	円 189,684

行政財産貸付・使用許可調

(令和 7 年 7 月 31 日現在)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	貸付料又は使用料		貸付又は使用許可期間	貸付又は使用許可を受けた者の氏名	貸付・使用許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	敷地	沼津市大岡字子ノ神 3981-1	宅地	同左	157.95 m ²	円	円	5.4.1 ～ 8.3.31	静岡県計量検定所長	タクシメーター装置検査所
2	土地	敷地	沼津市大岡字子ノ神 3981-1	宅地	同左	本柱 1 本 支線 1 条 地下埋設管	1,500 1,500 680	3,680	7.4.1 ～ 12.3.31	東京電力パワースタリッド(株)静岡総支社長	電力供給
3	土地	敷地	沼津市大岡字子ノ神 3979-1	宅地	同左	264.20 m ²		免除	7.4.1 ～ 8.3.31	静岡県危機管理部原子力安全対策課長	検査資材保管倉庫設置
4	建物	工場建	沼津市岡一色字子ノ神 725-1	重量鉄骨造トタン葺	同左	9.18 m ²		免除	7.4.1 ～ 8.3.31	東京電力パワースタリッド(株)静岡総支社長	沼津インキュベーションセンターの電力供給
	計							3,680			

備 品・図 書 調

(令和 6 年度)

区 分	令和 6 年 3 月 31 日 現 在	増		減		令和 7 年 3 月 31 日 現 在
	数 量	数量	購入価格	数量	売却価格	数 量
01-01 机類	2	(0) 0	円 0	(0) 0	円 0	2
01-02 台類	95	(0) 0	0	(0) 0	0	95
01-03 いす類	3	(0) 0	0	(9) 9	0	3
01-04 収納保管庫類	31	(0) 0	0	(0) 0	0	31
01-10 印判類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
01-99 その他の庁用器具類	9	(0) 0	0	(0) 0	0	9
02-01 情報処理機器類	28	(0) 2	451,000	(0) 2	0	28
02-02 情報伝達機器類	6	(0) 0	0	(0) 0	0	6
02-03 再生機器類	8	(0) 1	0	(0) 1	0	8
03-01 撮影機器類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
03-02 観察・観測用光学機器類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
03-03 視覚用再生等機器類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
04-06 獣医用機器類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
05-01 強度(物性)試験計測機器類	14	(0) 0	0	(0) 0	0	14
05-02 波動・熱試験計測機器類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
05-03 電気試験計測機器類	18	(0) 0	0	(0) 6	0	12
05-04 分析化学機器類	58	(0) 0	0	(0) 2	0	56
05-05 生物化学機器類	8	(0) 0	0	(0) 0	0	8
05-06 環境化学機器類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
05-07 測量機器類	8	(0) 0	0	(0) 0	0	8

備 品・図 書 調

(令和 6 年度)

区 分	令和 6 年 3 月 31 日 現 在	増		減		令和 7 年 3 月 31 日 現 在
	数 量	数量	購入価格	数量	売却価格	数 量
05-08 度量衡測定機器類	8	(0) 0	0	(0) 0	0	8
05-99 その他の試験計測機器類	69	(0) 1	1,306,250	(0) 1	0	70
06-02 金属加工用機器類	7	(0) 0	0	(0) 2	0	5
06-04 電気電子機器類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
06-99 その他の諸機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
07-01 農産用機器類	8	(0) 0	0	(0) 0	0	8
08-01 車両類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
計	413	(0) 4	1,757,250	(0) 13	0	404

備 品・図 書 調

(令和 7 年度)

区 分	令和 7 年 3 月 31 日 現 在	増		減		令和 7 年 7 月 31 日 現 在
	数 量	数量	購入価格	数量	売却価格	数 量
01-01 机類	2	(0) 0	円 0	(0) 0	円 0	2
01-02 台類	95	(0) 0	0	(0) 0	0	95
01-03 いす類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
01-04 収納保管庫類	31	(0) 0	0	(0) 0	0	31
01-10 印判類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
01-99 その他の庁用器具類	9	(0) 0	0	(0) 0	0	9
02-01 情報処理機器類	28	(0) 0	0	(0) 0	0	28
02-02 情報伝達機器類	6	(0) 0	0	(0) 0	0	6
02-03 再生機器類	8	(0) 0	0	(0) 0	0	8
03-01 撮影機器類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
03-02 観察・観測用光学機器類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
03-03 視覚用再生等機器類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
04-06 獣医用機器類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
05-01 強度(物性)試験計測機器類	14	(0) 0	0	(0) 0	0	14
05-02 波動・熱試験計測機器類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
05-03 電気試験計測機器類	12	(0) 0	0	(0) 0	0	12
05-04 分析化学機器類	56	(0) 0	0	(0) 0	0	56
05-05 生物化学機器類	8	(0) 0	0	(0) 0	0	8
05-06 環境化学機器類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
05-07 測量機器類	8	(0) 0	0	(0) 0	0	8

備 品・図 書 調

(令和 7 年度)

区 分	令和 7 年 3 月 31 日 現 在	増		減		令和 7 年 7 月 31 日 現 在
	数 量	数量	購入価格	数量	売却価格	数 量
05-08 度量衡測定機器類	8	(0) 0	0	(0) 0	0	8
05-99 その他の試験計測機器類	70	(0) 0	0	(0) 0	0	70
06-02 金属加工用機器類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
06-04 電気電子機器類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
06-99 その他の諸機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
07-01 農産用機器類	8	(0) 0	0	(0) 0	0	8
08-01 車両類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
計	404	(0) 0	0	(0) 0	0	404

主 要 備 品 調

(令和 7 年 7 月 31 日現在)

整理 番号	区 分		品名・規格	利 用 状 況	購入 年月	購入金額
	大・ 中	小				
1	5-7	距離・長さ測量機器	三次元測定機	各種部品の三次元寸法の測定 年 40 日	H2. 3	円 69,010,000
2	5-4	X線分析機器	エネルギー分散型X線分析装置 (SEM)	各種部品・材料等の拡大観察及び元素分析 年 140 日	R6. 3	50,270,000
3	5-7	距離・長さ測量機器	三次元測定機用回転テーブル及びデータ処理装置	回転体の三次元寸法の測定 年 40 日	H12. 2	35,700,000
4	5-2	発振器	振動試験機	振動に対する信頼性の試験 年 120 日	R2. 12	31,449,000
5	7-1	加工用機器	製麴・発酵装置 サーマルタンク	機能性酵母開発 年 60 日	H5. 3	22,639,400
6	5-4	培養機器	ジャーファメンター	微生物の培養 年 0 日	H2. 3	22,134,700
7	5-1	引張機器	精密万能試験機	材料の強度試験 年 100 日	R2. 1	19,140,000
8	5-1	強度試験・計測機器	その他の強度試験・計測機器 (電気油圧式疲労試験機)	材料の耐久性試験 年 6 日	H9. 11	18,000,000
9	5-2	発振器	水平/垂直切替式複合環境振動試験装置	振動に対する信頼性の試験 年 80 日	H17. 12	17,770,000
10	5-7	その他の測量機器	真円度測定機	真円度・円筒度・同軸度の測定 年 26 日 故障中	H13. 11	11,760,000
11	3-2	顕微鏡	金属組織観察システム一式	顕微試料の作製及び観察 年 70 日	H30. 10	9,990,000
12	5-1	引張機器	万能材料試験機	材料の強度試験 年 24 日	H2. 3	9,527,500
13	5-1	強度試験・計測機器	塩水噴霧 (複合サイクル) 試験機	塩水噴霧・乾燥・湿潤サイクルによる腐食耐久性試験 年 12 日	R5. 3	9,295,000
14	5-7	その他の測量機器	実験モールド解析システム	固有周波数・モード解析 年 10 日 故障中	H14. 9	8,820,000
15	2-1	その他の情報処理機器	熱画像計測装置	物体表面の温度測定 年 5 日	H10. 11	8,750,250
16	2-1	パーソナルコンピュータ式	総合加工シミュレータ装置一式	各種機械加工工程の解析 年 6 日	H30. 9	8,532,000
17	5-4	その他の分析化学機器	フーリエ変換赤外分光分析装置用	有機材料の定性分析 年 3 日 故障中	H9. 9	7,990,500
18	5-4	その他の分析化学機器	フーリエ変換赤外分光分析装置	有機材料の定性分析 年 10 日 故障中	H9. 2	7,780,000
19	5-4	クロマトグラフ	高速液体クロマトグラフ	化学成分の定性及び定量分析 年 70 日	H16. 8	7,140,000
20	5-4	その他の分析化学機器	ヘッドスペースGC-MS	香気成分の定性分析 年 10 日	H28. 10	6,912,000

生産物受払調

(令和 7 年 7 月 31 日現在)

品名 (単位)		微生物株HD-1 (本)				微生物株HD-101 (本)				微生物株New-5 (本)				微生物株SY-103 (本)				
		5年度 a	6年度 b	監査調 書作成 日現在	差 b-a	5年度 a	6年度 b	監査調 書作成 日現在	差 b-a	5年度 a	6年度 b	監査調 書作成 日現在	差 b-a	5年度 a	6年度 b	監査調 書作成 日現在	差 b-a	
区分																		
生産母体単位 (ア)		-				-				-				-				
受 高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高 (イ)	31	26	0	△5	22	23	0	1	39	61	3	22	3	3	0	0	
	計	31	26	0	△5	22	23	0	1	39	61	3	22	3	3	0	0	
単位数量 (イ/ア)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
同前年比 (%) (b-a) / a × 100		△16.1				4.5				56.4				0				
払 高	売払数量	31	26	0	△5	22	23	0	1	39	61	3	22	3	3	0	0	
	売払金額	99,510	93,340	0		70,620	82,570	0	0	125,190	218,990	10,770	93,800	9,630	10,770	0	1,140	
	非売品 数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	31	26	0	△5	22	23	0	1	39	61	3	22	3	3	0	0	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摘 要																		

品名 (単位)		微生物株5MF-14 (本)				微生物株CA-50 (本)				微生物株NO-2 (本)				微生物株KA-2541 (本)				
		5年度 a	6年度 b	監査調 書作成 日現在	差 b-a	5年度 a	6年度 b	監査調 書作成 日現在	差 b-a	5年度 a	6年度 b	監査調 書作成 日現在	差 b-a	5年度 a	6年度 b	監査調 書作成 日現在	差 b-a	
区分		—				—				—				—				
生産母体単位 (ア)		—				—				—				—				
受 高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	本年度生産高 (イ)	1	1	0	0	4	3	1	△1	13	16	0	3	2	3	0	1	
	計	1	1	0	0	4	3	1	△1	13	16	0	3	2	3	0	1	
単位数量 (イ/ア)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
同前年比 (%) (b-a) / a × 100		/				/				/				/				
払 高	売 払 数 量	1	1	0	0	4	3	0	△1	13	16	0	3	2	3	0	1	
	売 払 金 額	3,210	3,590	0	380	12,840	10,770	0	△2,070	41,730	57,440	0	15,710	6,420	10,770	0	4,350	
	非売品 数 量	分 類 換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		管 理 換 そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	1	1	0	0	4	3	0	△1	13	16	0	3	2	3	0	1	
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
摘 要																		

品名 (単位)		微生物株NMZ-0005 (本)				微生物株NMZ-1112 (本)				微生物株NMZ-0721 (本)				微生物株NMZ-0702 (本)			
		5年度 a	6年度 b	監査調 書作成 日現在	差 b-a	5年度 a	6年度 b	監査調 書作成 日現在	差 b-a	5年度 a	6年度 b	監査調 書作成 日現在	差 b-a	5年度 a	6年度 b	監査調 書作成 日現在	差 b-a
生産母体単位 (ア)		—				—				—				—			
受 高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	本年度生産高 (イ)	1	0	0	△1	1	1	0	0	1	1	0	0	2	0	0	△2
	計	1	0	0	△1	1	1	0	0	1	1	0	0	2	0	0	△2
単位数量 (イ/ア)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同前年比 (%) (b-a) / a × 100		/				/				/				/			
払 高	売 払 数 量	1	0	0	△1	1	1	0	0	1	1	0	0	2	0	0	△2
	売 払 金 額	3,120	0	0	△3,120	3,120	3,570	0	450	3,120	3,570	450	0	6,240	0	0	△6,240
	非売品 数量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	分類換 管理換 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		1	0	0	△1	1	1	0	0	1	1	0	0	2	0	0	△2
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
摘 要																	

品名 (単位)		計				
		5年度 a	6年度 b	監査調 書作成 日現在	差 b-a	
区分						
生産母体単位 (ア)		—				
受 高	前年度繰越高	0	0	0	0	
	本年度生産高 (イ)	120	138	4	18	
	計	120	138	4	18	
単位数量 (イ/ア)		—	—	—	—	
同前年比 (%) (b-a) / a × 100		/			15.0	
払 高	売 払 数 量	120	138	4	18	
	売 払 金 額	384,750	495,380	14,360	110,630	
	非売品 数 量	分 類 換	0	0	0	0
		管 理 換	0	0	0	0
		そ の 他	0	0	0	0
計	120	138	4	18		
残高又は繰越数量		0	0	0	0	
摘 要						

第3 試験研究成果一覧表

【研究所全体】

令和6年度 試験研究成果一覧表

(令和7年3月31日現在)

工業技術研究所

区分 事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費		備 考
									前年度まで 前年度	(全体) 本年度	
新成長戦略研究	設備、モノ、ヒトの統合的データ分析による生産性の効率化	継続	単独	R4 ～ R6	生産機器の稼働状況の見える化へのIoT技術の導入の次のステップとして、ヒトやモノの動きを追加して生産計画への適用を図り、工場全体の効率化を図る。	中小企業版デジタルツインのモデル企業に対しシステムを構築し、設備のレイアウト変更や生産工程の事前シミュレーションを可能にした。この要素技術の横展開により関連企業や他分野へシステムの開発・実装を行った。	モデル企業で開発したデジタルツインのノウハウを活用し、複数企業への横展開を行った。また、展示会の出展、セミナー・学会等の発表による普及活動を行った。		千円		
新成長戦略研究	未利用茶葉等の多用途加工技術の開発	新規	単独	R6 ～ R8	二番茶以降の茶葉や、荒茶工場から廃棄される加工残さの茶渋など、未利用茶葉の有効活用と、輸出に向けた加工技術を開発することにより、茶生産者等の収益向上と関連産業の活性化を図る。	次亜塩素酸水等による除菌洗浄を施した生茶葉について、微生物検査を行い、その効果について検証した。また、茶業研究センターと協力して、茶の機能性及び香味成分を保持する製法技術開発に取り組んだ。	次亜塩素酸水による除菌洗浄条件について最適化され、実際の現場で活用される予定。また、茶の機能性・香味成分保持製造技術により商品を開発予定。		千円 2,458		農林技術研究所 茶業研究センター 農林技術研究所 (本所)
新成長戦略研究 (チャレンジ 研究枠)	静岡県の海藻を用いた免疫バランスを制御する食品成分の探索	新規	単独	R6	静岡県で採られる海藻から抗アレルギー作用を持つものを細胞試験等によって探索することにより、未利用海藻の利用促進や健康増進政策への貢献を図る。	海藻サンプル8種類を評価し、抗アレルギー作用が期待できるTh1細胞活性化作用が強い海藻としてマクサおよびマタボウを見出し、作用メカニズムまで明らかにした。	今後企業と連携し、健康食品や化粧品としての実用化を目指していく。		千円 1,190		

新成長戦略研究 (政策課題指定枠)	しずおか木製家具復興のための県産広葉樹活用技術の開発	新規	単独	R6 ~ R7	しずおか家具の復興を目指し、DXによる強度シミュレーションと、5軸マシニングによる自由曲面で構成された脚物家具の設計・製造プロセスを確立する。	静岡県産広葉樹に対する材料試験を実施し、木材の破壊基準を構築した。また、構築した破壊基準をCAEシステムに実装し、家具の強度評価が実施できることを示した。	本研究で得られるDX技術によるしずおか家具の設計・製造プロセスを公開し、県内「脚物」家具産業の出荷額向上につなげる。	—	千円 (4,000) 2,500	
県単独研究 (競争的資金による研究) 科研費	セルロースナノファイバーによる香り成分の徐放機構の解明及び放散制御技術の開発	継続	単独	R2 ~ R6	CNFによる香りの徐放機構解明と、放散機構を明らかにすることで、香りの放散制御技術を確立する。	香り成分の種類により放散挙動が異なることが示唆された。CNFの繊維長による香りの放散機構は、CNFによる三次元ネットワークが関与していることが示唆された。	県産の香りを活用した製品や徐放性の技術を提案し、県内外に発信することで、研究成果の普及を図る	千円 (4,290) 1,348	千円 (5,590) 1,300	
県単独研究	半溶融成形法の高度化技術開発	継続	単独	R5 ~ R6	半溶融成形法の応用研究において、1) ビレットの低コスト化を目的とした矩形・異形スラブ開発、2) 成形性を高めた高流動性合金の開発を行う。これによって、本工法の適用拡大を狙う。	鑄造条件を最適化することで、半溶融成形法に適した矩形及び異形スラブを製造することができた。Si含有量を10%まで高めることで、流動性及び成形性を高めた合金組成を得ることができた。	本開発技術を用いた応用技術開発及び製品開発技術について県内企業と共同開発を行ない、県内ものづくり技術の発展に寄与する。	—	—	
県単独研究	音声認識技術を用いた自動車室内音環境の評価に関する研究	継続	単独	R5 ~ R7	自動車内装は、電動化で大きく変わった自動車室内音に対して、これまで以上に重要となっている。そこで、車室内の音場を音声認識技術を用いて数値化し、自動車内装が車室内の音場に及ぼす影響を評価する。	公開されている音場データベースを使用して様々な室内音場での音声データを仮想的に作成し、初年度に構築した音声認識システムで室内音場の評価システムを構築した。	来年度以降、企業との受託研究にて自動車内装等の開発に活用していく。	—	—	
県単独研究 (競争的資金による研究) 科研費	高結晶カーボン活性炭への白金埋込による高耐久性燃料電池触媒の開発	継続	単独	R5 ~ R7	固体高分子形燃料電池は次世代エネルギー源として普及が期待されているが、電極触媒の耐久性向上が課題である。本研究では、活性炭のメソ細孔への白金埋込みと触媒を用いた黒鉛結晶化により、耐久性向上を目指す。	水蒸気賦活によるカーボン活性炭の細孔形成とNiを用いた黒鉛結晶化を複合化して新規炭素材料を創製した。白金ナノ粒子を担持させ燃料電池触媒へと加工した。	開発した触媒を用いた燃料電池を作製し、初期性能及び耐久性性能を評価していく。	千円 (3,900) 1,430	千円 (4,550) 1,100	

富士工業技術支援センター

区分 事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費		備 考
									前年度 前年度	(全体) 本年度	
県単独研究	AIを活用した古紙原料の半別りに関する研究	継続	単独	R5 ～ R6	再生紙工場では、どのような古紙原料が不明なために損紙が発生するなどの課題がある。国や県で推進するDXの一環として、AIを活用して古紙原料を半別りする技術を開発し、再生紙工場の効率化を目的とする。	光学測定データから機械学習によって、布片を繊維別り、紙片を古紙銘柄別りやUVインキ印刷物と油性インキ印刷物と紙で半別りできた。市販ハイパースペクトルカメラと機械学習によって、同様に半別りすることができた。	協力会社に研究結果を報告し、協力会社を通じて普及に努めている。また、研究発表会、富土地域の紙関連研究会、学会のシンポジウムにて口頭発表し、紙の業界誌へ投稿（2件）するなどして普及を図っている。		—	—	
県単独研究	古紙処理工程における効果の高い低密度化手法の追究	新規	単独	R6 ～ R7	一般的な「古紙処理工程」に注目し、各古紙処理工程の低密度化阻害要因と促進要因を把握し、実際の県内製紙工場の古紙処理工程における低密度な紙の製造に貢献可能な技術開発を行う。	原料古紙毎に加温処理による低密度化の傾向は大きく異なり、原料適合により低密度化の効果が大きく変わること、及び、加温処理により低密度化する紙は、加温により曲がりやすい繊維が多い原料であることが分かった。	紙の低密度化するメカニズムを解明し、研究協力機関である東京農工大学と連名で学術誌への投稿を目指して実験を行っている。		—	—	
県単独研究	廃棄衣料の古紙代替利用に関する研究	新規	単独	R6 ～ R7	デジタル化や広告媒体の切替などで紙の使用量が激減し、トイレットペーパーなどに使う古紙は、今後、不足すると予測されている。本研究では、不足する古紙の代替として、廃棄衣料を利用することを目的とする。	廃棄衣料を古紙代替として利用するため、解繊条件を検討した。種々条件でリファイナーを用いた湿式解繊を行い、古紙パルプに近い性状を有する繊維を解繊できる手法を確立した。	廃棄衣料を古紙原料の代わりに利用する際の手法を技術指導、紙・パルプ業界誌などを通して普及する。		—	—	
一般共同研究	リファイナーを用いた低コストCNF製造技術の開発	継続	共同	R4 ～ R6	新型リファイナーのCNF製造向け専用刃物の改良など最適運転条件の確認を行い、より低コストのCNF製造方法の開発を目指す。また、サンプル提供を行い、リファイナーCNFの普及をはかる。	□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□		千円 (3,900) 780	千円 (3,900) 0	□□□□□

する。

区分 事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費		備 考
									前年度まで 前年度	(全体) 本年度	
新成長戦略各研究	金属3Dプリンタを活用したものづくり支援のための積層造形技術開発	継続	共同	R5 ～ R7	製造現場では開発期間短縮や軽量化等の解決のため、その解決に金属3Dプリンタの使用が期待されているが、金属粉末材料が高額なことや物性・造形精度など様々な課題があり普及が進んでいない。	□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□	□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□		千円 (5,000) 5,000	千円 (34,976) 15,500	□□□□□□ □□□□□□ □□□□□□ □□□□□□ □□□□
県単独研究	熱可塑性炭素繊維強化複合材料(CFRTP)の循環利用	継続	単独	R5 ～ R6	軽量化技術は、成長産業における共通の重要課題である。熱可塑性炭素繊維強化複合材料(CFRTP)は軽量高強度材料であるが、製造時のエネルギー負荷が大きく、マテリアルリサイクルのための技術開発を進める。	破砕によるリサイクルでは、炭素繊維の繊維長が短くなって強度低下が著しい。トランスファー成形機を使用して炭素繊維の短繊維化を防ぐことで、強度低下を防ぐことができた。	浜松地域FRP事業化研究会と協力して、展示会に出展することで研究成果を広く普及させる。		—	—	
県単独研究	コミュニケーションライティング技術の社会実装に向けた製品化支援—光学設計技術による照明性能を向上させる手法の開発—	新規	単独	R6 ～ R7	光を通すだけで図形を投影できる光学素子「マイクロプリズムアレイ」は、投影面積が大きい場合に明るさと解像度が低下する課題がある。本研究では複数の光源を用いてこの課題を改善させる方法について検討する。	複数の光源とマイクロプリズムアレイによる投影像を光学シミュレーションと実験結果と比較することにより、コンピュータ上で、投影像が予測できるようにした。	県内照明機器メーカーに対して同社の図形投影装置の視認性を向上させるマイクロプリズムアレイの設計・試作を行い、新製品開発を支援した。		—	—	
県単独研究	自動車用大型樹脂部品の熱変形シミュレーション手法の開発	新規	単独	R6 ～ R7	自動車への導入が進む樹脂部品は、複雑な熱変形挙動を示す。本研究では、CAE(シミュレーション)による樹脂部品の熱変形予測精度の向上のため、モデルの最適化及び変形の測定機能の改良を行う。	クリープを考慮した樹脂熱変形シミュレーションを構築した。また、恒温槽内における非接触熱変形測定精度の検証法を開発し、測定誤差を得た。非接触熱変形測定技術の相談等に利用された(R6相談件数21件)。	3DスキャナやCAE関連の技術相談、研究会及びセミナー・ワークショップ等での普及活動を行う。また、得られた物性データを公開する計画である。		—	—	

県単独研究	材料特性データに基づく高張力鋼（ハイテン）板の成形工程削減	新規	単独	R6 ～ R7	自動車軽量化のためハイテン板が増えているが、形状戻り等の問題で金型修正増加が課題である。シミュレーションによる金型形状検証が必須のためハイテン板の物性データを取得し、金型修正工程削減を目標とした。	4種のハイテン板の物性データを取得し、プレス・金型企業1社の協力で4種のCAEソフトによるシミュレーションを実施し、金型形状検証を行った。検証結果は各企業で共有し最適化を進めている。	取得した物性データはプレス・金型企業と共有し、プレス加工や金型製作への適用を進めている	—	—	
県単独研究 (競争的資金による研究) 科研費	生分解性樹脂PHAとPCLの混合樹脂からなる繊維における生分解抑制要因の解明	新規	単独	R6 ～ R8	海洋生分解性樹脂PHAとPCLを混合して繊維に成形すると海水中での耐久性が向上するが、その機構は明らかでない。酵素や微生物を用いた繊維の分解試験や分解形態の比較から、分解を抑制する因子を推定する。	PHAとPCLの混合樹脂からなる糸について酵素分解試験を行い、分解反応が抑制されることを確認した。糸の側断面観察から、PHA成分とPCL成分はそれぞれが微細な繊維束を形成していることが明らかになった。	繊維学会秋季研究発表会（11月）にてポスター発表1件と口頭発表1件、東海支部若手繊維研究会（12月）にて口頭発表1件、高分子学会エコマテリアルシンポジウム（3月）にてポスター発表1件を行った。	—	千円 (4,680) 2,600	
一般共同研究	簡易的な電波到来方向推定システムの開発	継続	共同	R5 ～ R6	電波到来方向推定機器として、2つの固定したアンテナで推定範囲を180°以下にして小規模・低コストでの作製を見込み、簡易的に推定するシステムを開発する。	□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□	—	—	□□□□□□□□ □□□□□□
一般共同研究	加飾性を有するセルロースファイラー複合熱可塑性樹脂の開発	新規	共同	R6 ～ R8	□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□セルロースファイラーを複合することで加飾性を有する熱可塑性樹脂材料を開発する。	□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□	—	—	□□□□□□□□
一般共同研究	自動車シート用PET繊維の水平リサイクルの実現	新規	共同	R6	PET糸からなる基布端材の有効活用に向け、基布端材を紡糸装置に投入可能であるペレット形状に加工し、同程度の性能を示す糸に再成形するために必要な技術を確認する。	□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□	—	—	□□□□□□□□

「廃止」は、その前年度において終了、廃止したものとする。

- 3 継続及び新規の研究の成果、成果の活用、普及等の状況については、調書調製日現在での成果又は記載される成果及びその活用等を「研究成果」欄、「研究成果の活用及び普及」欄にそれぞれ記載する。
- 4 廃止の研究テーマは、その理由を「研究成果」欄に記載する。
- 5 国庫補助事業及び国の委託事業を「国庫」とし、民間等の委託による研究を「受託」とする。
- 6 試験研究機関が単独で行う研究を「単独」、他の研究機関等と共同で行う研究を「共同」とする。後者の場合は、備考欄に共同研究相手名を記載する。

令和7年度 試験研究成果一覧表

(令和7年7月31日現在)

工業技術研究所

区分 事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費		備 考
									前年度まで 前年度	(全体) 本年度	
新成長戦略研究	未利用茶葉等の多用途加工技術の開発	継続	単独	R6 ～ R8	二番茶以降の茶葉や、荒茶工場から廃棄される加工残さの茶渋など、未利用茶葉の有効活用と、輸出に向けた加工技術を開発することにより、茶生産者等の収益向上と関連産業の活性化を図る。	次亜塩素酸水等による除菌洗浄を施した生茶葉について、微生物検査を行い、その効果について検証した。また、茶業研究センターと協力して、茶の機能性及び香味成分を保持する製造技術開発に取り組んだ。	次亜塩素酸水による除菌洗浄条件について最適化され、実際の現場で活用される予定。また、茶の機能性・香味成分保持製造技術により商品を開発予定。		千円 (2,458) 2,458	千円 515	
新成長戦略研究 (政策課題指定枠)	しずおか木製家具復興のための県産広葉樹活用技術の開発	継続	単独	R6 ～ R7	しずおか家具の復興を目指し、DXによる強度シミュレーションと、5軸マシニングによる自由曲面で構成された脚物家具の設計・製造プロセスを確立する。	これまでに、県産広葉樹の材料試験結果に基づいた木材の破壊基準を構築し、CAEシステムに実装することで家具の強度評価が実施できることを示した。今年度は、県産広葉樹による脚物家具の設計製造を実施中。	本研究で得られるDX技術によるしずおか家具の設計・製造プロセスを公開し、県内「脚物」家具産業の出荷額向上につなげる。		千円 (2,500) 2,500	千円 (4,000) 1,500	
新成長戦略研究	次世代輸送用機器部品の脱炭素化に貢献するアルミ成形加工技術の開発	新規	単独	R7 ～ R9	アルミ鋳造企業では、カーボンニュートラルへの取組が重要な社会問題として提議されている。工技研は、脱炭素化に寄与する工法として半溶融成形法を提案し、基礎から試作開発を行い、県内企業への普及の礎にする。	半溶融成形法のキーポイントとなるビレットの製造技術開発を行い、直径75mm(重量1.5kg)までのビレットの製造条件を量産レベルで見極めることができた。	県内アルミ関連企業を中心にワーキンググループを募集し、研究成果の報告と市場ニーズの情報交換を行い、研究の精度を高めつつ、技術普及に努める。		—	千円 (50,000) 18,266	

受託研究 (競争的資金以外 の研究)	令和7年静岡県清 酒鑑評会出品酒に 関する品質調査及 び品質向上に向け た新規静岡酵母の 選抜	新規	受託	R7	□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□		—	千円 310	静岡県酒造組合
--------------------------	--	----	----	----	--	--	--	--	---	-----------	---------

- (注)1 本表は試験研究機関において調製する。
- 2 研究テーマは事業ごとにまとめ、終了、継続、新規、廃止の順に記載すること。「継続」・「新規」の判別は監査年度を基準とし、「終了」・「廃止」は、その前年度において終了、廃止したものとする。
- 3 継続及び新規の研究の成果、成果の活用、普及等の状況については、調書調製日現在での成果又は記載される成果及びその活用等を「研究成果」欄、「研究成果の活用及び普及」欄にそれぞれ記載する。
- 4 廃止の研究テーマは、その理由を「研究成果」欄に記載する。
- 5 国庫補助事業及び国の委託事業を「国庫」とし、民間等の委託による研究を「受託」とする。
- 6 試験研究機関が単独で行う研究を「単独」、他の研究機関等と共同で行う研究を「共同」とする。後者の場合は、備考欄に共同研究相手名を記載する。

富士工業技術支援センター

区分 事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費		備 考
									前年度まで 前年度	(全体) 本年度	
県単独研究	廃棄衣料の古紙代替 利用に関する研究	継続	単独	R6 ～ R7	デジタル化や広告媒体の切替などで紙の使用量が激減し、トイレットペーパーなどに使う古紙は、今後、不足すると予測されている。本研究では、不足する古紙の代替として、廃棄衣料を利用することを目的とする。	廃棄衣料を古紙代替として利用するための解繊条件を確立した。解繊した衣料を古紙パルプに混合して作製した手抄き紙の物性を確認し、古紙パルプ100%の製品と同等の性能を有することを確認した。	廃棄衣料を古紙原料の代わりに利用する際の手法を技術指導、紙・パルプ業界誌などを通して普及する。		—	—	
県単独研究(競争的資金による 研究) 科研費	説明可能なAIを用いた牛群中での乳牛の序列を決定する要素の解明	継続	共同	R6 ～ R8	酪農において、個体管理が難しい群養育環境の乳牛について、画像及び生体データを用いて個体ごとの序列を判定する深層学習モデルを作成し、説明可能なAIで解析することで、序列決定に必要な特徴量を解明する。	□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□		千円 (850) 850	千円 350	畜産技術研究所 日本工業大学
県単独研究	パルプ繊維の水中形態変化に着目した紙の低密度化現象の解明	新規	単独	R7 ～ R9	パルプ繊維を加温処理することで、これから作製した紙が低密度化することを当所研究員が発見した。この際のパルプ繊維の変形挙動と紙の低密度化の間の因果関係を学術的観点から明らかにする。	現在長時間加温処理した際のパルプ繊維の変形挙動観察を行うため、観察装置の作製を行っている。	得られた結果について、学術的な論文投稿や学会発表を行い成果を普及する。なお、本課題に関連した昨年度の研究成果を第68回・2025年紙パルプ技術協会静岡年次大会にて発表を行う。		—	千円 150	
県単独研究	AIを活用した再生紙の白色度の予測に関する研究	新規	単独	R7 ～ R8	再生紙工場では原料古紙品質に因らず一定の製品品質が要求される。DX推進の一環として、AIで古紙原料・古紙処理条件等から再生紙の白色度を予測する技術を開発し、古紙処理処方を最適化することを目的とする。	再生紙工場の協力を得て、操業データからの予測モデル作成を目標に、原料や古紙処理条件、センサーデータ、製品の光学データ等を取得・収集し、作成したデータセットでの機械学習による予測が可能か調査中である。	AIを活用して、古紙処理工程からデジタルデータを収集することで、製品の白色度を予測する方法を明らかにして、再生紙工場の古紙処理最適化・効率化のための提案に繋げる。		—	—	

区分 事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費		備 考
									前年度まで 前年度	(全体) 本年度	
新成長戦略研究	金属3Dプリンタを活用したものづくり支援のための積層造形技術開発	継続	共同	R5 ～ R7	製造現場では開発期間短縮や軽量化等の解決のため、その手段の1つとして金属3Dプリンタの使用が期待されているが、金属粉末材料が高額なことや物性・造形精度など様々な課題があり普及が進んでいない。	□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□	□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□		千円 (20,500) 15,500	千円 (34,976) 14,476	□□□□□□□□ □□□□□□□□ □□□□□□□□ □□□□□□□□ □□□□□□□□
県単独研究	コミュニケーションライティング技術の社会実装に向けた製品化支援—光学設計技術による照明性能を向上させる手法の開発—	継続	単独	R6 ～ R7	光を通すだけで図形を投影できる光学素子「マイクロプリズムアレイ」は、投影面積が大きい場合に明るさと解像度が低下する課題がある。本研究では複数の光源を用いてこの課題を改善させる方法について検討する。	多灯化MPAで投影される複数のV字形状の像の品質を評価するため、それらの像の類似度を定量的に求める手法を、画像処理技術を用いて構築した。	光学シミュレーション技術を活用し、県内の傷検査装置や医療機器検査装置の高性能化に向けた開発を支援した。	—	—		
県単独研究	自動車用大型樹脂部品の熱変形シミュレーション手法の開発	継続	単独	R6 ～ R7	自動車への導入が進む樹脂部品は、複雑な熱変形挙動を示す。本研究では、CAE(シミュレーション)による樹脂部品の熱変形予測精度の向上のため、モデルの最適化及び熱変形測定機能の改良を行う。	恒温槽内の熱変形・ひずみの測定範囲を750×500mm以上に、従来より大幅に拡大させた。これにより、熱変形測定可能な自動車用樹脂部品が増加し、CAEと実測との比較が可能となる。	開発した手法について、3DスキャナやCAE関連の技術相談や研究会及びセミナー等での普及活動を行う。また、得られた物性データを公開する計画である。	—	—		
県単独研究	材料特性データに基づく高張力鋼(ハイテン)板の成形工程削減	継続	単独	R6 ～ R7	自動車軽量化のためハイテン板が増えているが、形状戻り等の問題で金型修正増加が課題である。シミュレーションによる金型形状検証が必須のためハイテン板の物性データを取得し、金型修正工程削減を目標とした。	取得した物性データを元に、研究会会員企業9社の協力でハイテン板の成形シミュレーションを行い、実部品と形状比較・精度検証を行った。結果から精度向上に必要な物性データを採り、更なる精度検証を行う予定。	取得した物性データはプレス・金型企業と共有し、プレス加工や金型製作への適用を進める。	—	—		

- 3 継続及び新規の研究の成果、成果の活用、普及等の状況については、調書調製日現在での成果又は記載される成果及びその活用等を「研究成果」欄、「研究成果の活用及び普及」欄にそれぞれ記載する。
- 4 廃止の研究テーマは、その理由を「研究成果」欄に記載する。
- 5 国庫補助事業及び国の委託事業を「国庫」とし、民間等の委託による研究を「受託」とする。
- 6 試験研究機関が単独で行う研究を「単独」、他の研究機関等と共同で行う研究を「共同」とする。後者の場合は、備考欄に共同研究相手名を記載する。